

多摩川水系河川整備計画【大臣管理区間編】(令和8年2月変更)参考資料集 目次

章	内容	P
5	河川の整備の実施に関する事項	
5 - 1	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 整備内容(案)	5 - 1
	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (4) 築堤・高さ不足・高水護岸	5 - 2
	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (5) 高潮対策 多摩川	5 - 3
	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (6) 水衝部対策 多摩川・浅川	5 - 5
	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (7) 樋門 浅川	5 - 7
	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (8) 高規格堤防 多摩川	5 - 8
	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (9) 防災ステーション・緊急用河川敷道路	5 - 9
	多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (11) 施設管理(許可工作物・施設の検査)	5 - 10
	「治水」、「環境」、「利用」の調和した川づくりの取組(河道掘削)	5 - 11
	河川環境情報図を使用した河川工事事例について	5 - 12
	治水と環境の調和した川づくりの取組(高潮対策)	5 - 13
5 - 2	堤防の質的対策の実施箇所	5 - 14
	水衝部対策の実施箇所	5 - 16
	水衝部対策の実施箇所と流速分布(多摩川)	5 - 17
	水衝部対策の実施箇所事例(浅川)	5 - 34
5 - 3	多摩川水系の氾濫シミュレーションのブロック分割	5 - 43
	氾濫シミュレーション結果	5 - 44
	代表破堤地点	5 - 64
5 - 4	排水作業計画	5 - 65
5 - 5	多摩川における自然再生事業	5 - 70
	河道の二極化対策の実施箇所	5 - 71
	河道の二極化対策①中野島地区	5 - 74
	河道の二極化対策②谷地川合流点地区	5 - 75
	河道の二極化対策③拝島・滝ヶ原地区	5 - 76
	河道の二極化対策④永田地区	5 - 77
	二ヶ領上河原堰における滞留魚対策	5 - 78

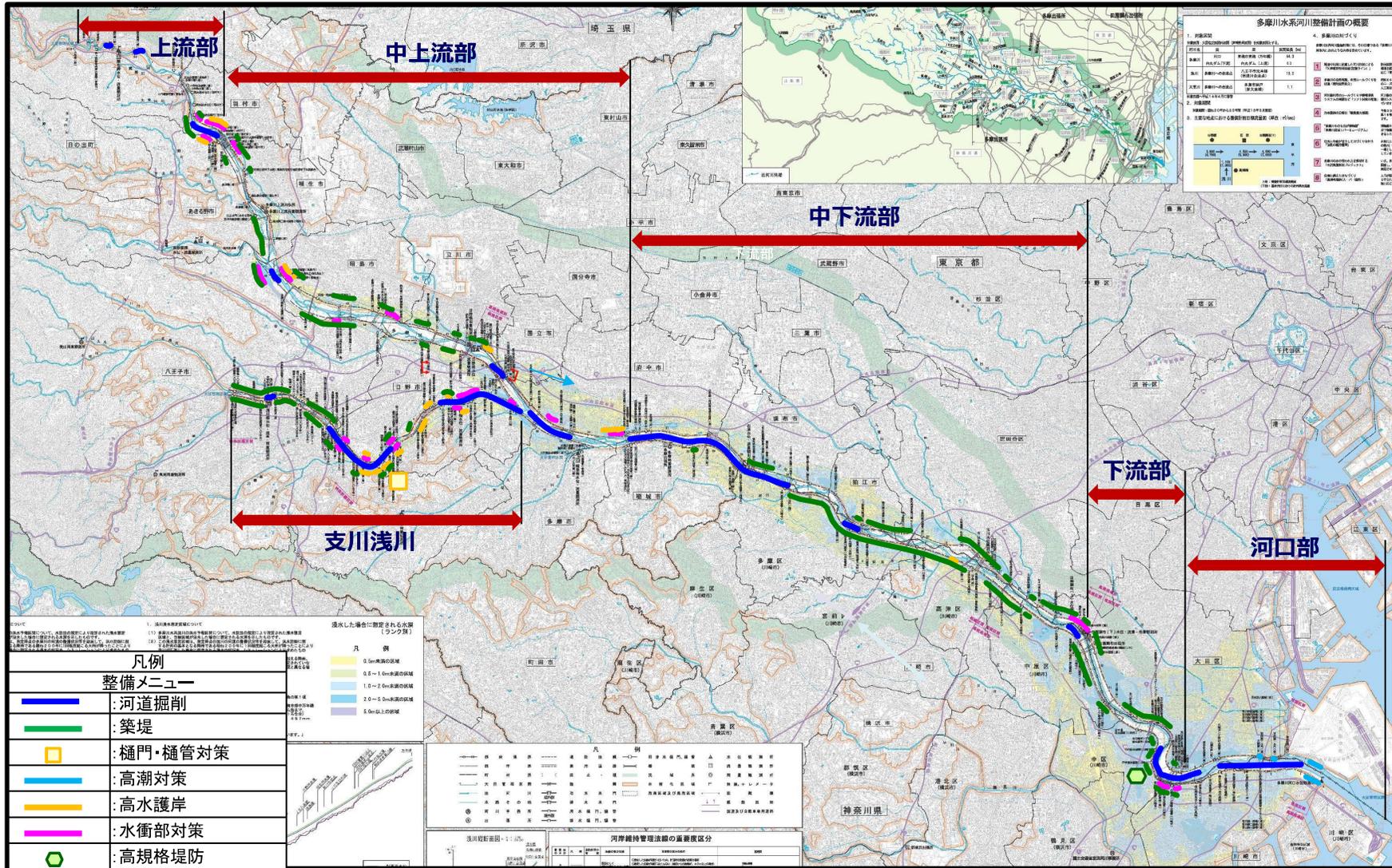
多摩川水系河川整備計画【大臣管理区間編】(令和8年2月変更)参考資料集 目次

章	内容	P
5 - 6	河川環境の定量目標に関するモニタリング計画(案)	5 - 79
	定量目標に関するモニタリングの基本的な考え方	5 - 80
	定量目標のモニタリング計画(ロードマップ)	5 - 81
	モニタリングの方法(1)水辺の国勢調査	5 - 82
	モニタリングの方法(2)市民等が参加した河川環境モニタリング	5 - 83
	モニタリングの方法(3)市民等と連携した河川環境モニタリング	5 - 84
	河道の河床材料が与える繁殖環境への影響(①指標種が好む繁殖環境の例)	5 - 85
	河道の河床材料が与える繁殖環境への影響(②谷地川合流点における粒度分布)	5 - 86
	河道の河床材料が与える繁殖環境への影響(③河床材料調査の省力化)	5 - 87
5 - 7	多摩川水系河川整備計画 参考資料(利用状況マップ)	5 - 88
	多摩川ふれあい施設整備状況	5 - 89
	浅川ふれあい施設整備状況	5 - 107

2. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 整備内容(案)

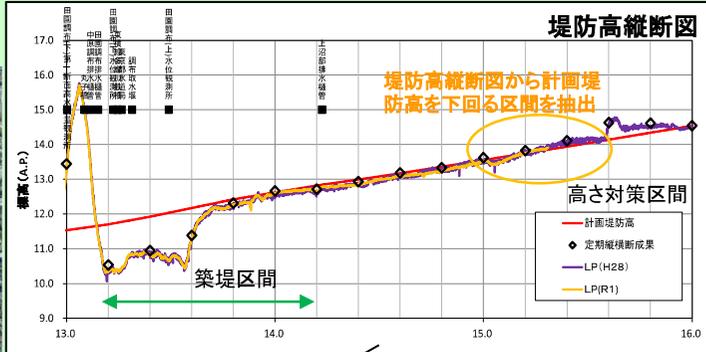
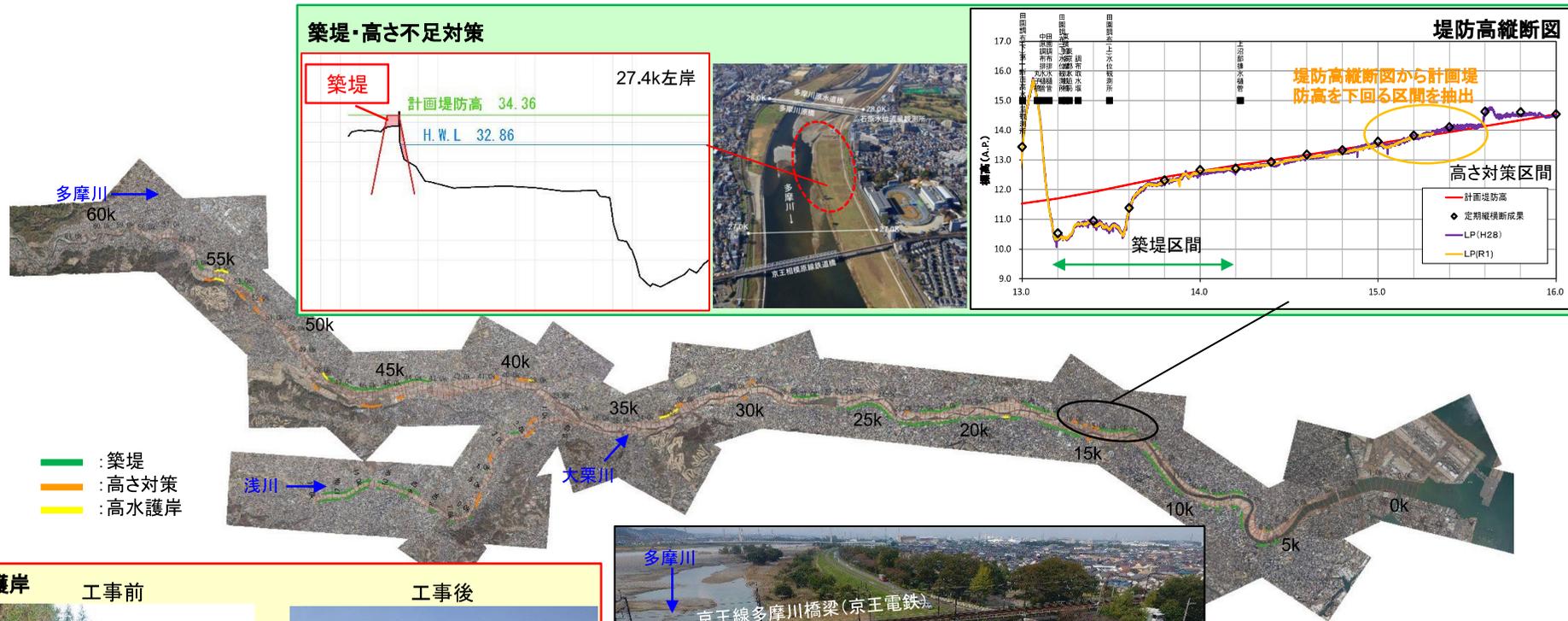
多摩川水系

- 現行の河川整備計画、令和元年東日本台風の被害実績を踏まえた整備内容をベースとして、整備計画目標の洪水を流下可能となるメニューを設定する。



4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (4) 築堤・高さ不足・高水護岸 多摩川水系

- 多摩川、浅川では計画堤防の断面形状に対して幅・高さの不足している区間が残っているため、引き続き築堤を実施し、安全性の向上を図る。また、幅は足しているが高さが不足している区間は、高さ対策を行う。
- 出水時に高流速が発生することで低水部の洗堀が生じる可能性のある区間では高水護岸を整備する。
- 高水護岸設置の際には可能な限り覆土を行い自然河岸の保全・創出を図る。
- 堤防等の安全性向上にあたっては、全川にわたり、緊急性、環境面等を総合的に判断して必要な堤防強化対策を行う。



5-2

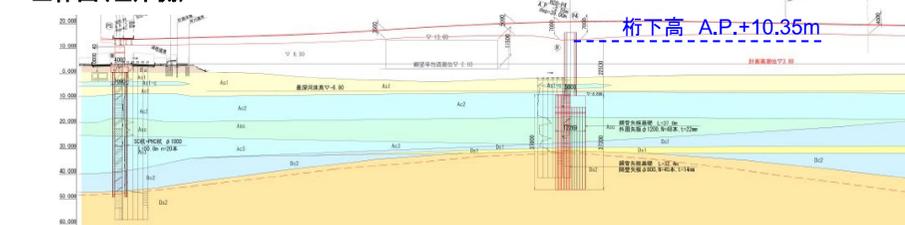
4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (5)高潮対策 多摩川

多摩川水系

- 気候変動を考慮した計画高潮位の検討より、計画高潮位が計画高水位を上回る区間(河口～3.4k)において河川構造物への影響について評価。
- 対象区間には橋梁や水門の他、許可工作物として鉄塔と樋管が合計11施設ある。
- 橋梁については、計画高潮位<桁下高であることを確認、水門については計画高潮位<ゲート高となっていることを確認。ただし、計画高潮位の増加に伴う水圧の増加に対する構造物の安全性については照査を実施する。
- その他の施設(鉄塔、樋管)についても、計画高潮位の上昇に伴う水圧の増加による安全性の照査等が必要となる。
- 超過洪水時に機能に支障が生じる可能性のある施設は、できるだけ速やかに超過洪水時にも機能が発揮できるような対策を講じていく必要がある。

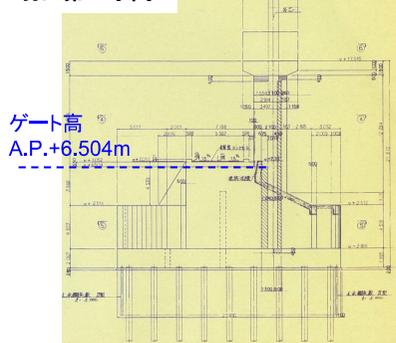
	施設名称	距離標	計画高潮位	桁下高
1	多摩川スカイブリッジ	左右0.8k	A.P.+4.5m	右A.P.+10.35m 左A.P.+13.602m
2	大師橋	左2.4k-41m～右2.6k-41m	A.P.+4.5m	右A.P.+5.57m 左A.P.+10.45m
3	高速道路横浜羽田空港線橋梁	左2.4k-8m～右2.4k-60m	A.P.+4.5m	右A.P.+13.757m 左A.P.+10.395m

多摩川スカイブリッジ
全体図(左岸側)

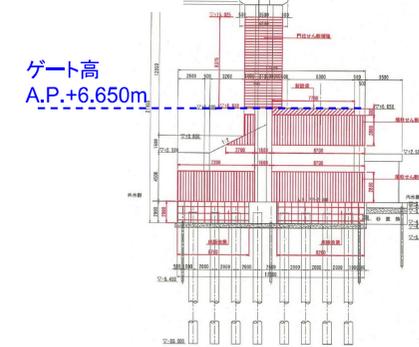


	施設名称	距離標	計画堤防高	ゲート高
1	羽田第一水門	左1.8k	A.P.+6.5	A.P.+6.504
2	羽田第二水門	左2.4k	A.P.+6.5	A.P.+6.650

羽田第一水門

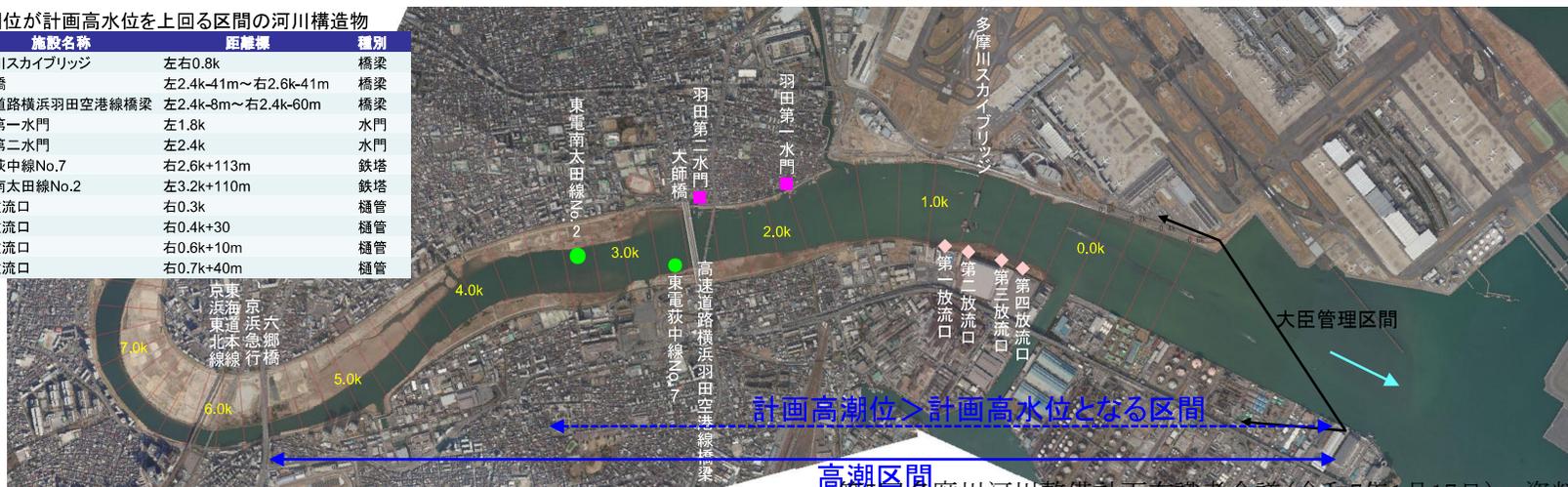


羽田第二水門



計画高潮位が計画高水位を上回る区間の河川構造物

施設名称	距離標	種別
1 多摩川スカイブリッジ	左右0.8k	橋梁
2 大師橋	左2.4k-41m～右2.6k-41m	橋梁
3 高速道路横浜羽田空港線橋梁	左2.4k-8m～右2.4k-60m	橋梁
4 羽田第一水門	左1.8k	水門
5 羽田第二水門	左2.4k	水門
6 東電荻中線No.7	右2.6k+113m	鉄塔
7 東電南太田線No.2	左3.2k+110m	鉄塔
8 第4放流口	右0.3k	樋管
9 第3放流口	右0.4k+30	樋管
10 第2放流口	右0.6k+10m	樋管
11 第1放流口	右0.7k+40m	樋管



5-4

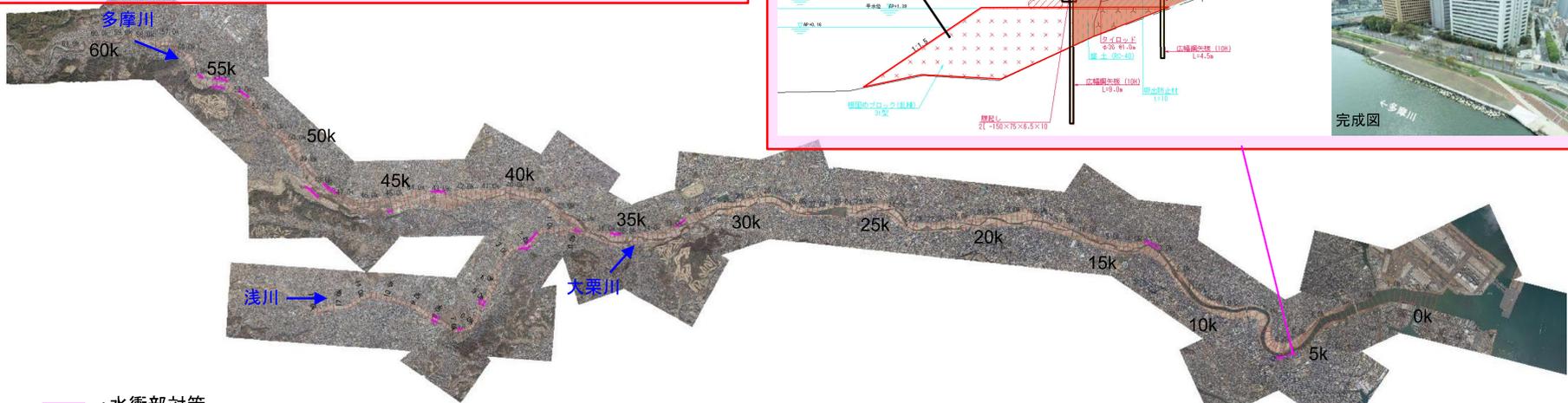
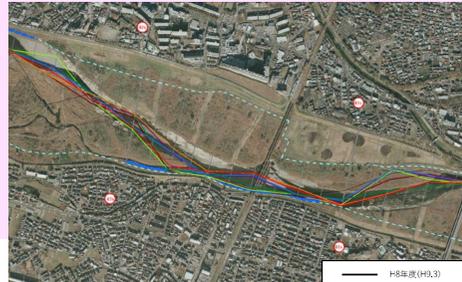
高潮区間

4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (6)水衝部対策 多摩川・浅川 多摩川水系

- 河川の流況等により堤防防護に必要な河川敷幅が確保できない区間や、護岸の安定性評価の結果から対策が必要と判断された区間において、水衝部対策を実施する。
- 水衝部対策を行う際には、生物の生息・繁殖場となる多孔質環境の創出可能な異型ブロックや袋詰め玉石等の設置を図る。

水衝部対策(上流区間)

- ・ 滞筋は経年的に左岸の大きな砂州を回り込むように形成されており、右岸側は常に水衝部となっている。
- ・ 土丹が存在する区間であり、護岸の基礎は主に岩着の形式で整備している。



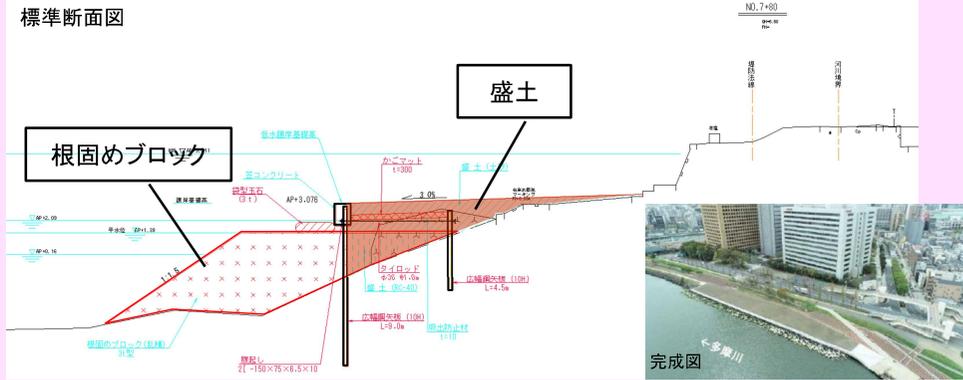
5-5 :水衝部対策

水衝部対策(下流区間)

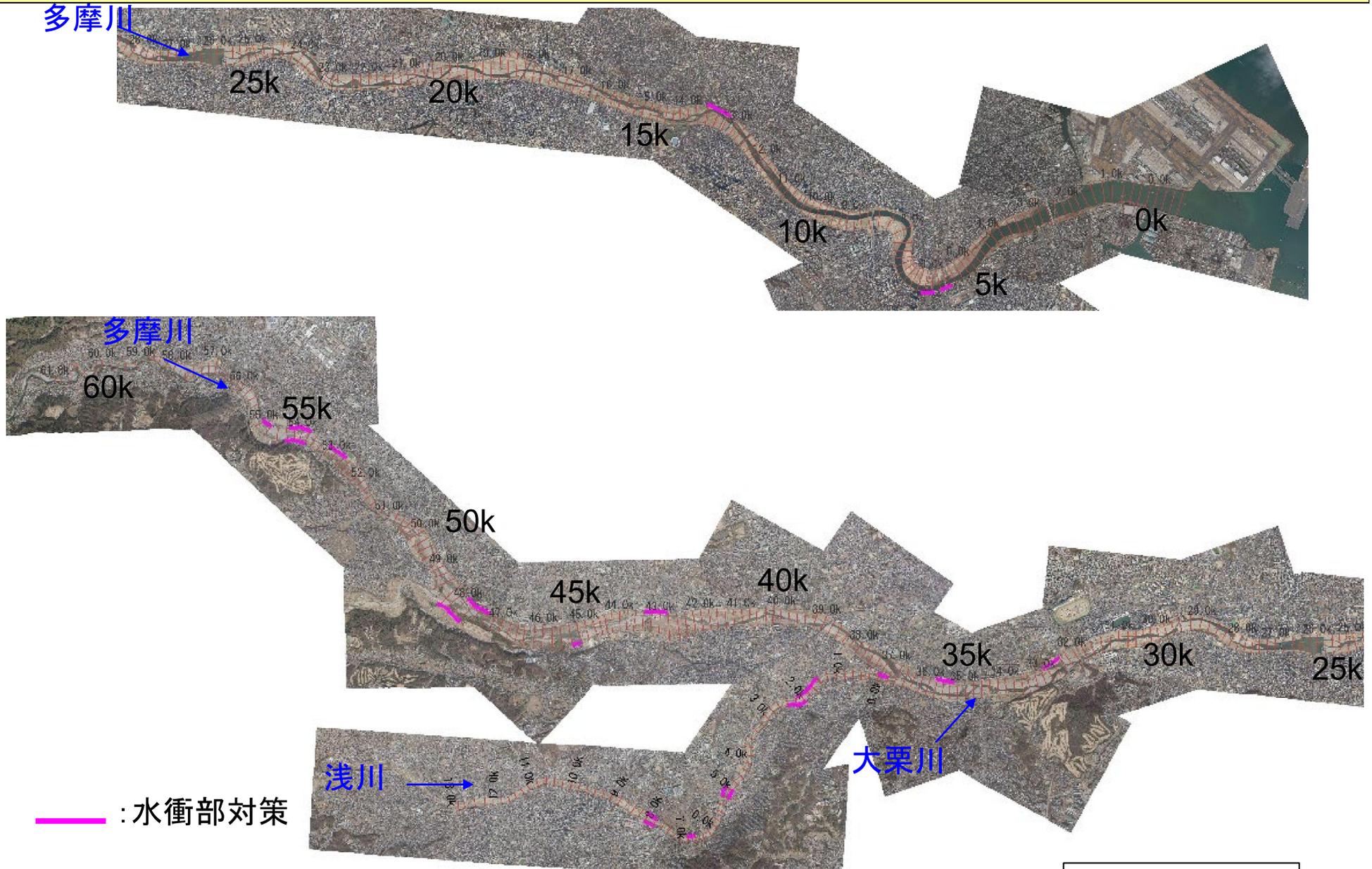
- ・ 湾曲外岸側の水衝部となっており、洪水による堤防侵食を防止するため護岸の整備を準備している。



標準断面図



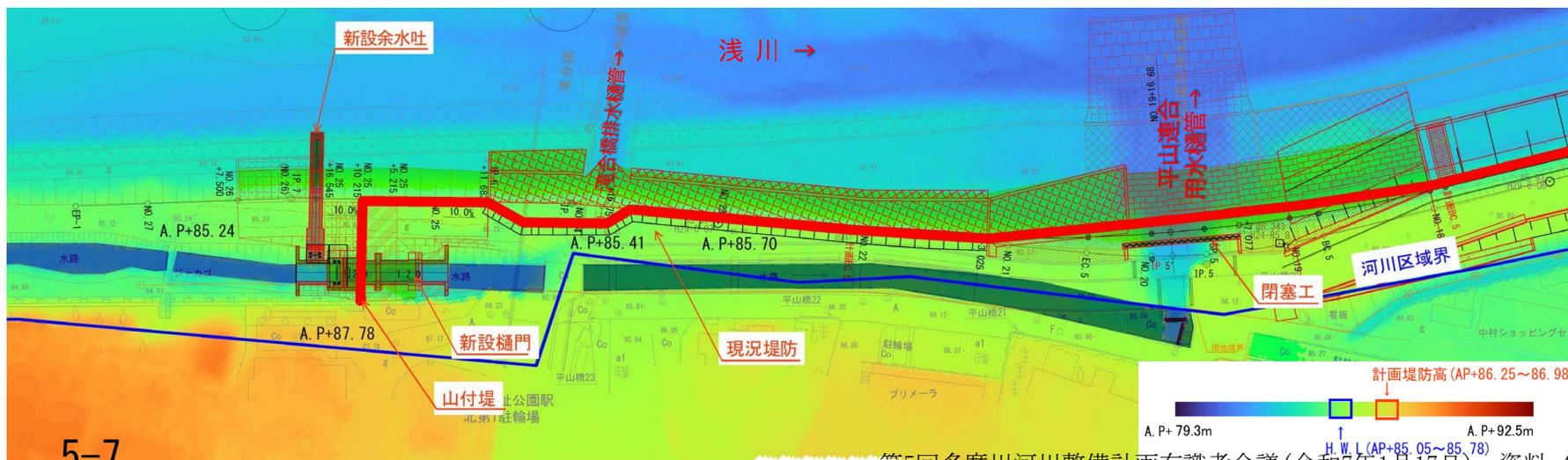
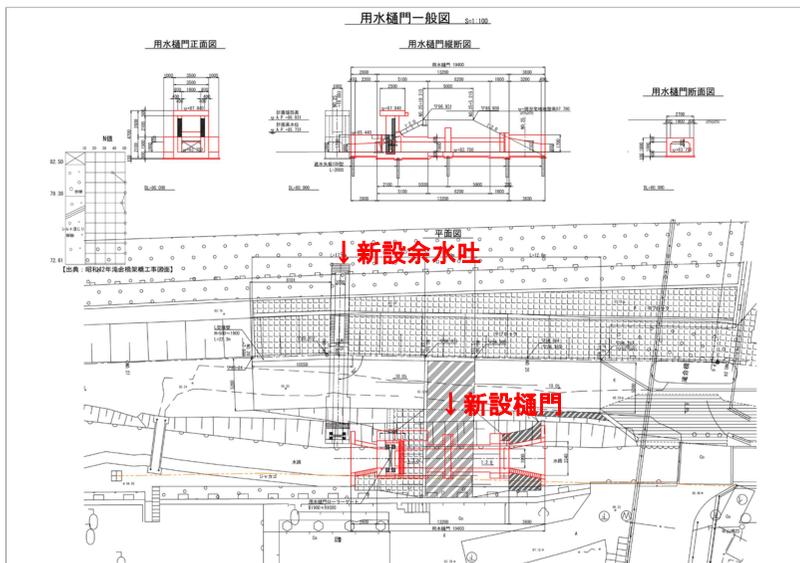
4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (6)水衝部対策 多摩川・浅川 多摩川水系



4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (7)樋門 浅川

多摩川水系

- 浅川右岸5.9k付近の築堤に伴い、堤外のかんがい用水路を横断するため、水路横断部に新設樋門を設置するもの。なお、現余水吐機能を有する下流側5.8kの施設は廃止し、新設樋門の上流側に機能を移設する。

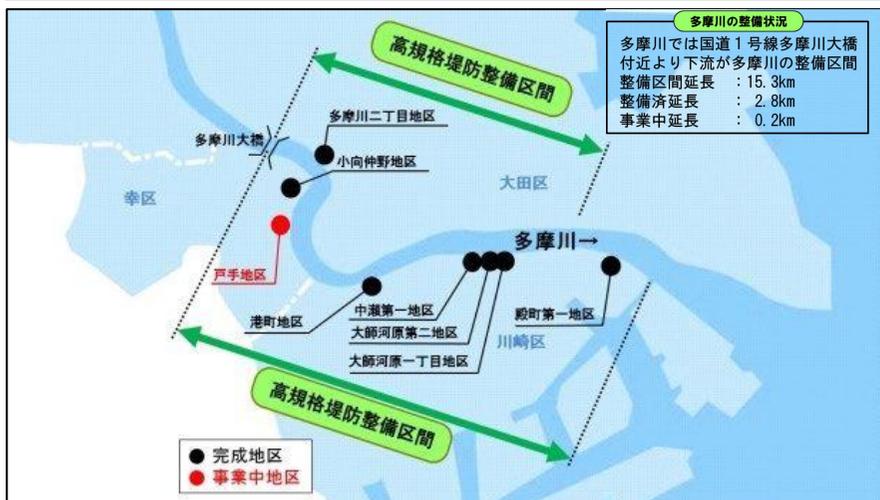


5-7

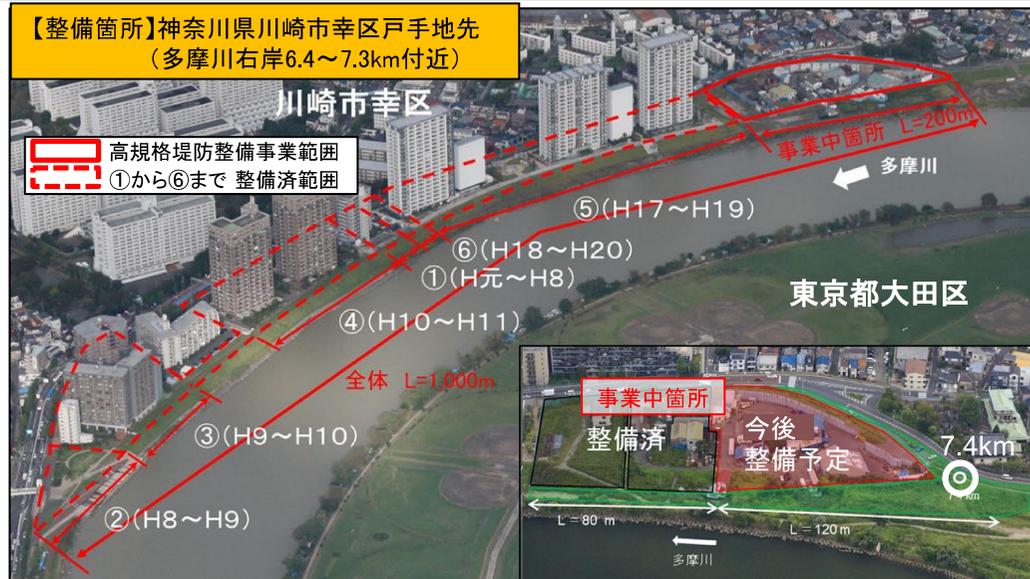
4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (8) 高規格堤防 多摩川

多摩川水系

- 戸手地区(川崎市幸区)が位置する多摩川下流部は、一旦堤防が決壊すれば市街地が浸水し、甚大な被害が生じる。また、当地区は堤防が背後に整備されている堤外保全区域で住工業混在密集地となっており、過去幾度となく浸水被害が発生している。
- 劣悪な居住環境の改善や防災安全面の向上、また、川崎市中心街の治水安全度の向上を目的として、民間開発事業や川崎市の事業(船着場・歩道整備等)、土地区画整理事業(地権者:個人施行)と一体的に高規格堤防の整備を実施している。



多摩川高規格堤防整備状況図



戸手地区高規格堤防の概要



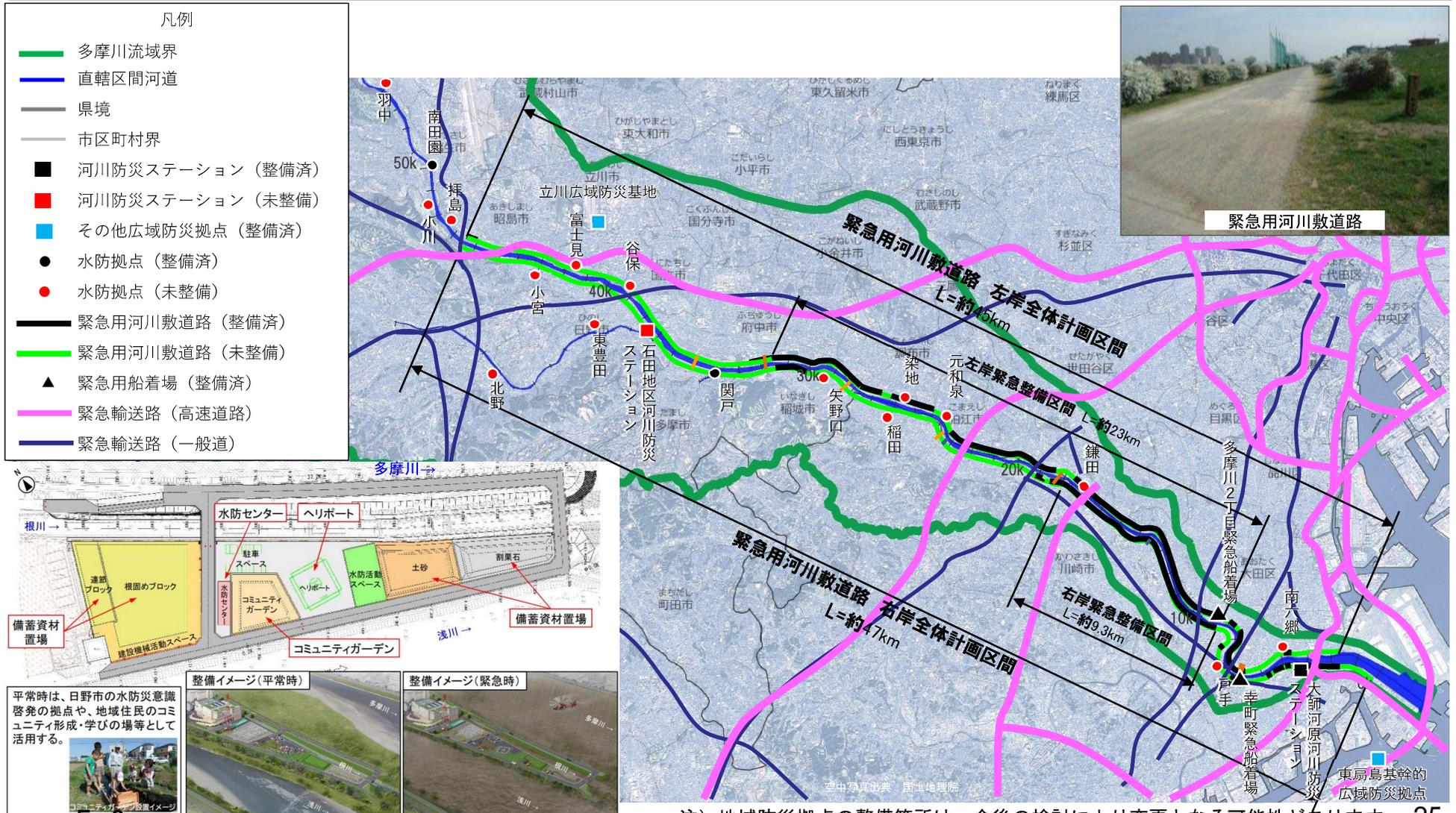
令和元年東日本台風時における戸手地区の被害状況



第5回多摩川河川整備計画有識者会議(令和7年11月17日) 資料-4-1

4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (9)防災ステーション・緊急用河川敷道路 多摩川水系

- 洪水時には氾濫被害を最小限に抑える活動拠点となり、震災時には被害の円滑な復旧・復興の支援拠点となる「河川防災ステーション」や「水防拠点」を関係自治体と連携して整備する。
- 災害時の河川管理施設および一般被災地の早期復旧、避難民の速やかな救援活動のために、河川敷に緊急用河川敷道路を整備します。



4. 多摩川水系河川整備計画変更の考え方 (11) 施設管理(許可工作物・施設の検査) 多摩川水系

- 京浜河川事務所では、河川管理者(京浜河川事務所)の許可を受け、自治体等が設置・管理している堰、樋管等の構造物(許可工作物)について、年に1度、施設管理者の立ち会いの下、適切な維持管理が行われているか検査を実施し、改善などが必要であれば、施設管理者へ指導を行います。
- なお、多摩川では218施設の許可工作物が設置されており、流域内の利水ダム等大規模施設(2施設)についても、3年~5年に1度の検査を行っています。



①基本条件の設定

治水

- 各区間において安全に流下させる目標となる洪水流量を設定
- 洪水時の洗堀等に堪えうるよう施設の構造や形状の要件を設定

環境

- 各区間の指標生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出目標を確認
- ⑧空間や河川環境管理シートにおける「良好な景観を有する区間」等をふまえてコントロールポイントを設定

利用・良好な景観

(人と河川と豊かな触れ合い活動の場の維持・形成)

- 「多摩川の景観形成の考え方」を参考に各区間での方針の確認
- 河川利用の実態や今後の利活用方針をふまえてコントロールポイントを設定
- 自然的なレクリエーション(散策、サイクリング等)の場の保全

②掘削断面の設定

以下の視点が統合的に達成できるよう、必要に応じて反復的に検討を実施

各区間における治水目標流量を流下させる断面設定

整備計画の目標流量規模の洪水を安全に流下させるための河道断面を水理解析(不等流計算)より設定

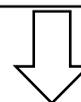
生息・生育・繁殖の場の創出・保全を考慮した断面設定

環境目標において設定した指標生物種の生息・生育・繁殖の場が、できる限り創出され、また、保全されるために必要な断面形状を設定

利用・景観への影響確認・調整

(人と河川と豊かな触れ合い活動の場の維持・形成)

景観形成の方針と整合を図る。また、高水敷利用への影響を確認したうえで、必要に応じて利用調整を行う。なお、利用と自然環境との調和を図り、良好な活動の場を維持する。



過去の実績を踏まえ、洪水時の土砂移動等により河道の変動性が高い区間については、数値解析等により河道の応答を確認

③掘削断面を設定

- 「河川環境情報図」とは、河川整備・管理を行う際に必要となる河川環境に関する情報を適切に把握することを目的として、河床形態や植生の状況、生物の確認状況、生物の生息・生育環境、河川環境の特徴などを分かりやすく図面上に整理したものです。
- 河川工事着手前に、施工業者が作成する施工計画書を河川管理者及び環境団体にも情報提供し、河川環境情報図を用いて、当該箇所での留意すべき生物の有無を確認するとともに、現地を三者で立ち会います。
- 立ち会った際に確認された重要種とその生育基盤となる土壌について、一時的に移設し工事完了後に元の位置に戻すなど施工業者に指導しています。

河川環境情報図

※この図は、希少種の確認位置に関する情報であることから非公開としたものです

- : 貴重種の確認範囲・箇所
- ▨ : 施工範囲・作業ヤード
- : 貴重種を保全した箇所
- : 貴重種を移植した箇所

※図では、主な場所を示しています



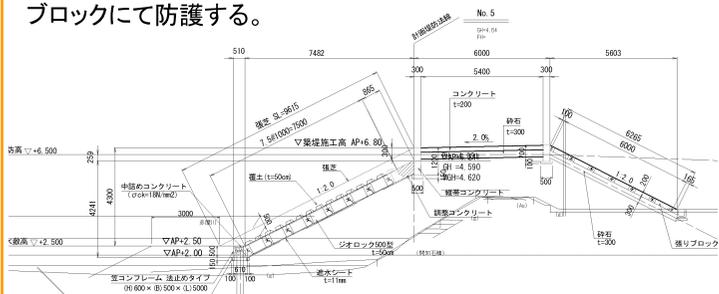
工事着手前の河川環境団体との合同調査

治水と環境の調和した川づくりの取組(高潮対策)

■ 多摩川の高潮区間(河口～六郷橋)において高潮堤防の断面形状に対して高さ又は幅が不足している区間等について、嵩上げ又は拡幅を行う。また、波のうちあげ高が計画堤防高を上回る区間(左岸0.0～0.8k、右岸0.0～0.6k)においては、低水路への消波堤設置により消波対策を行いつつ、干潟やヨシ原に生息する生物の生息・生育・繁殖環境の場の創出を促進する。

整備方法①:土構造+三面張りによる整備

土堤を基本として、堤防計画断面を確保する。川表側法覆ブロックにおいては、覆土可能なブロックを設置する。天端及び川裏側についてもコンクリートやブロックにて防護する。



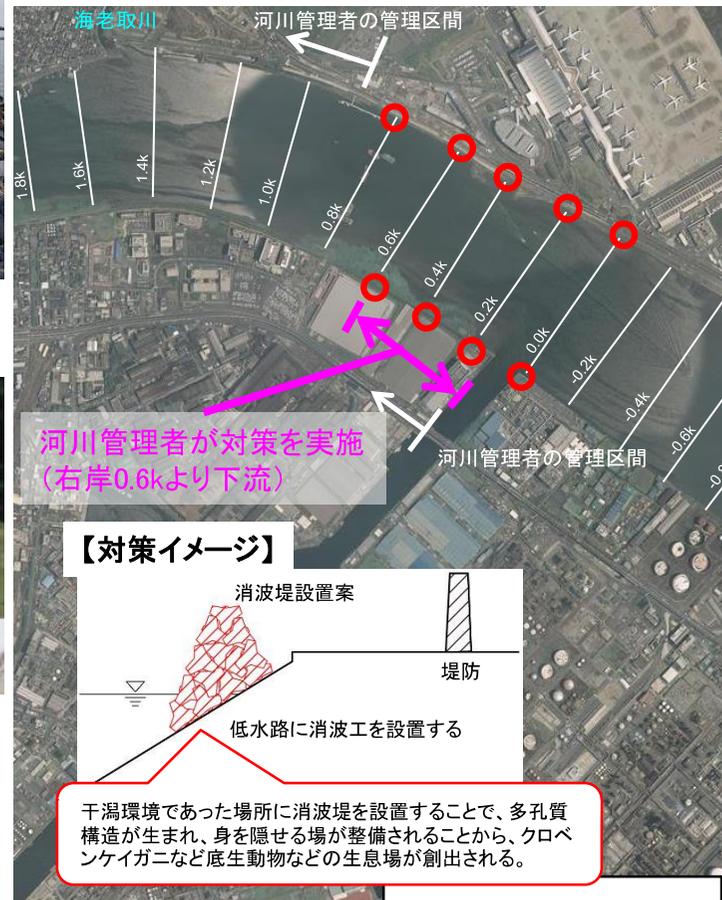
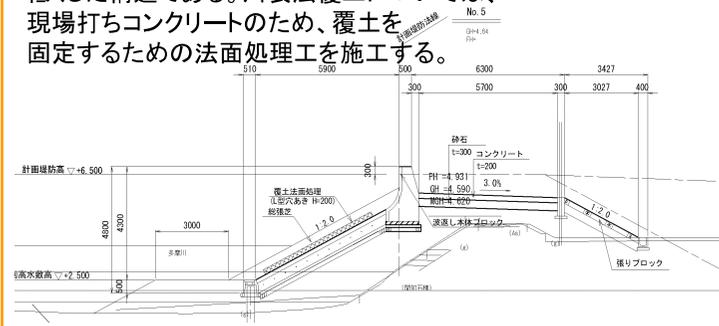
矢板護岸前面に捨石を配置(旧北上川)
写真:北上川下流河川事務所提供資料



矢板護岸前面に根固めブロック及び
詰め根固めを設置(多摩川)

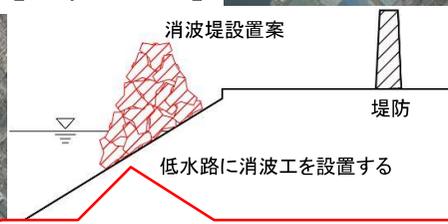
整備方法②:一部波返しによる整備

川裏用地に制約がある場合、波返し構造のパラペットを設置し、管理用通路高さを1m程度低くした構造である。川表側法覆工については、現場打ちコンクリートのため、覆土を固定するための法面処理工を施工する。



河川管理者が対策を実施
(右岸0.6kより下流)

【対策イメージ】



干潟環境であった場所に消波堤を設置することで、多孔質構造が生まれ、身を隠せる場が整備されることから、クロベンケイガニなど底生動物などの生息場が創出される。

○ 天端高不足区間
(計画堤防高<うちあげ高)

高潮堤防の整備は、①土堤による三面張り、あるいは、②波返し設置によるパラペット構造を設定している。原則①とするが、川裏用地に制約がある場合など、堤内側の条件により②の採用箇所もある。

【第7回No.1補足資料】堤防の質的対策の実施箇所（1/2）

多摩川水系

- 堤防の質的対策として、水衝部対策、高水護岸を以下の整備理由により実施する予定である。堤防の耐震対策については、照査の結果、堤防の対策は必要ないが、三沢川水門の耐震対策を実施する。
- 堤防の浸透対策は、現状の概略点検では、洪水時のすべり破壊の安全率が基準を満たさない箇所が一部あるが、安全率は概ね1を超えており、緊急性が低いことから、必要に応じて詳細な調査・検討を行う。

整備計画における水衝部対策箇所（案）

河川名	左右岸	区間	始点	終点	延長(km)	整備理由
多摩川	右岸	川崎市川崎区旭町～川崎市川崎区本町	5.55	5.80	0.25	高水敷幅狭小箇所のため高水敷の拡幅が必要
		川崎市川崎区本町～川崎市幸区堀川町	6.00	6.26	0.26	
		昭島市大神町	45.25	45.36	0.13	
		八王子市高月町	47.80	48.40	0.63	堰周辺の堤防強化
		あきる野市羽	53.80	54.30	0.35	
	左岸	大田区田園調布	13.20	13.40	0.25	高水敷幅狭小箇所のため高水敷の拡幅が必要
		大田区田園調布	13.40	13.60	0.33	堰周辺の堤防強化
		府中市是政	32.40	32.88	0.47	高水敷幅狭小箇所のため高水敷の拡幅が必要
		府中市四谷	35.30	35.80	0.39	
		昭島市福島町	42.85	43.35	0.50	堰周辺の堤防強化
		昭島市拝島町	47.40	48.00	0.60	高水敷幅狭小箇所のため高水敷の拡幅が必要
		あきる野市草花	52.80	53.20	0.44	堰周辺の堤防強化
		羽村市玉川～羽村市羽中	53.80	54.20	0.40	堤防防護の必要幅を確保不可
		羽村市羽中	54.20	54.30	0.10	
羽村市羽加美	54.80	55.00	0.21	護岸未整備箇所		
浅川	右岸	日野市高幡～日野市南平	2.20	2.60	0.42	河道掘削により整備が必要
		日野市平山	5.20	5.40	0.20	
		八王子市北野町	8.00	8.20	0.22	
	左岸	日野市大字石田	0.00	0.20	0.20	
		日野市万願寺	1.60	2.30	0.64	
		日野市豊田～日野市東平山	5.20	5.40	0.24	
		日野市西平山	6.80	7.00	0.16	
		日野市西平山	8.00	8.20	0.23	

【第7回No.1補足資料】堤防の質的対策の実施箇所（2/2）

多摩川水系

整備計画における高水護岸箇所（案）

河川名	左右岸	区間	始点	終点	延長(km)	整備理由
多摩川	右岸	川崎市高津区久地	18.60	18.80	0.30	支川合流部処理
		あきる野市羽	53.80	54.30	0.50	
	左岸	府中市是政	32.40	33.30	0.10	堰周辺の堤防強化
		国立市谷保	39.21	39.40	0.19	
		昭島市拝島町	47.67	48.00	0.33	
		羽村市玉川～羽村市羽中	53.80	54.30	0.50	
浅川	右岸	日野市高幡	1.90	2.00	0.10	工事履歴なし+流速5m/s以上
		日野市東豊田～日野市豊田	3.90	4.30	0.40	
		日野市平山	5.40	5.60	0.20	
		八王子市長沼町	6.20	6.35	0.15	
		八王子市長沼町	6.41	7.00	0.59	
	左岸	日野市万願寺	2.40	2.44	0.04	
		日野市東豊田	3.40	3.60	0.20	
		日野市西平山	6.80	7.00	0.20	

(3)水衝部対策の実施箇所

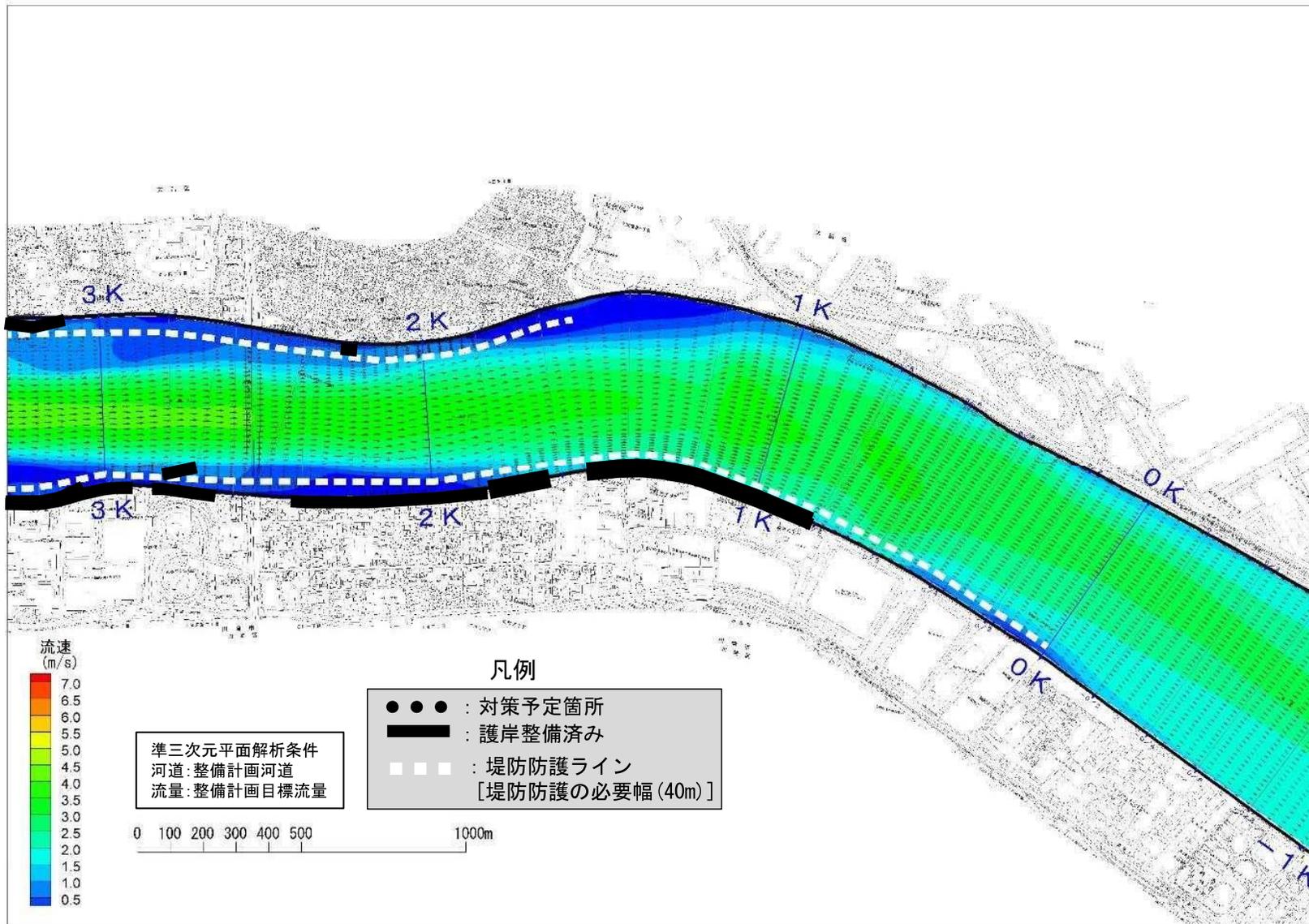
多摩川水系

- 多摩川では15区間、浅川では8区間において水衝部対策を実施する予定である。
- 洪水時の流速ベクトル図と水衝部対策箇所の重ね合わせより、水衝部対策実施箇所は湾曲の外岸側や構造物(堰)周りなど、高流速が生じている箇所であることが確認された。

整備計画における水衝部対策箇所(案)

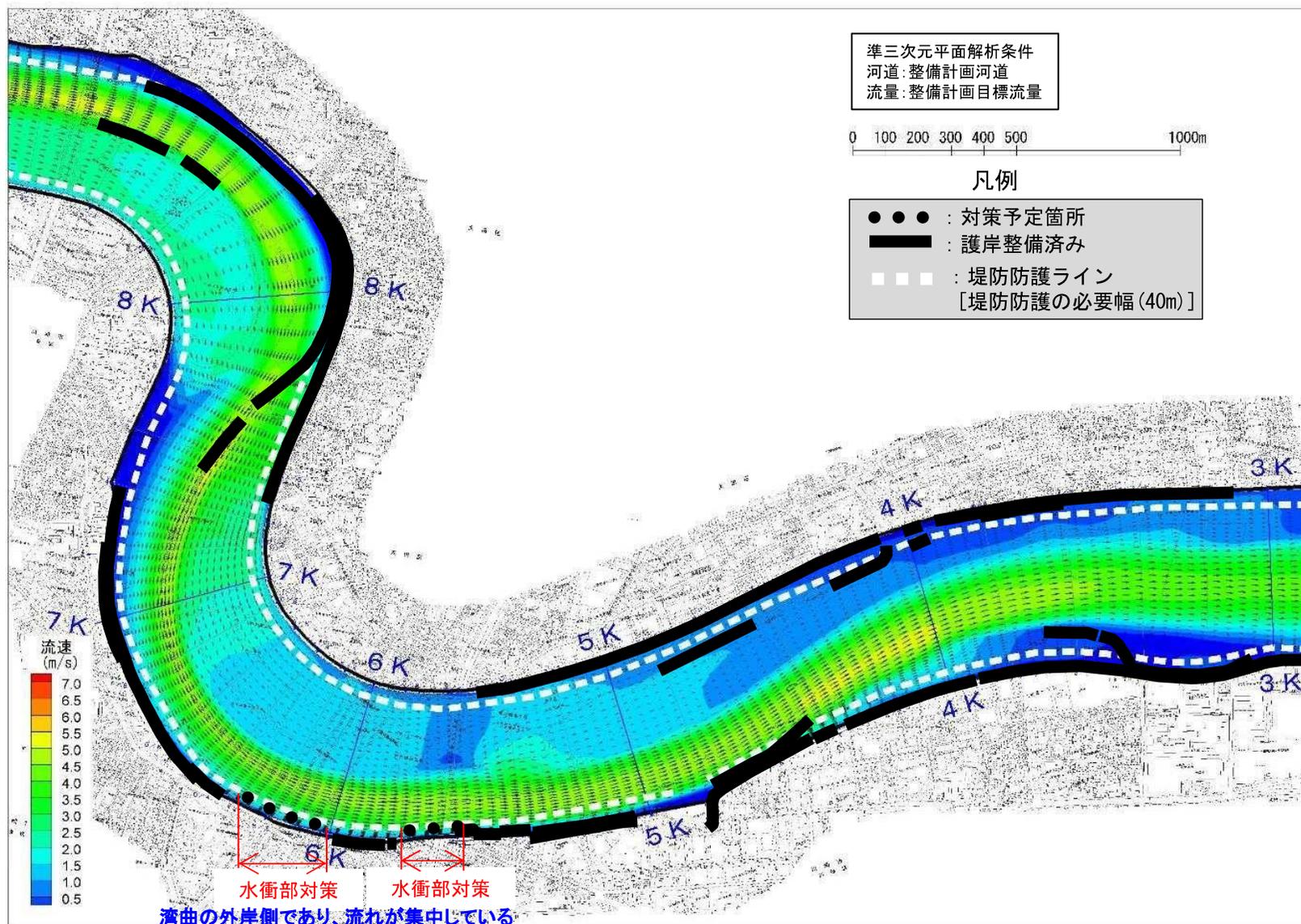
		区間	始点	終点	延長 (km)
多摩川	右岸	川崎市川崎区旭町～川崎市川崎区本町	5.55	5.80	0.25
		川崎市川崎区本町～川崎市幸区堀川町	6.00	6.26	0.26
		昭島市大神町	45.25	45.36	0.13
		八王子市高月町	47.80	48.40	0.63
		あきる野市羽	53.80	54.30	0.35
	左岸	大田区田園調布	13.20	13.40	0.25
		大田区田園調布	13.40	13.60	0.33
		府中市是政	32.40	32.88	0.47
		府中市四谷	35.30	35.80	0.39
		昭島市福島町	42.85	43.35	0.50
		昭島市拝島町	47.40	48.00	0.60
		あきる野市草花	52.80	53.20	0.44
		羽村市玉川～羽村市羽中	53.80	54.20	0.40
		羽村市羽中	54.20	54.30	0.10
羽村市羽加美	54.80	55.00	0.21		
浅川	右岸	日野市高幡～日野市南平	2.20	2.60	0.42
		日野市平山	5.20	5.40	0.20
		八王子市北野町	8.00	8.20	0.22
	左岸	日野市大字石田	0.00	0.20	0.20
		日野市万願寺	1.60	2.30	0.64
		日野市豊田～日野市東平山	5.20	5.40	0.24
		日野市西平山	6.80	7.00	0.16
		日野市西平山	8.00	8.20	0.23

(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



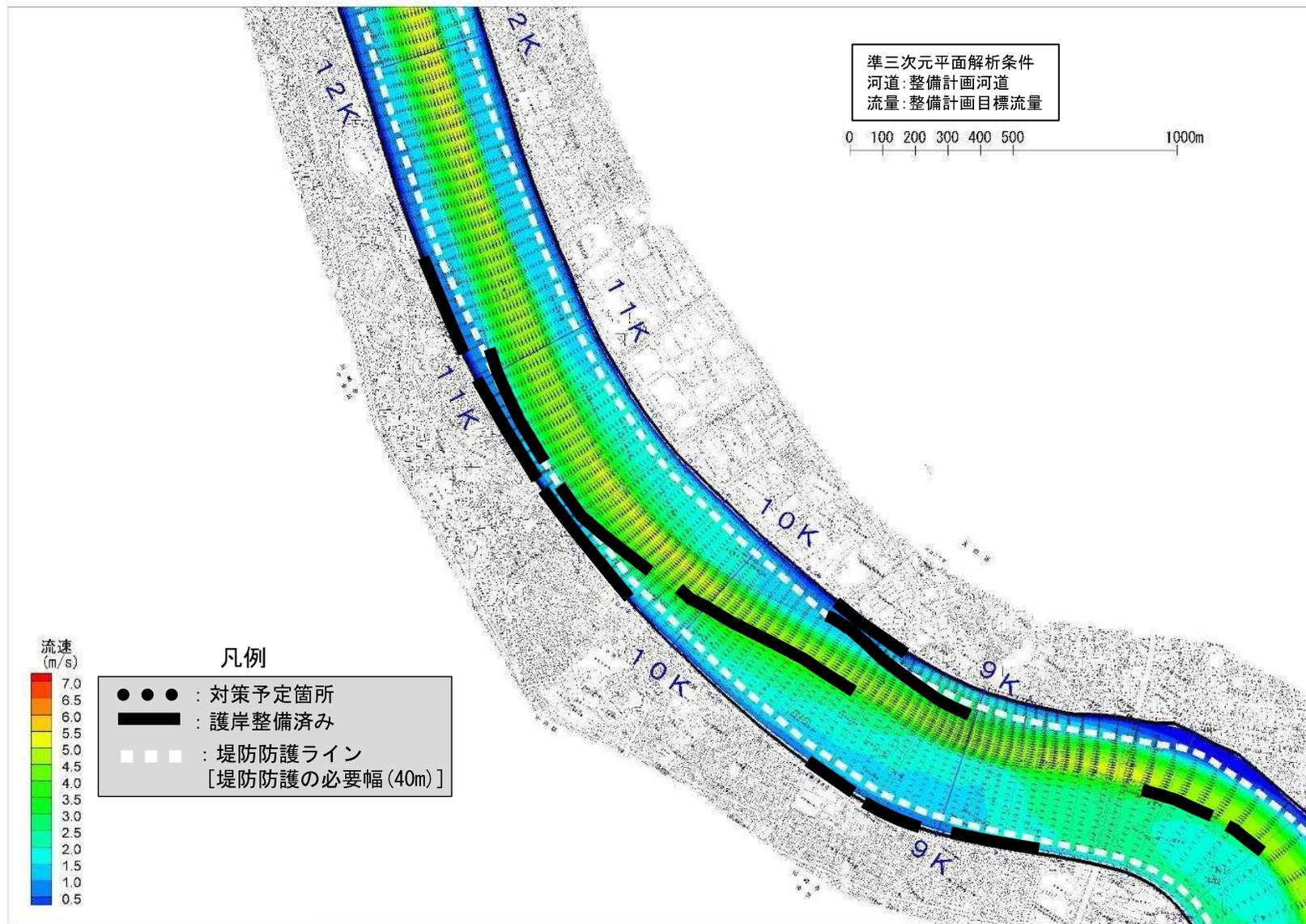
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布

多摩川水系

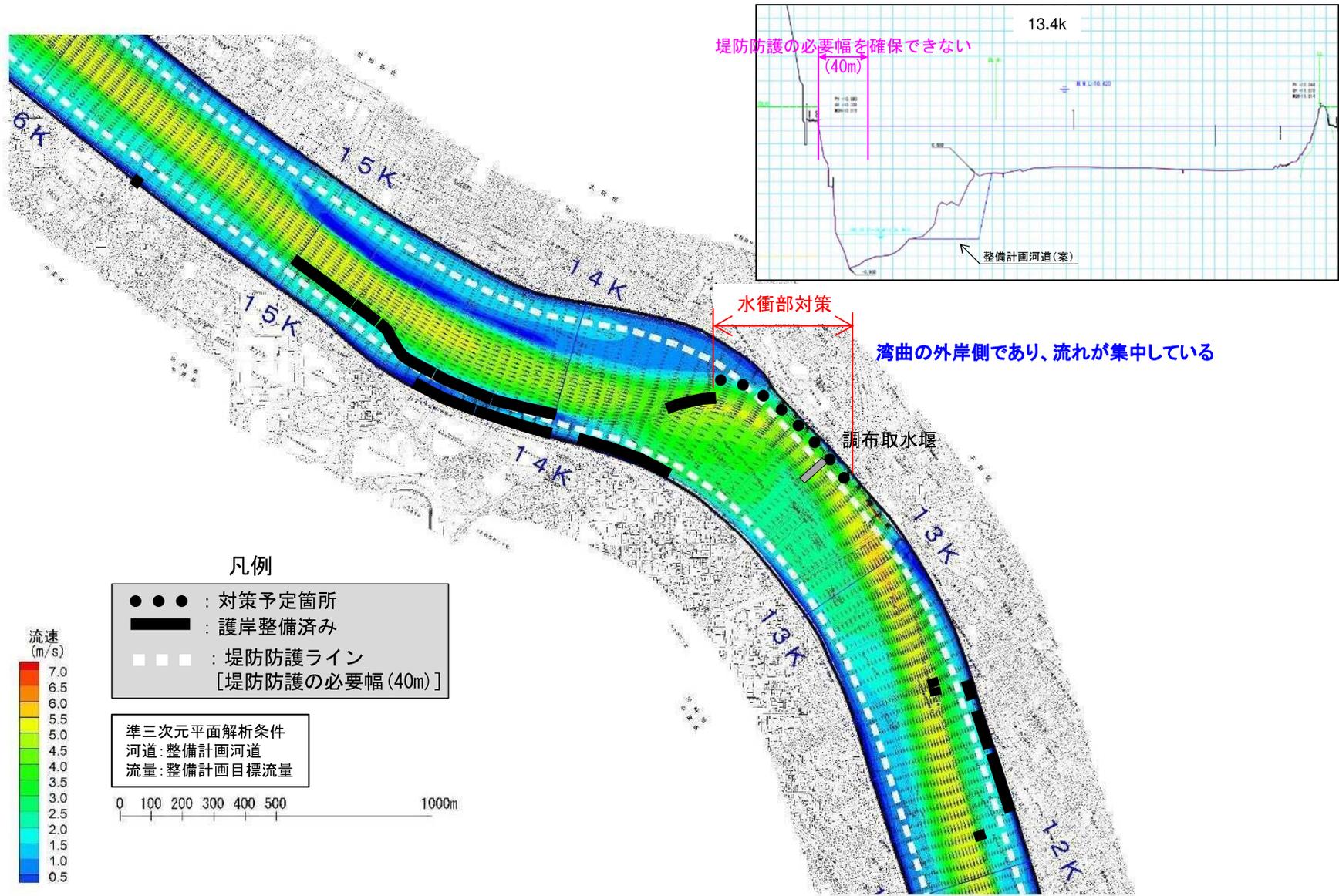


(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布

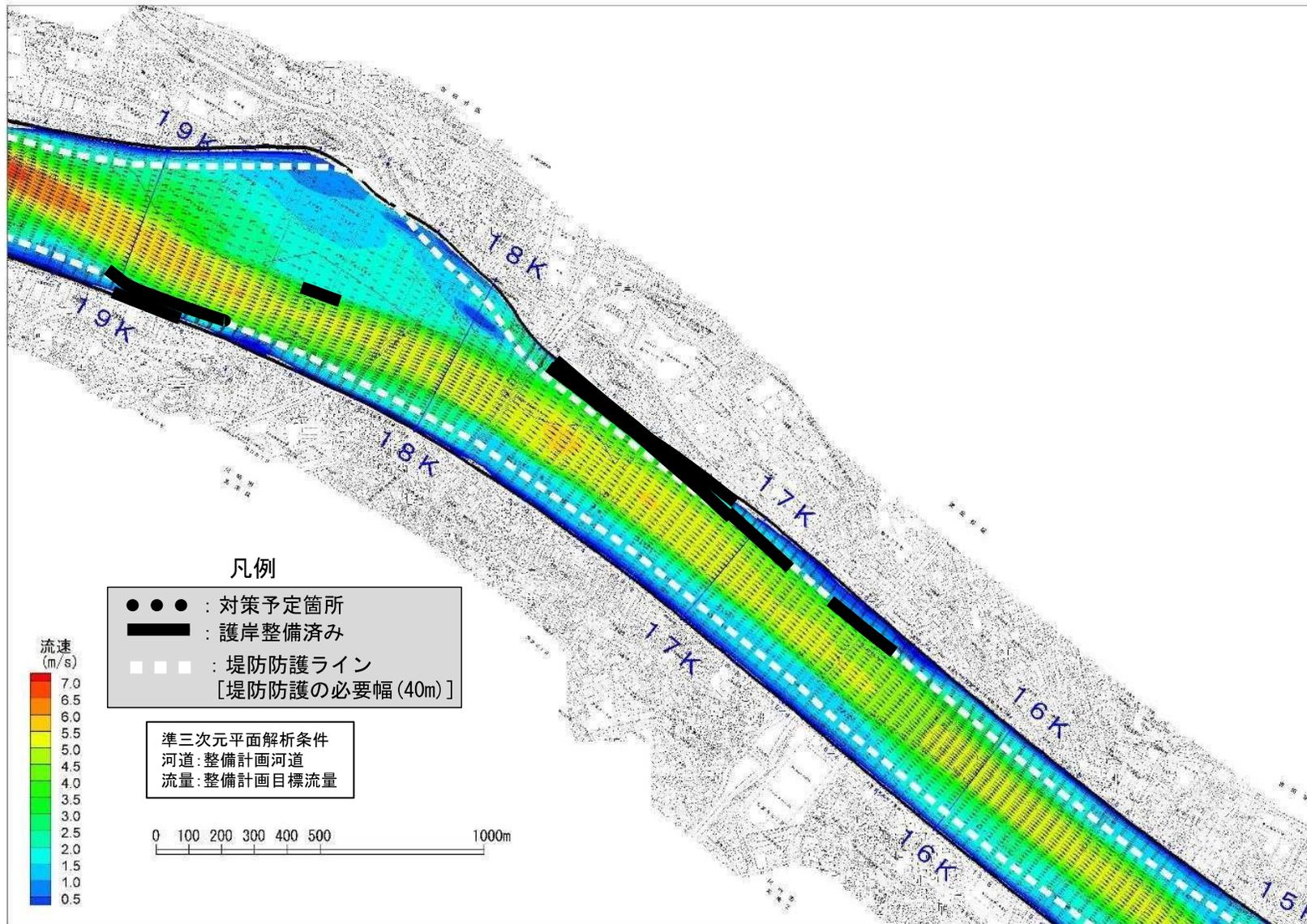
多摩川水系



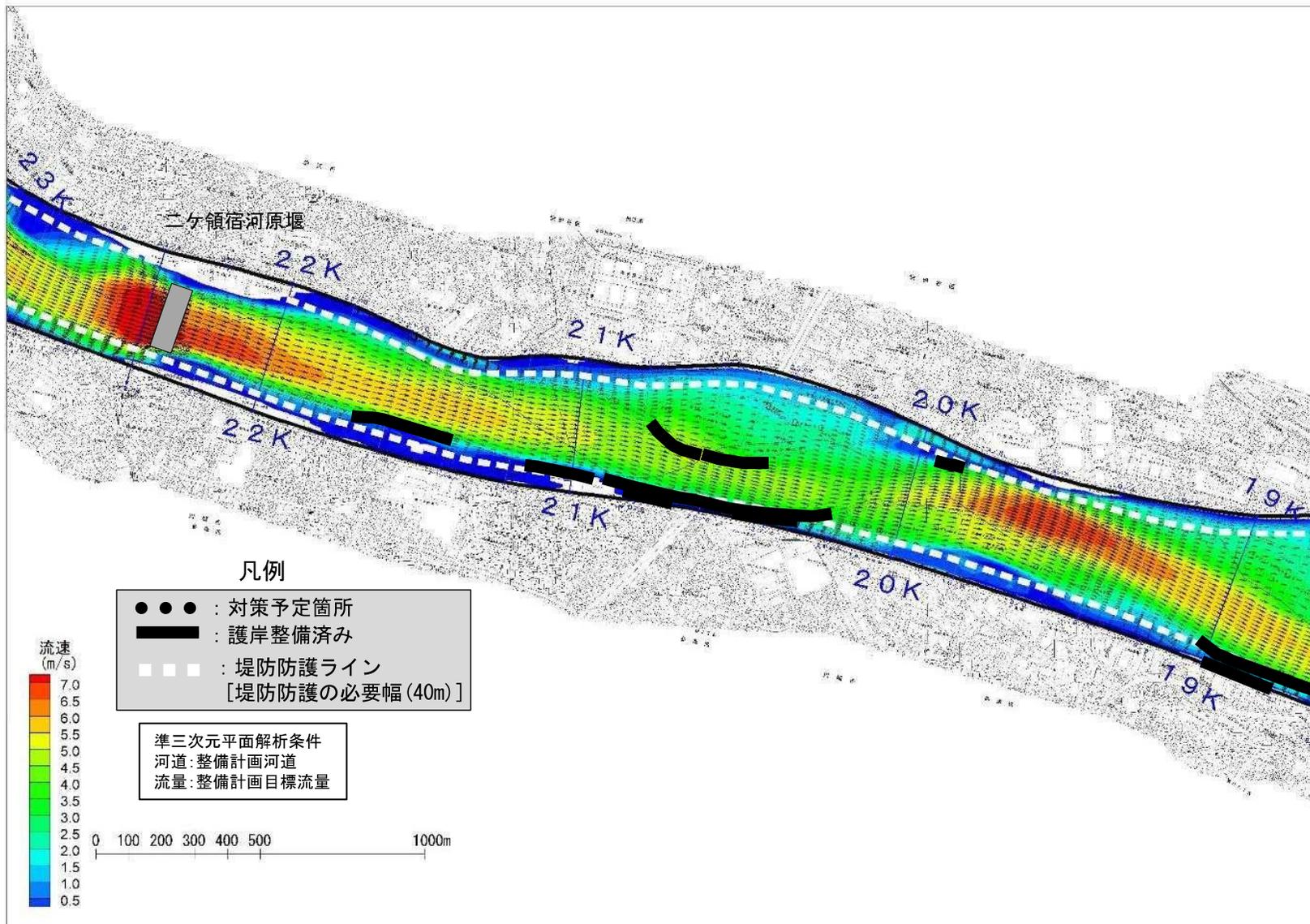
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



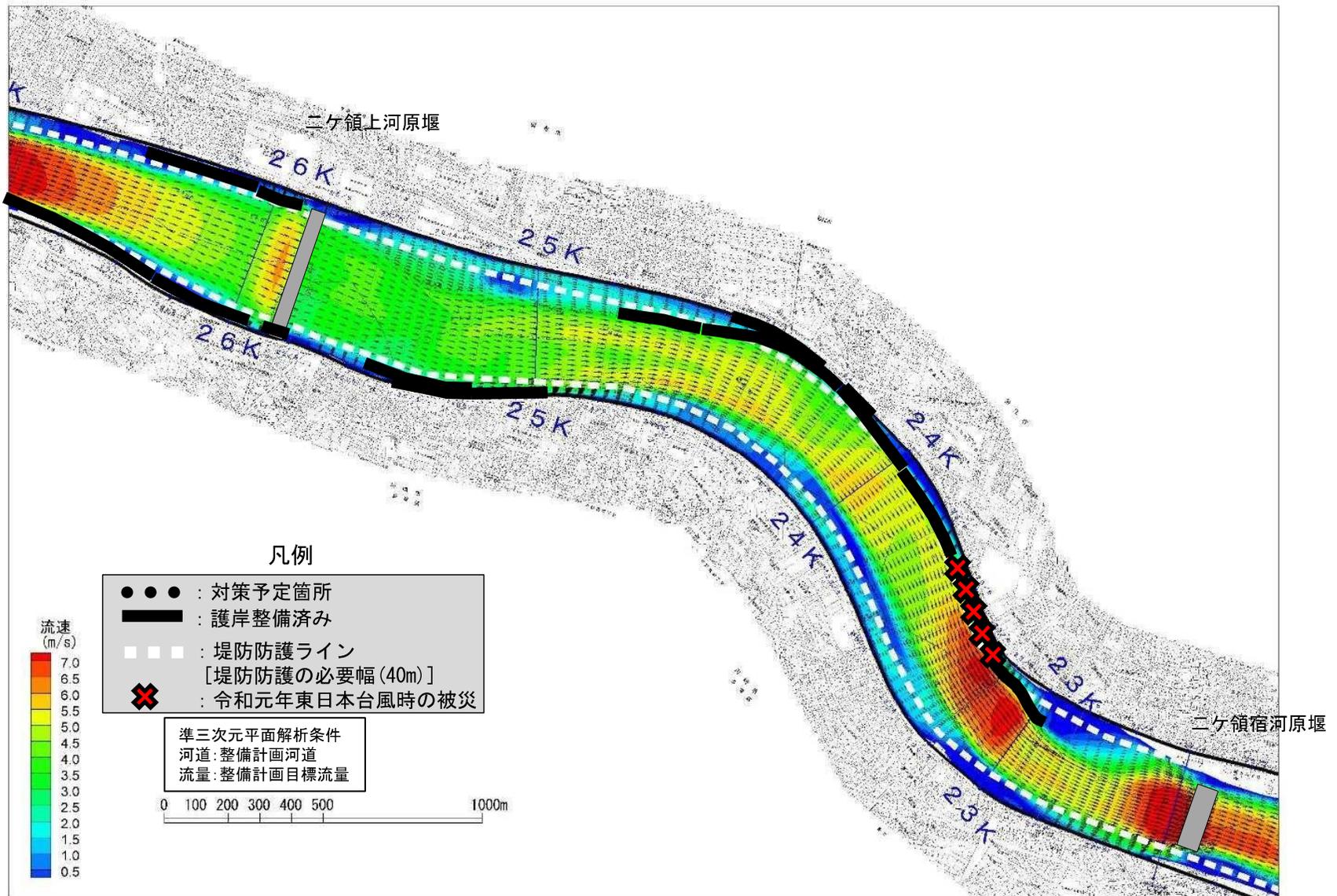
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



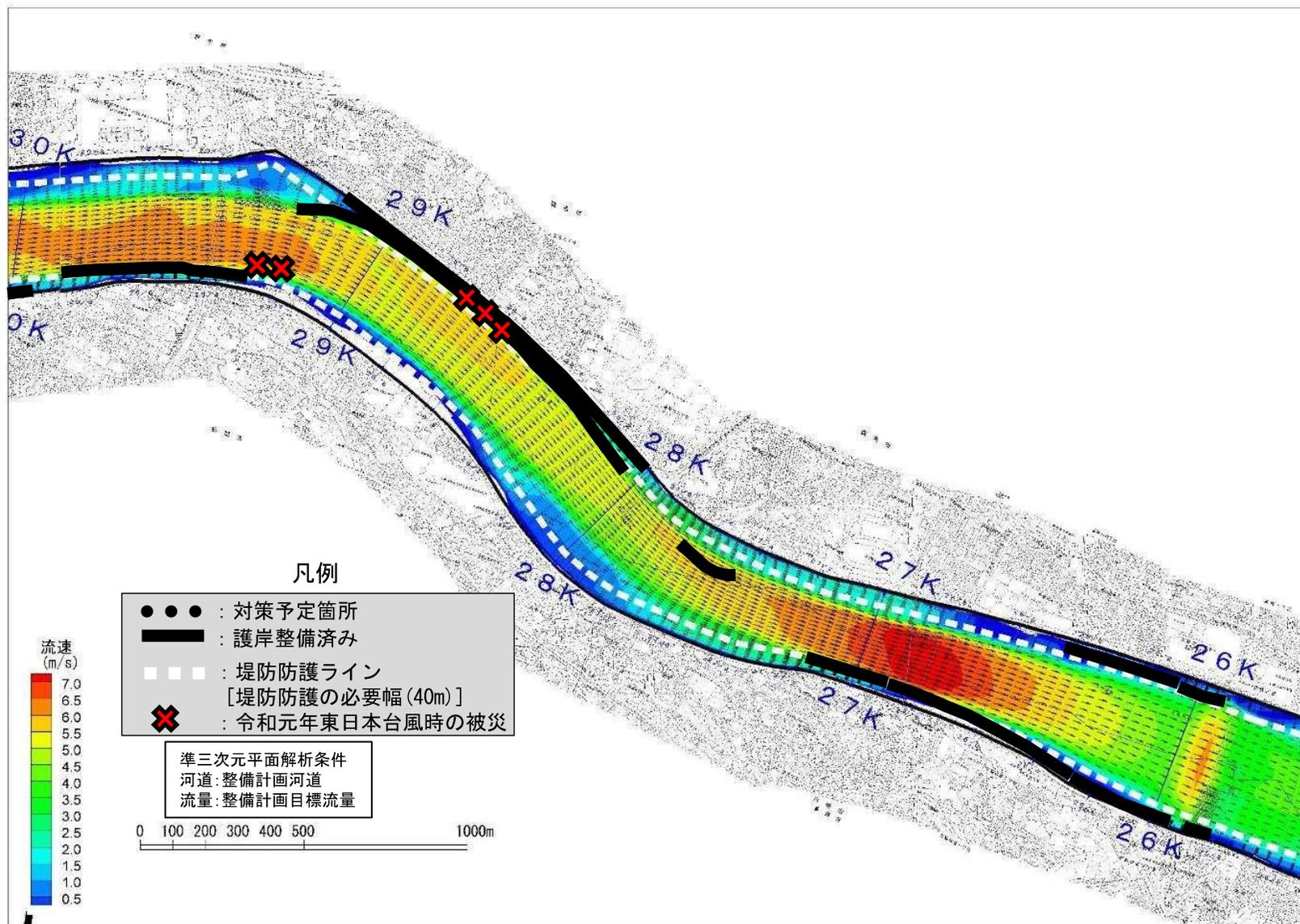
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



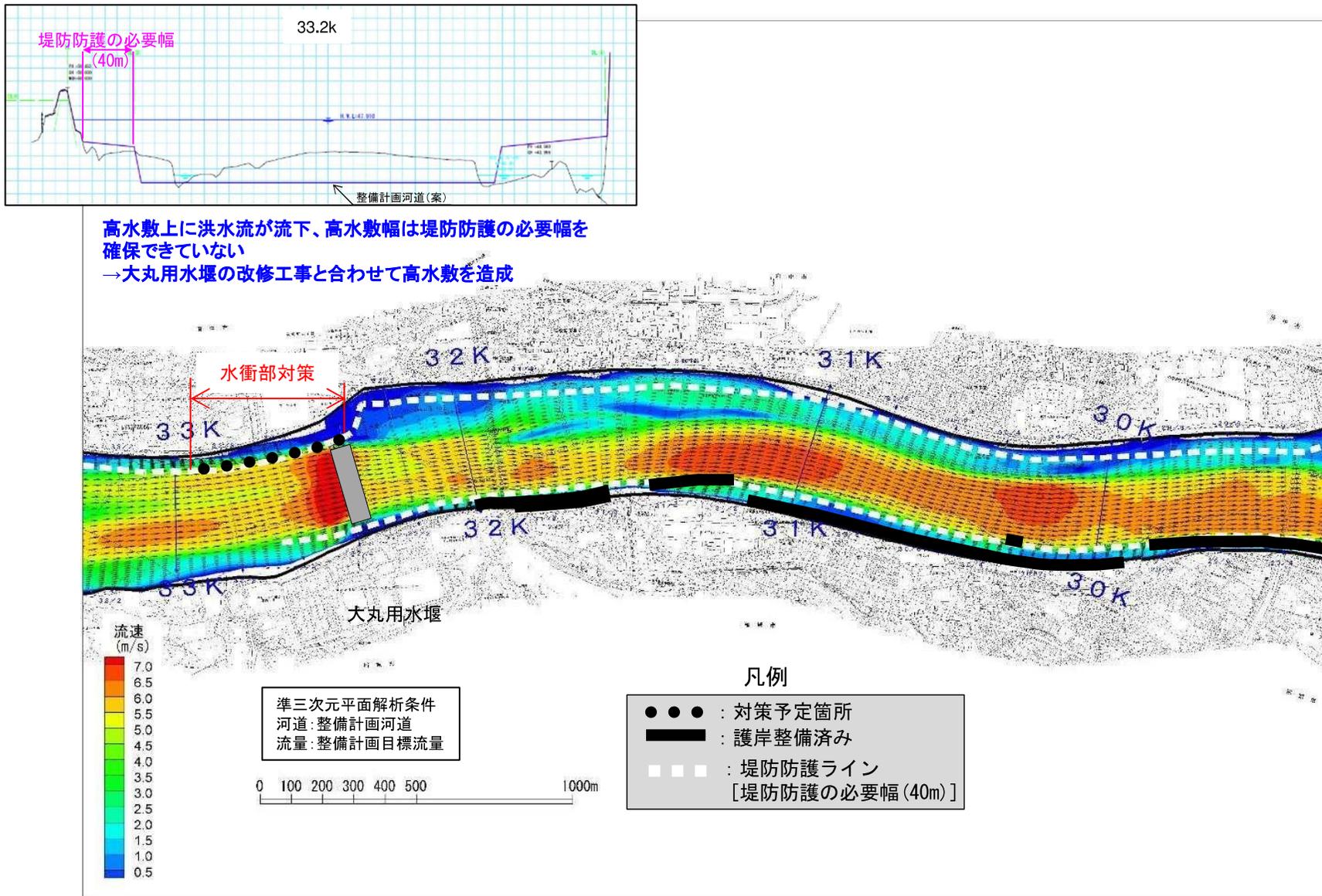
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



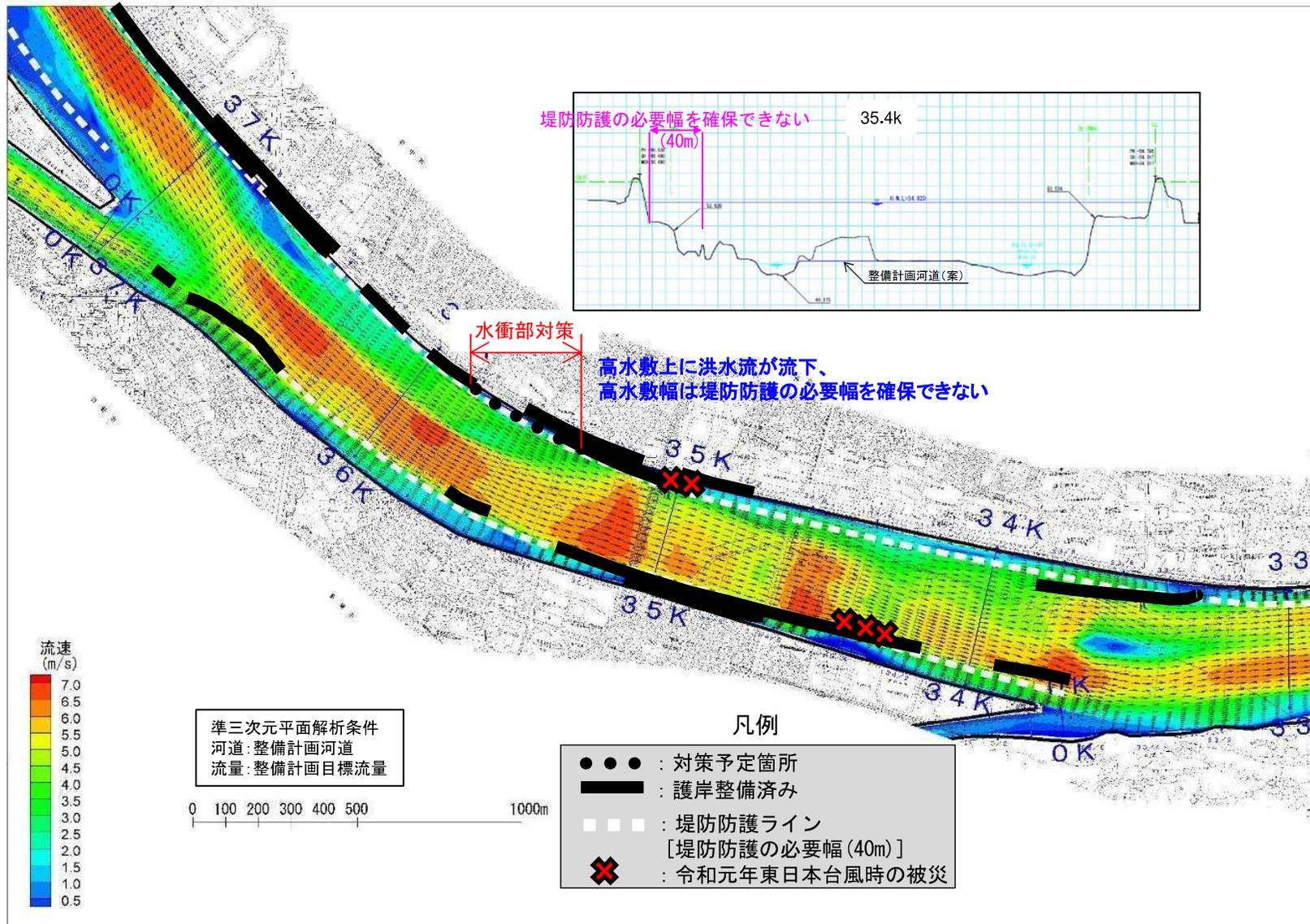
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布

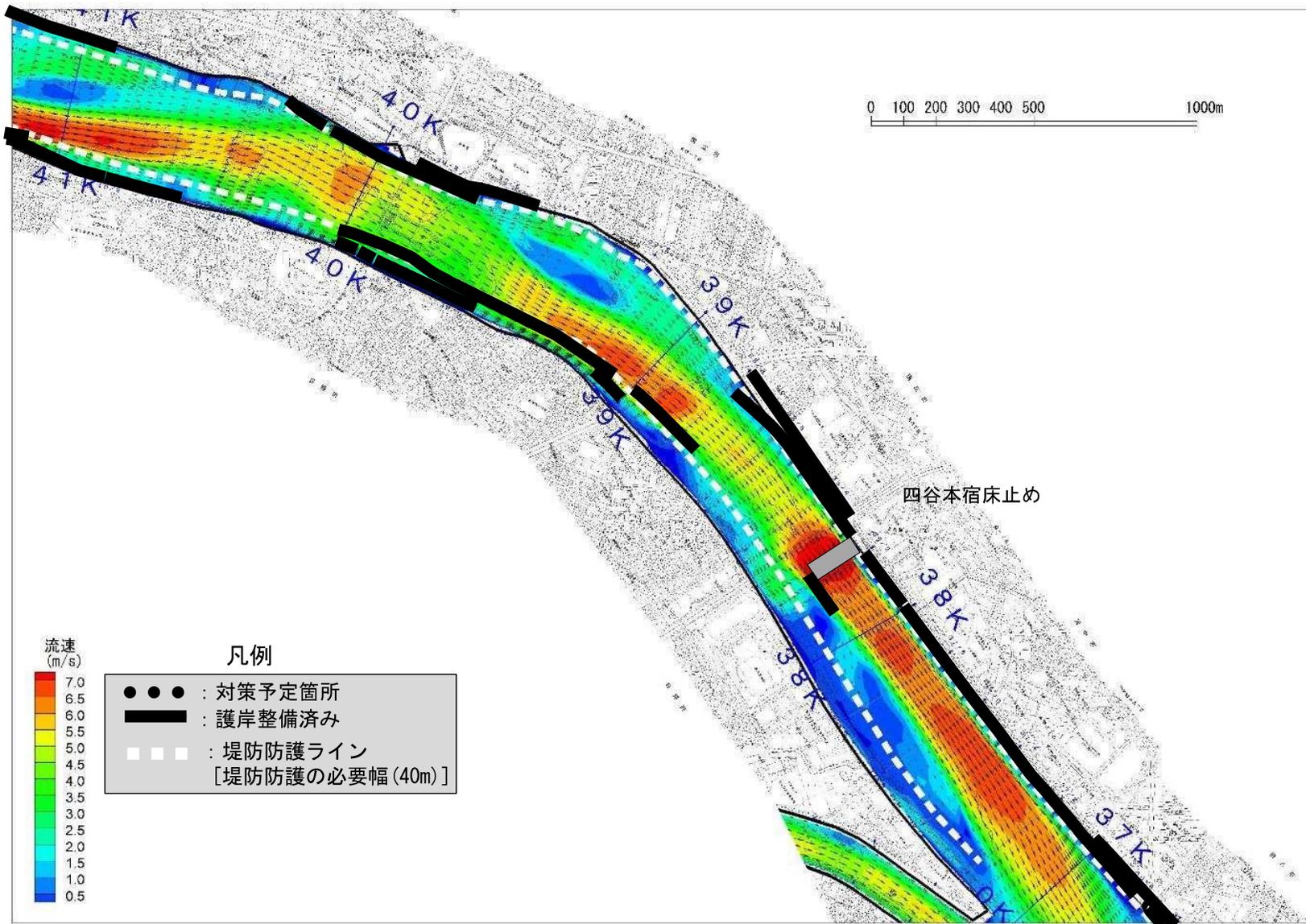


(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布

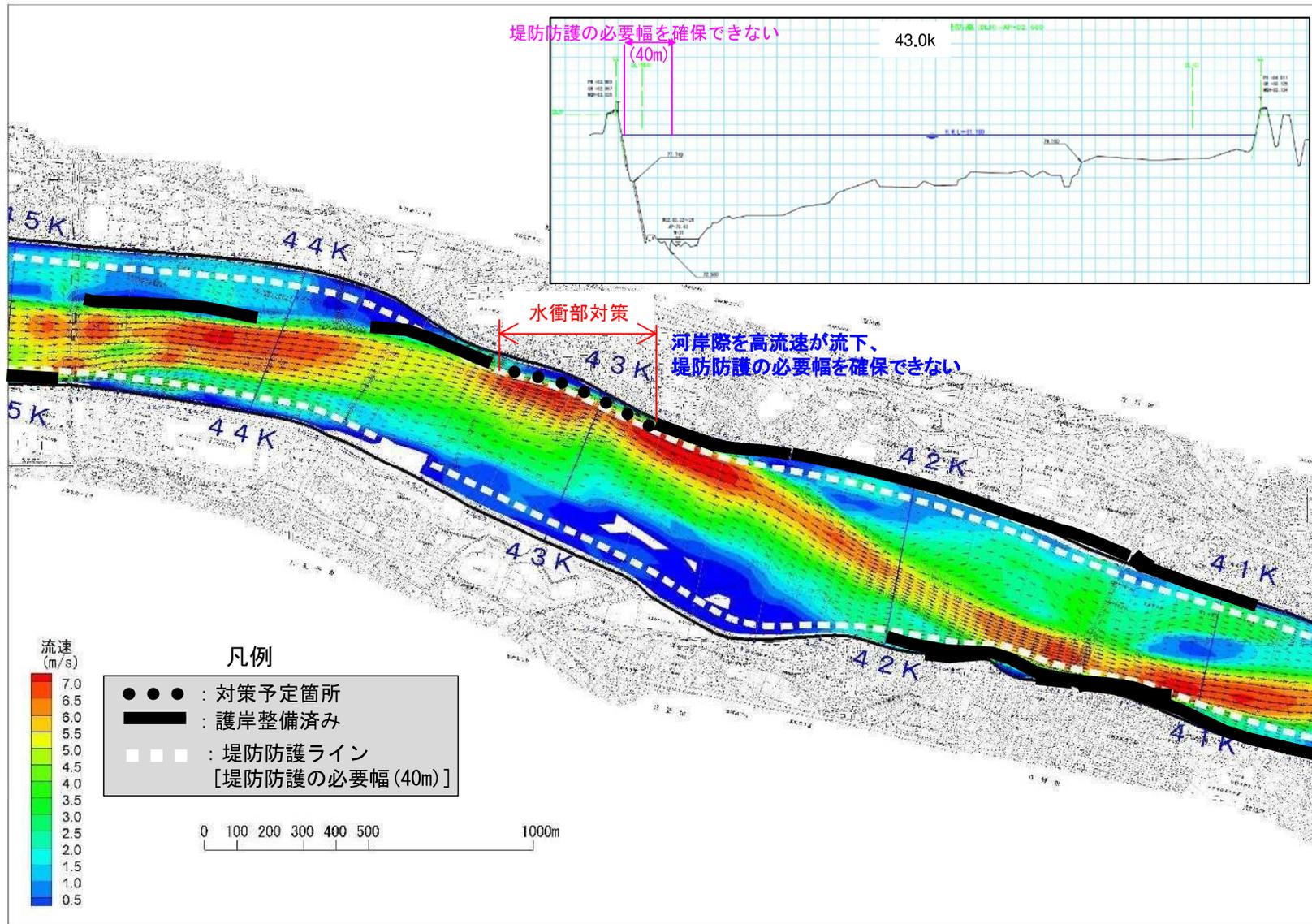


(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布

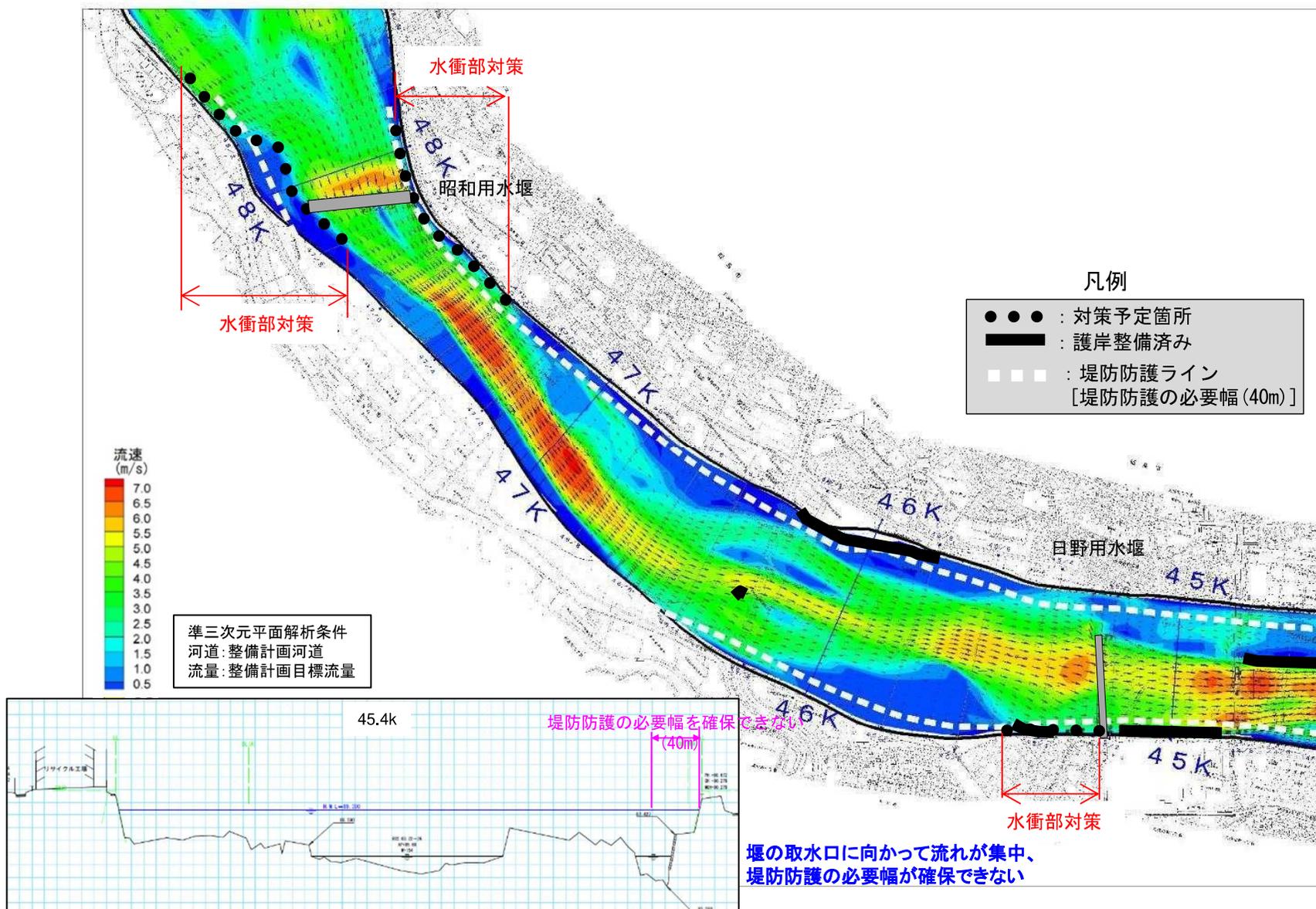
多摩川水系



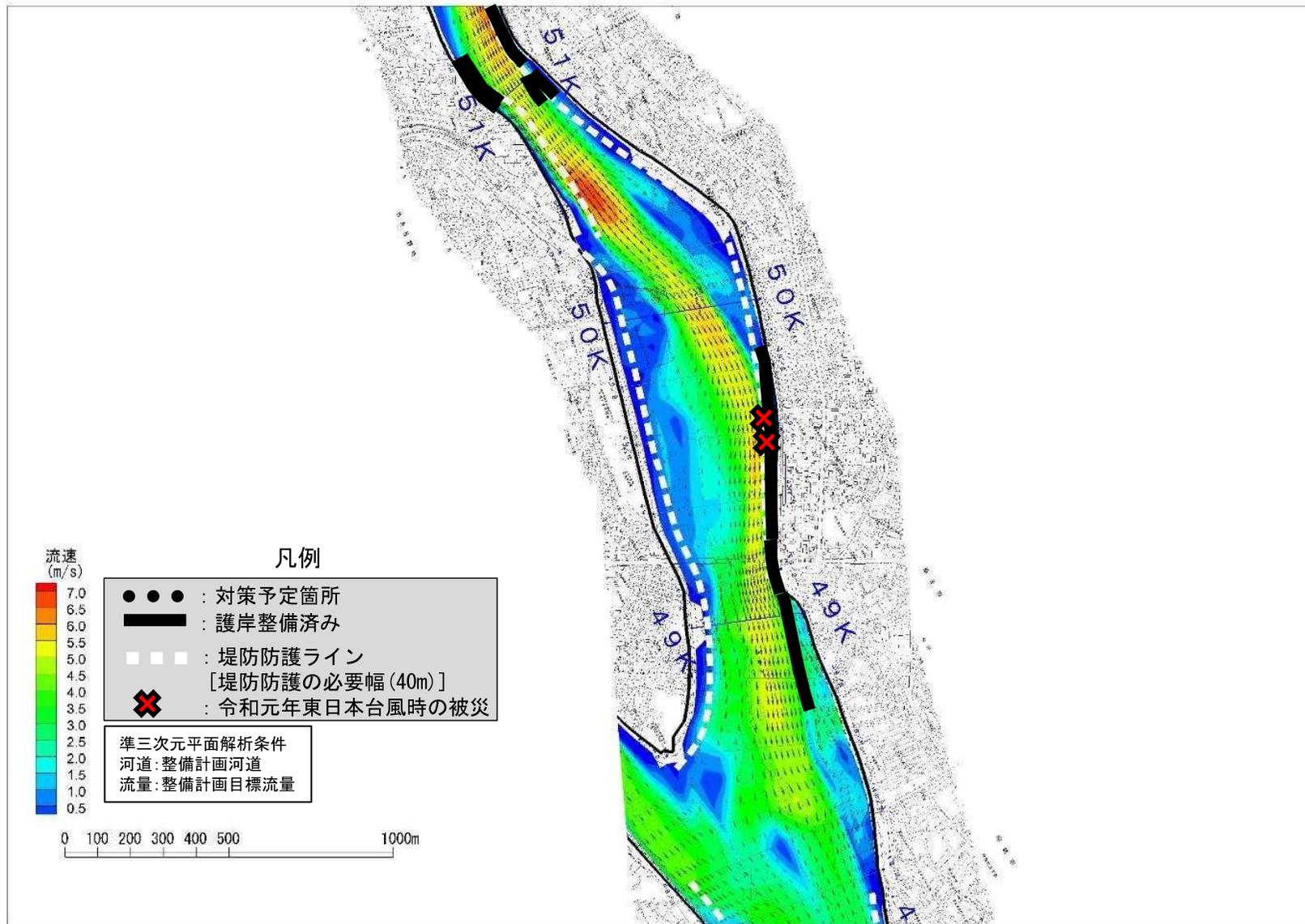
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



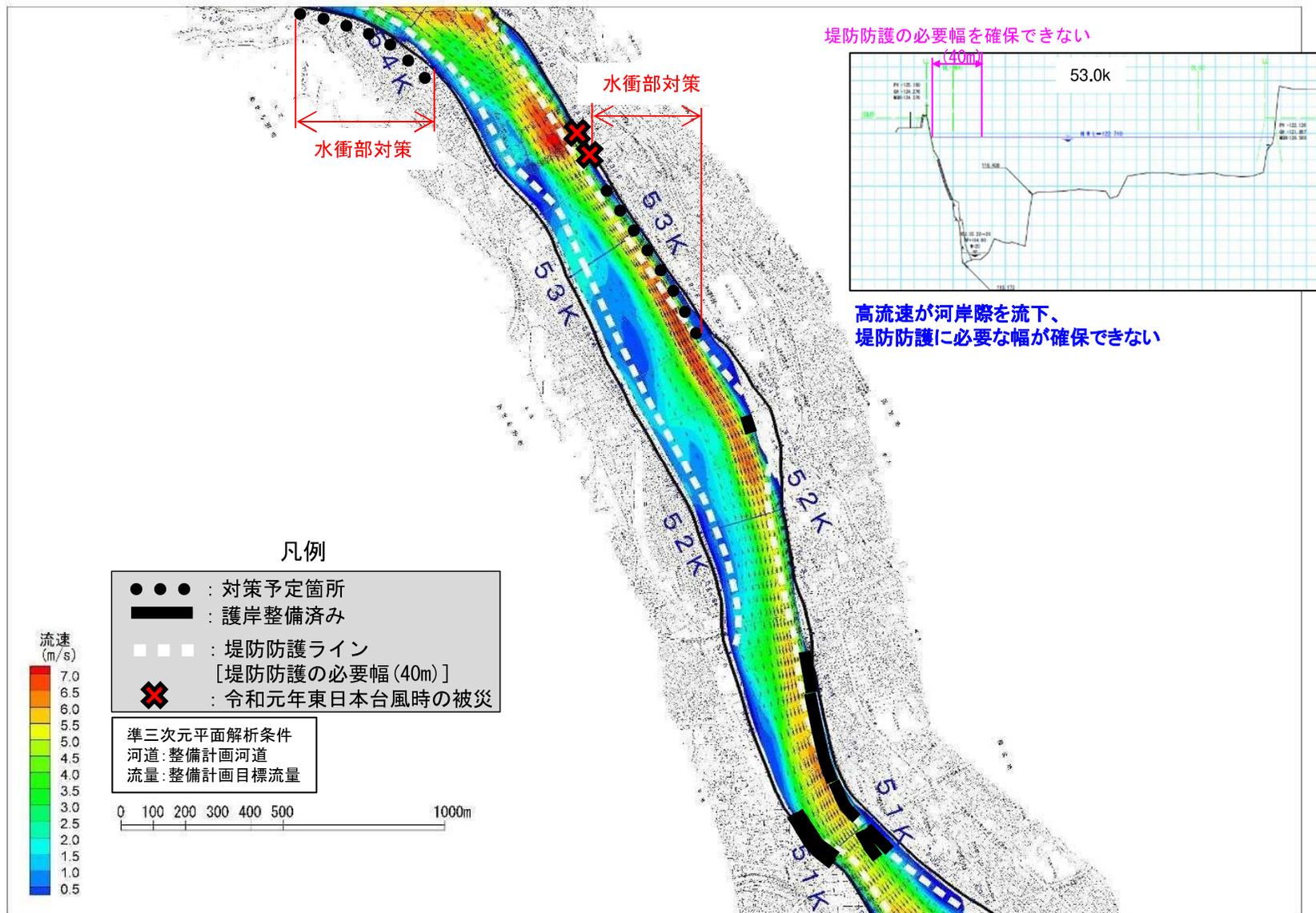
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



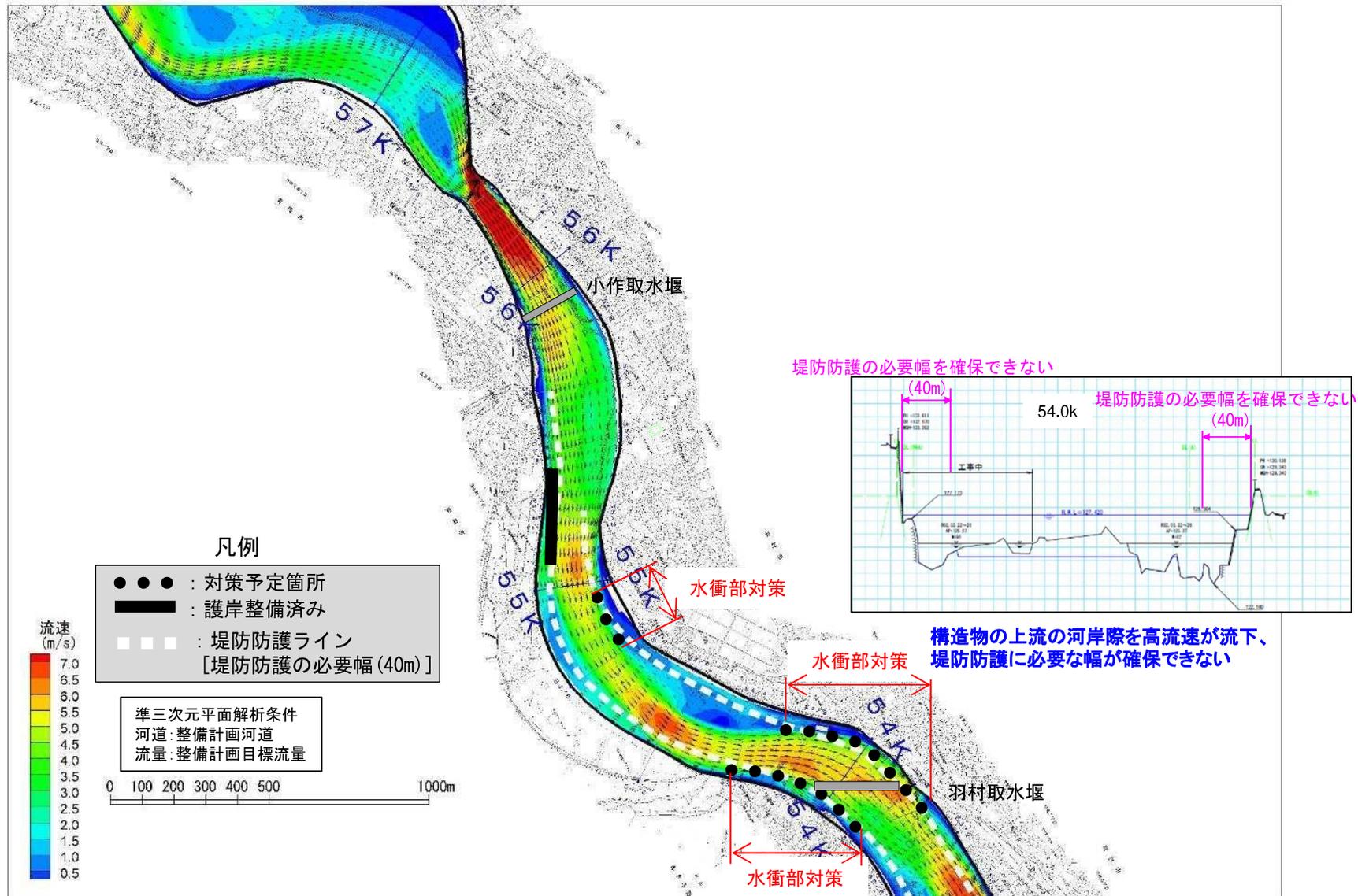
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



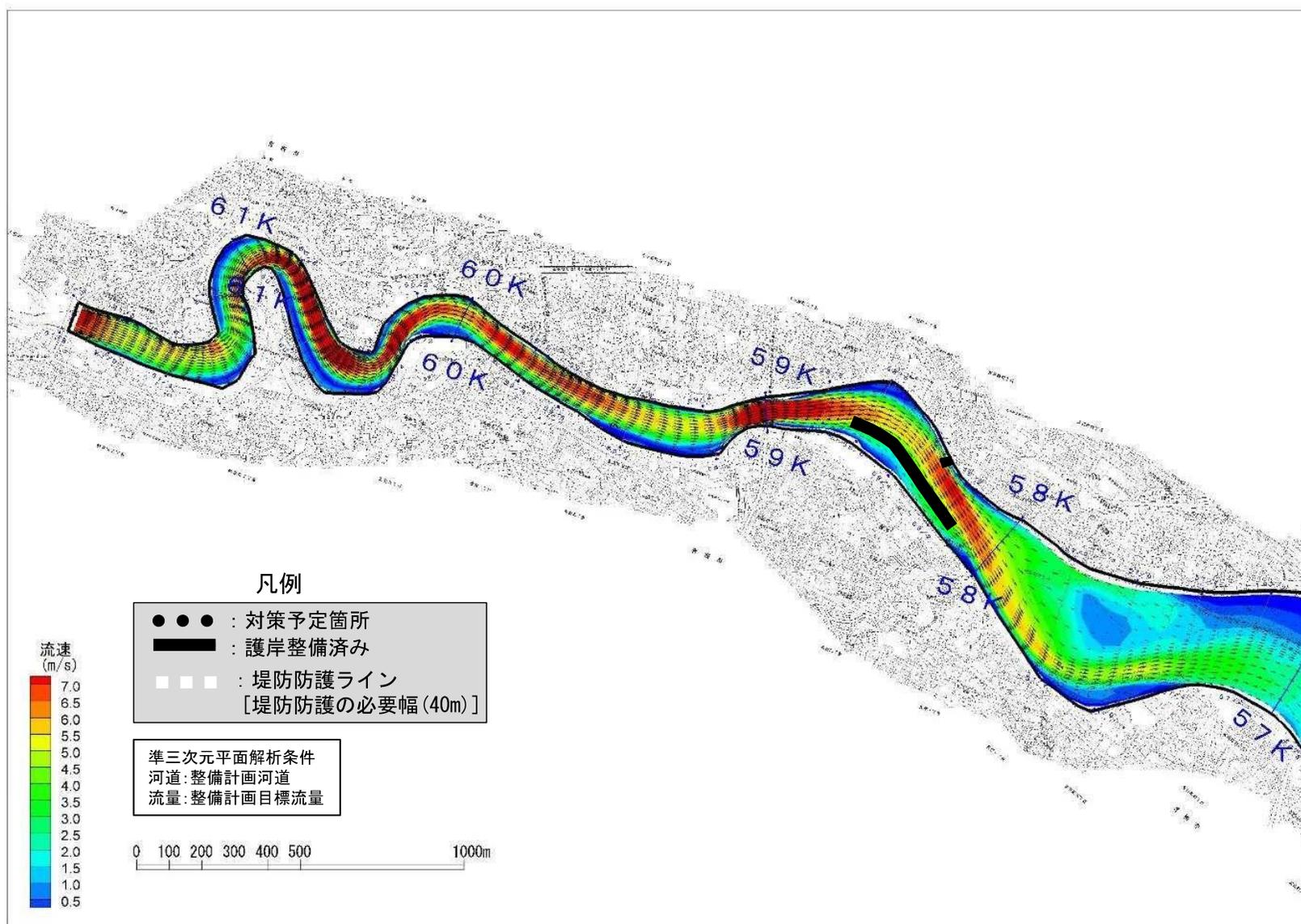
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



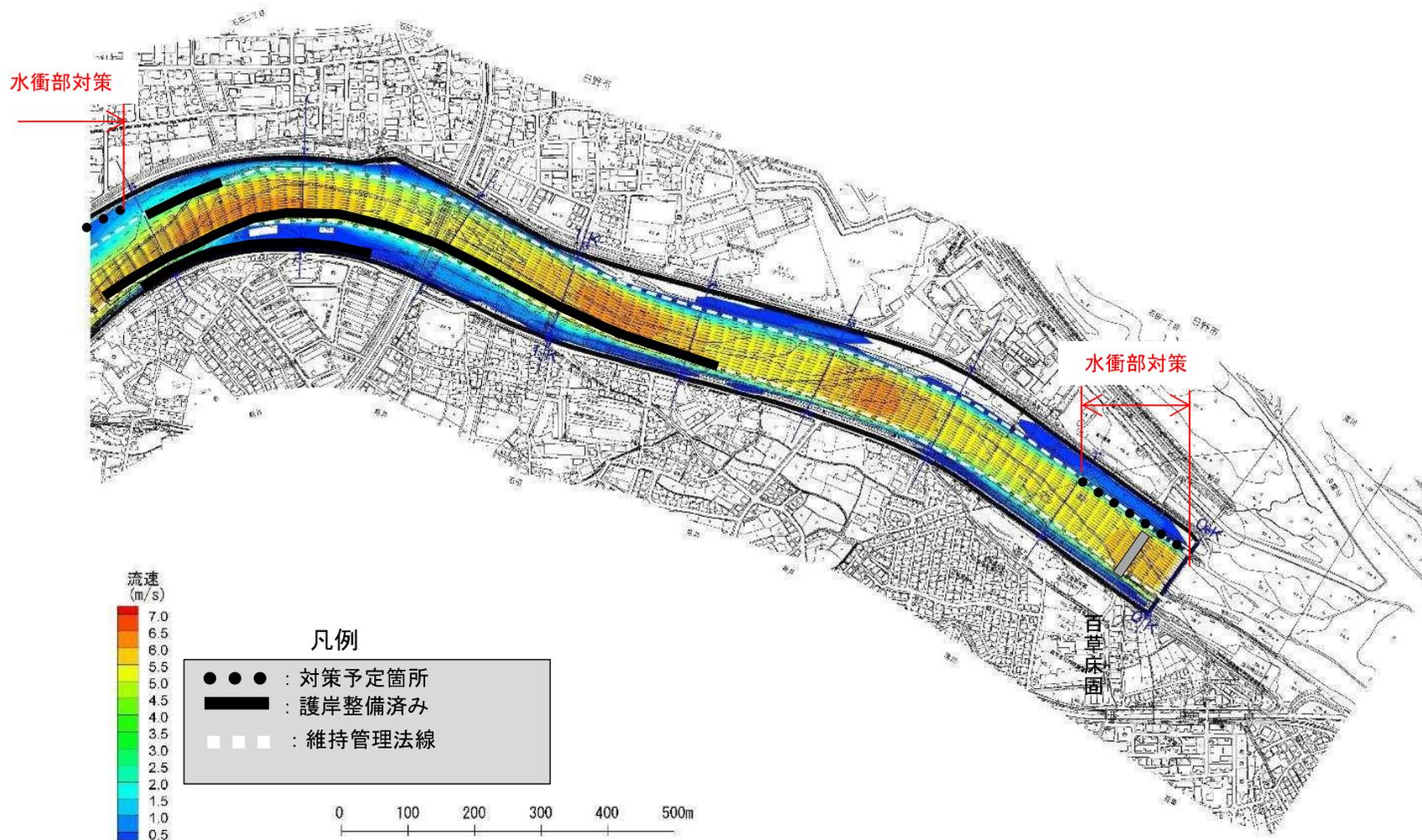
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



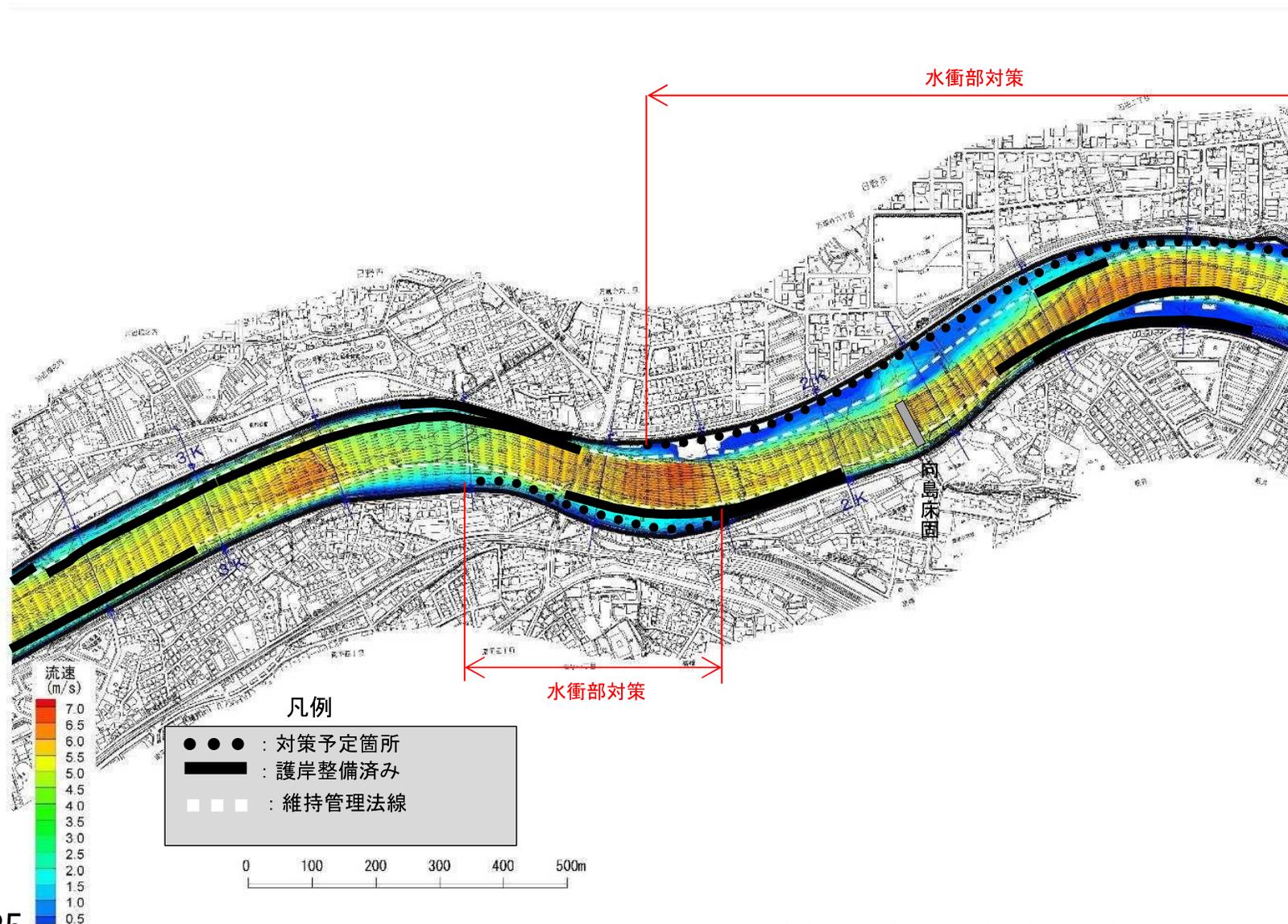
(4)水衝部対策の実施箇所と流速分布



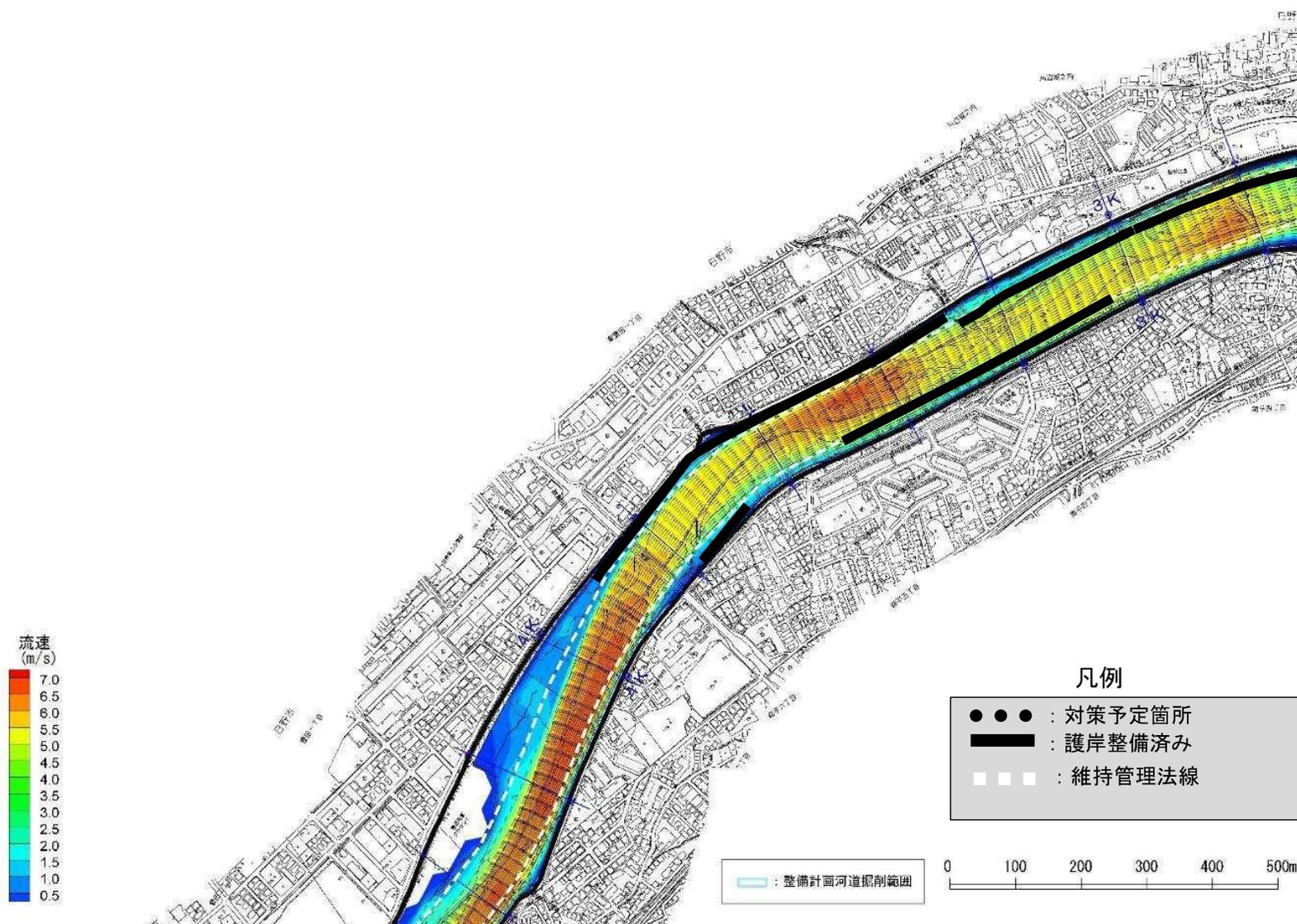
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



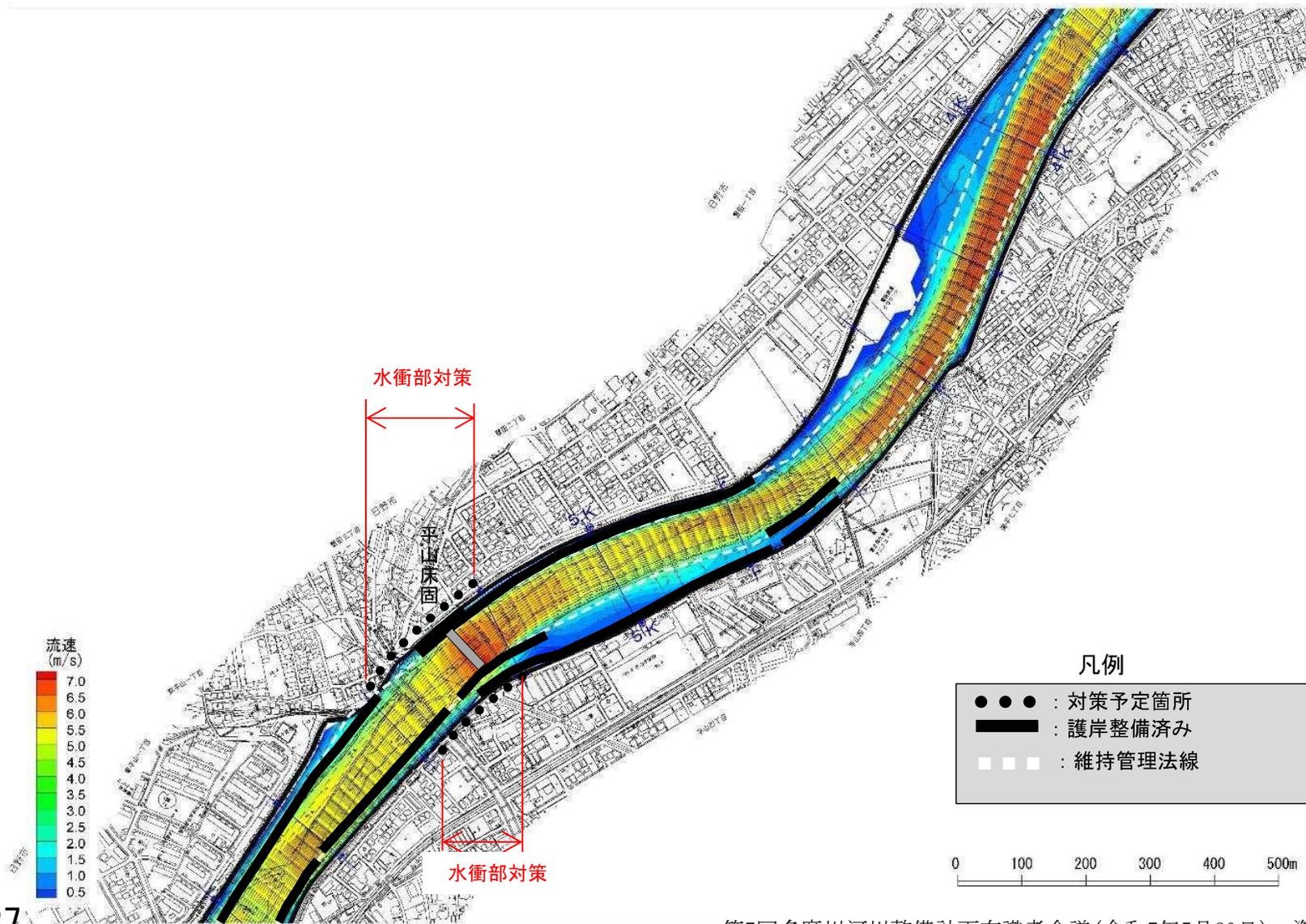
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



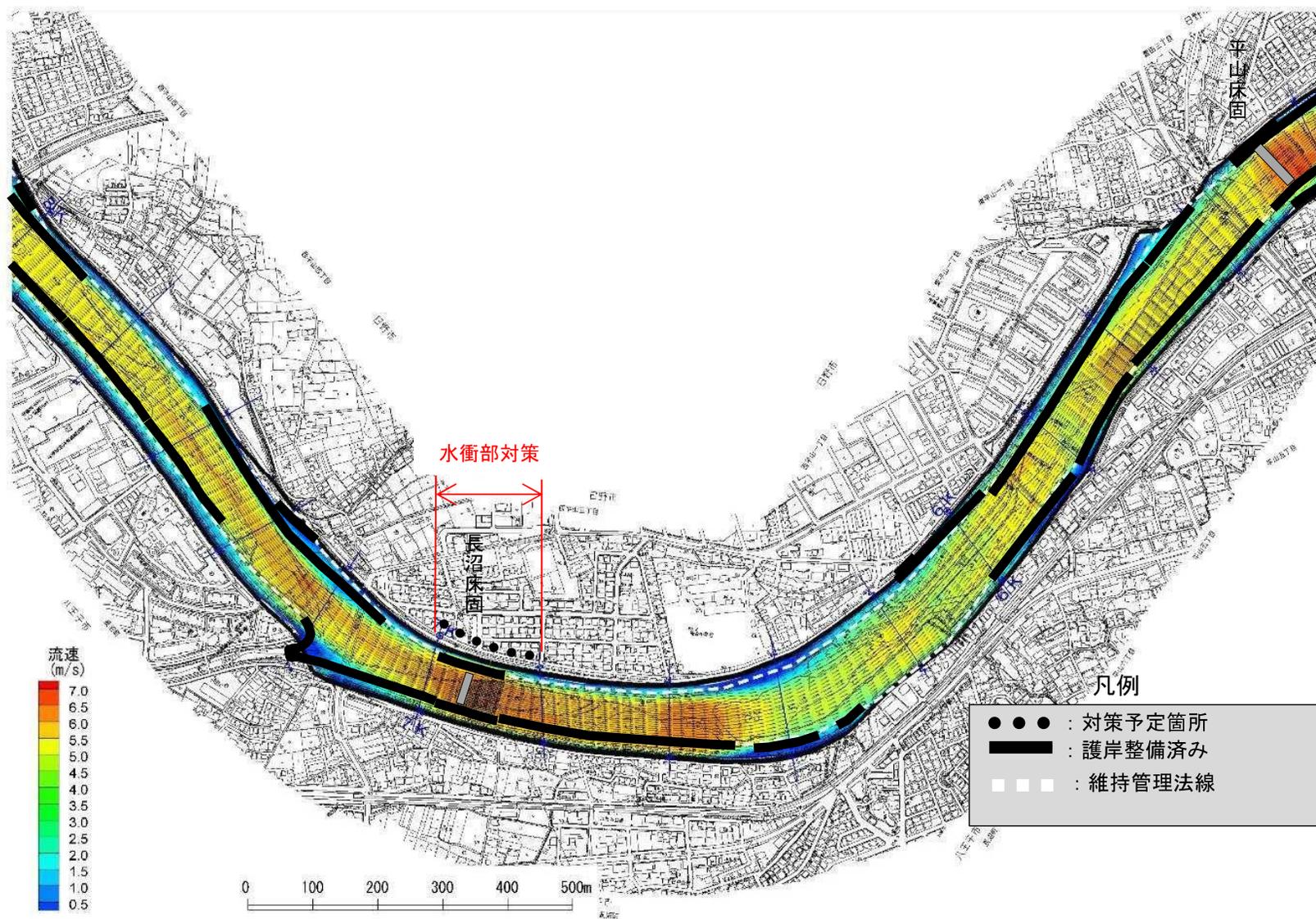
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



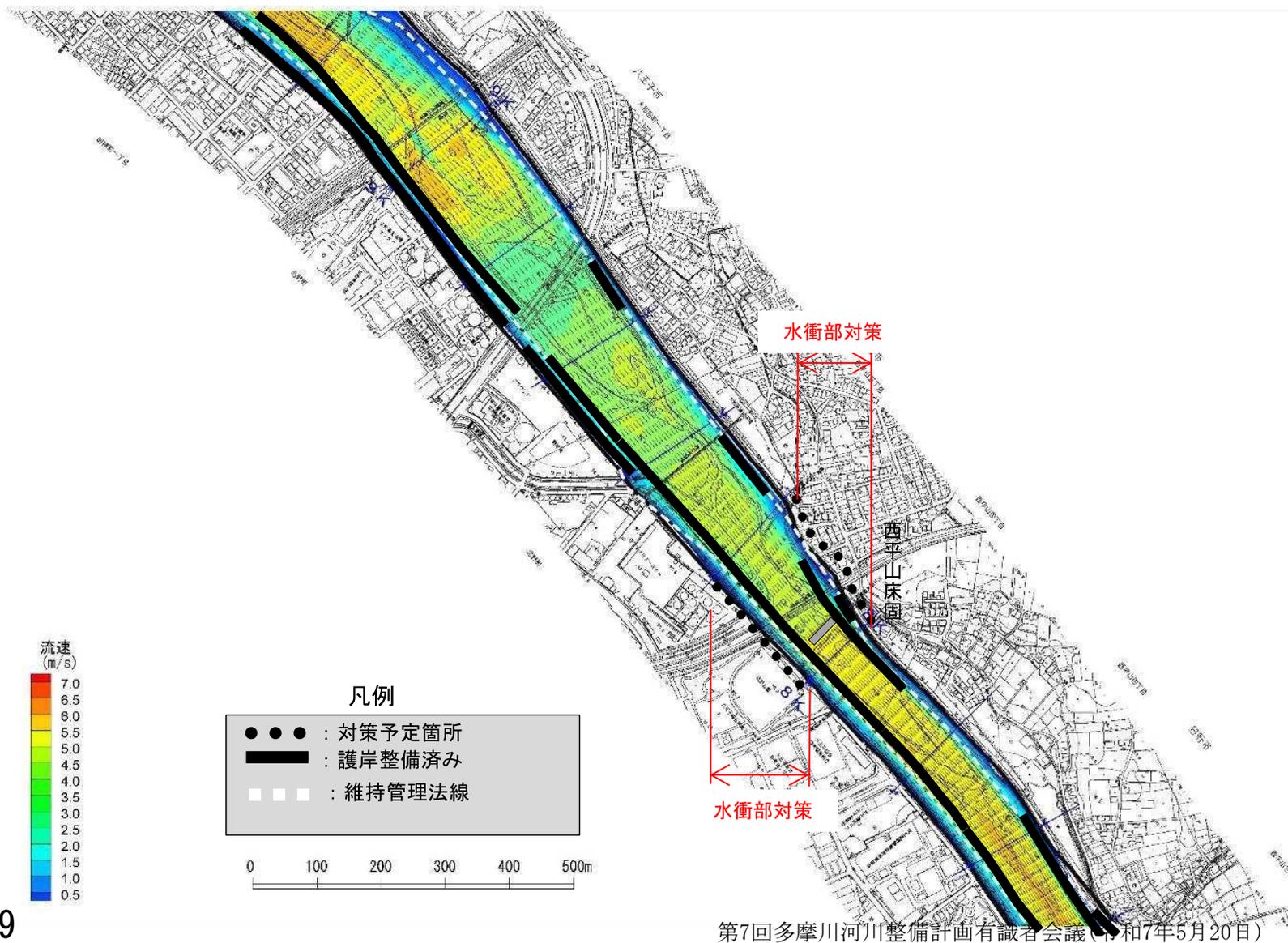
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



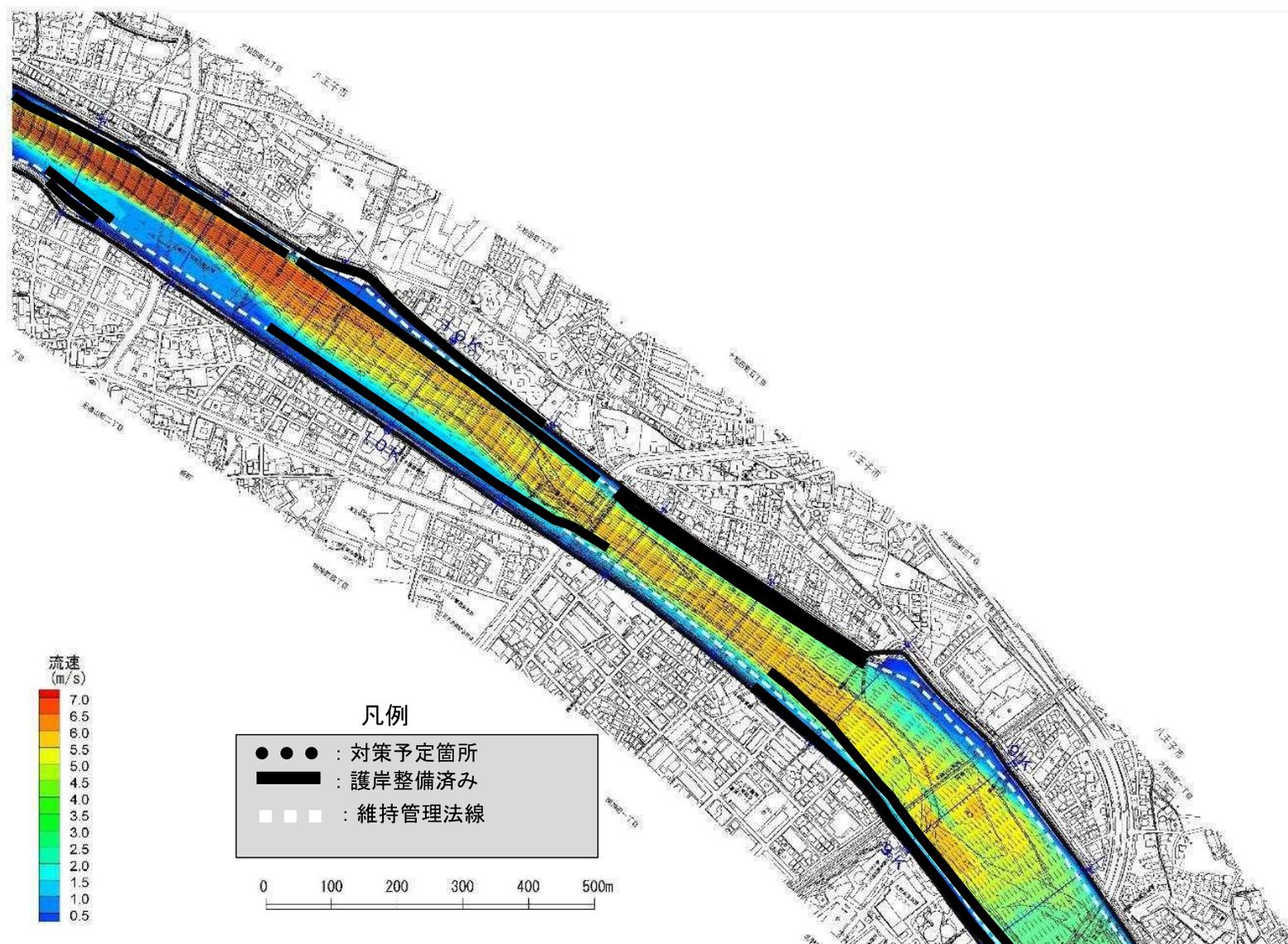
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



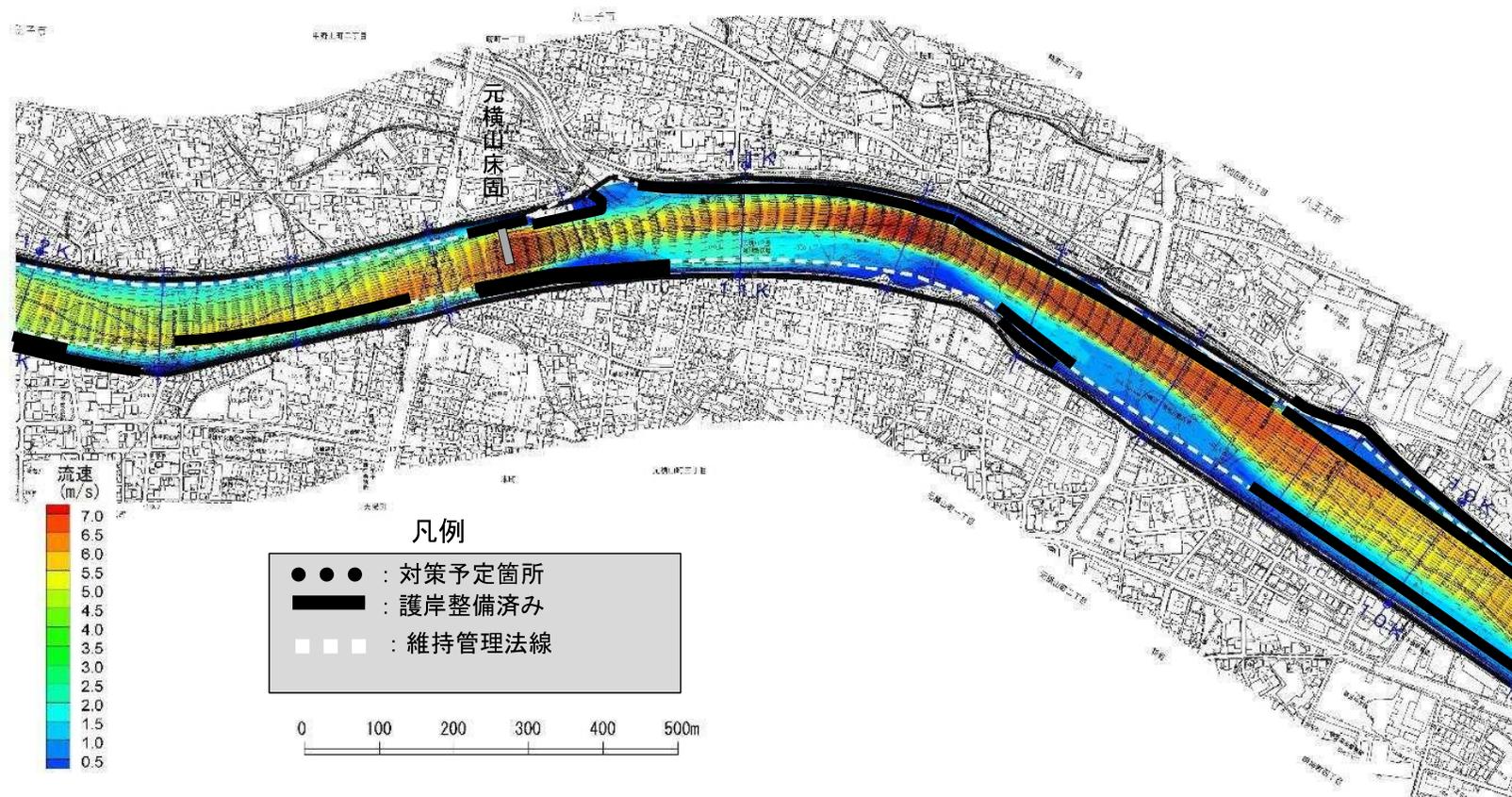
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



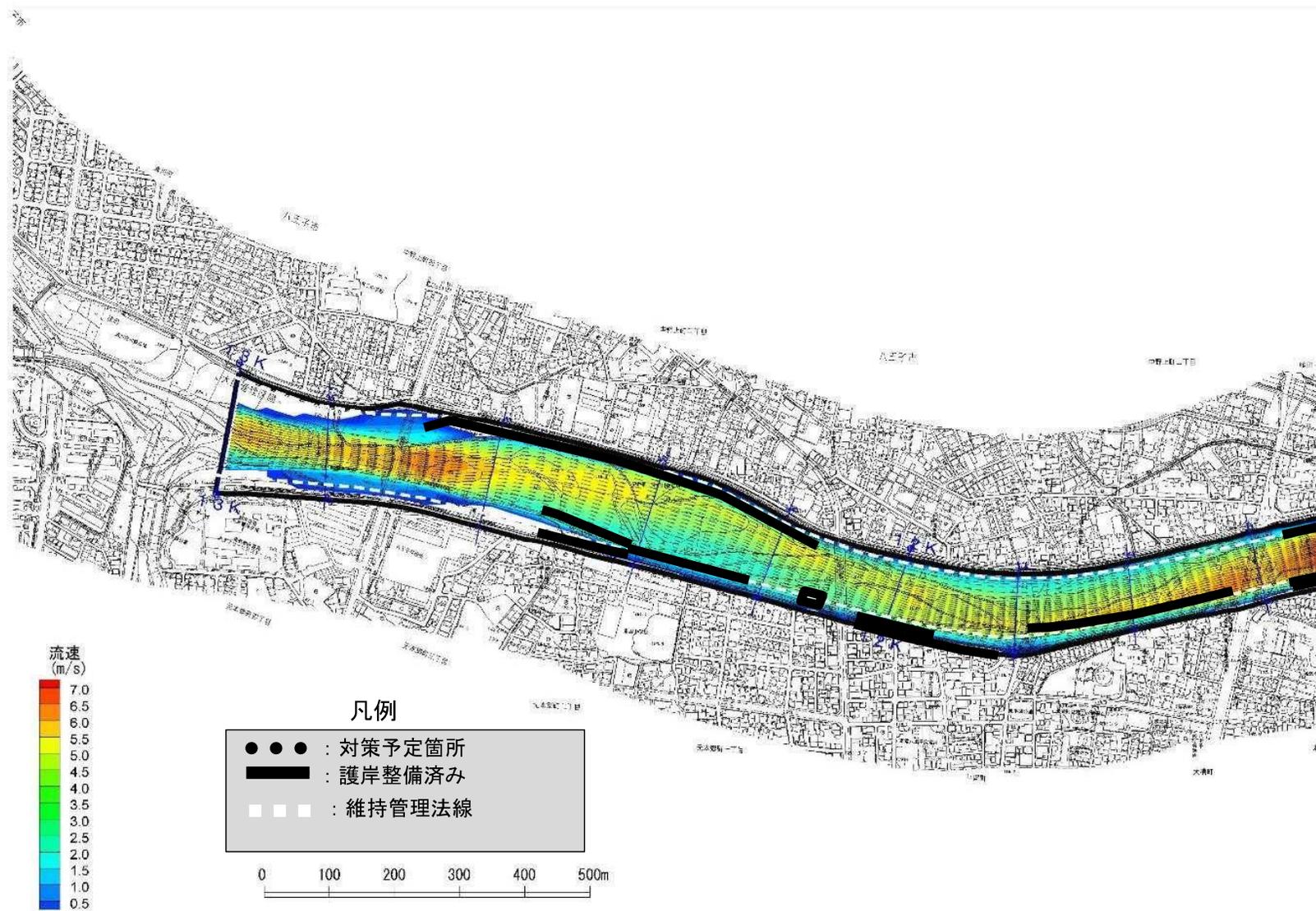
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



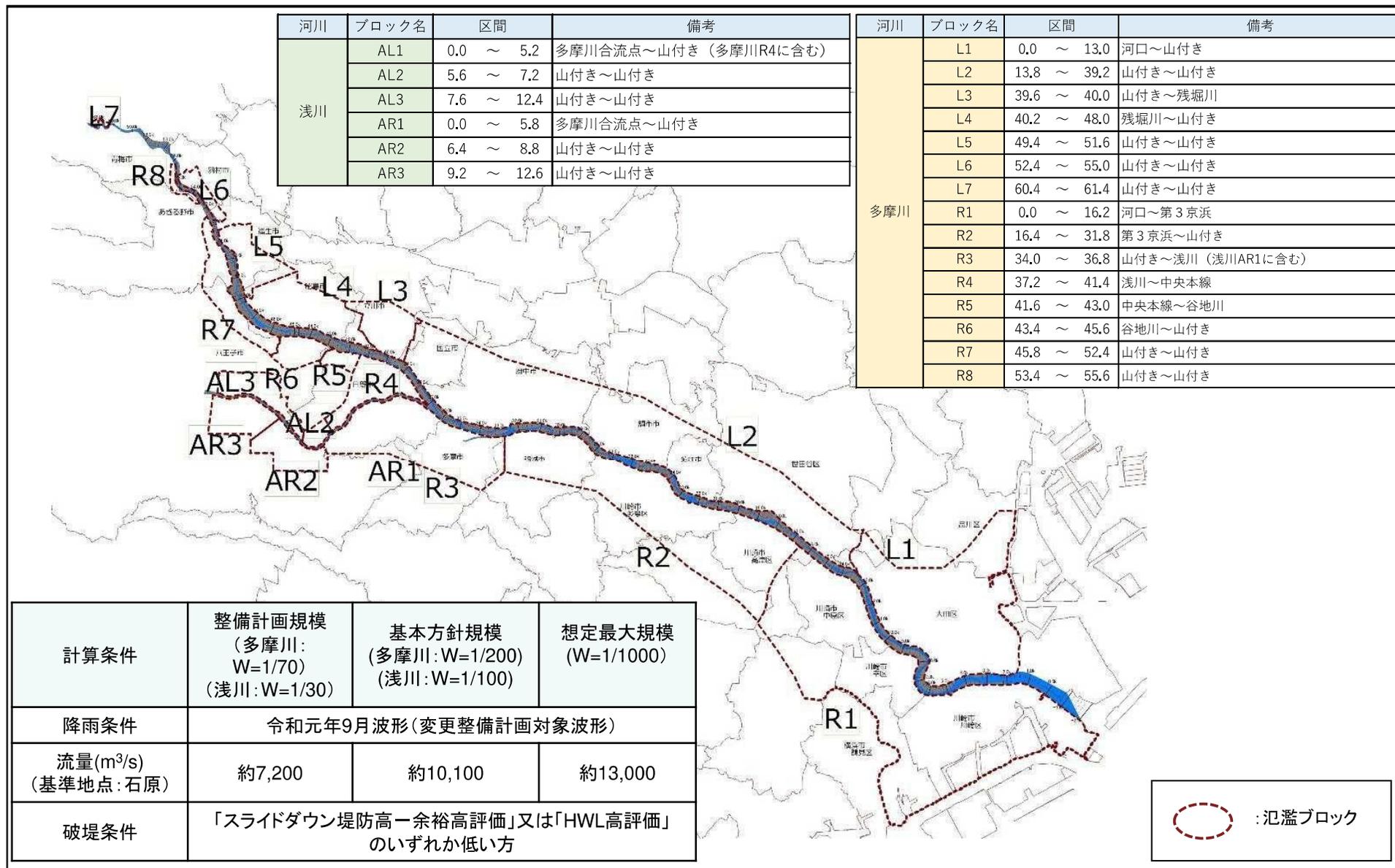
【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例



【第5回No.1-1補足】(3)水衝部対策の実施箇所事例

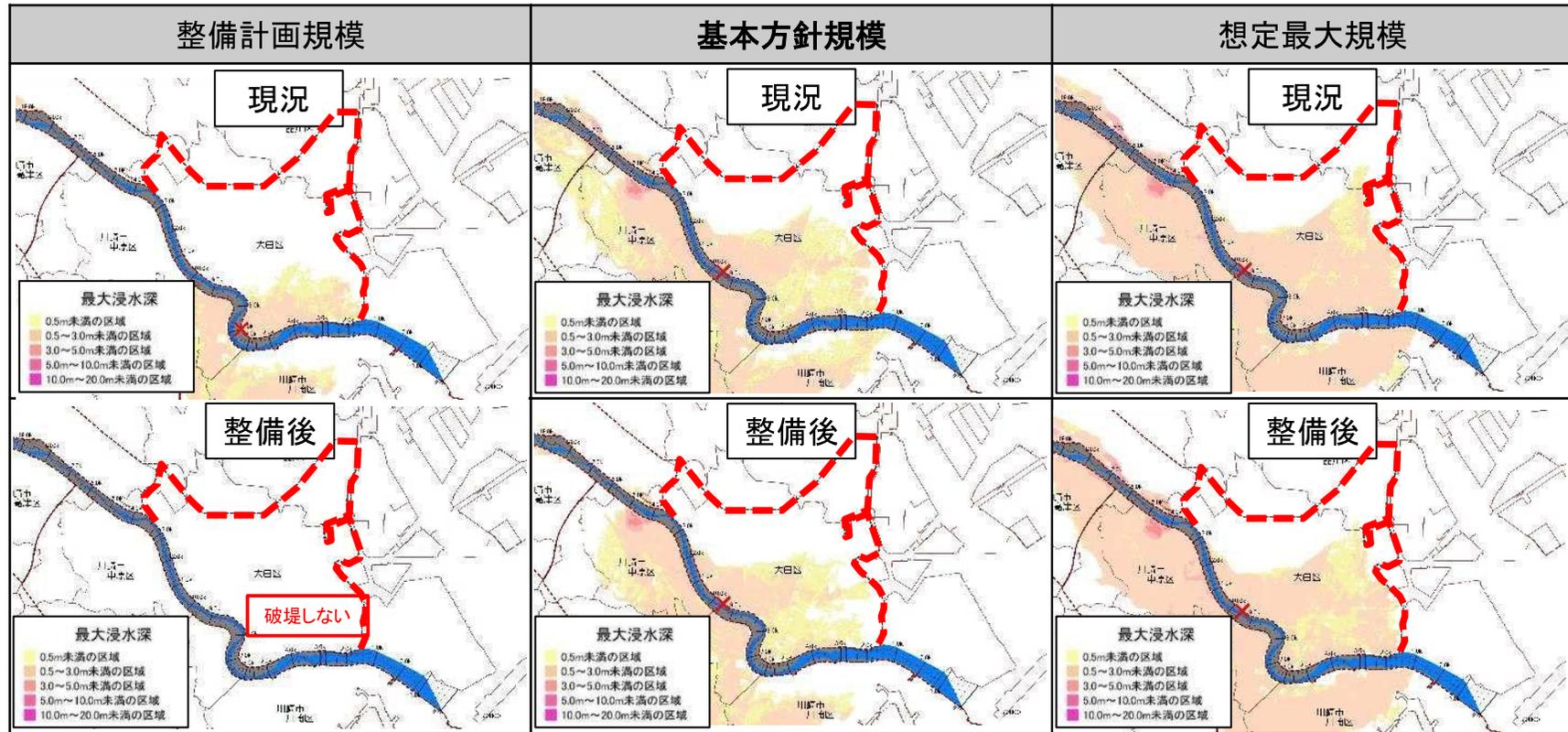


(2) 多摩川水系の氾濫シミュレーションのブロック分割



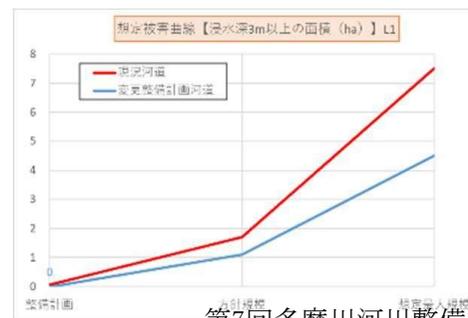
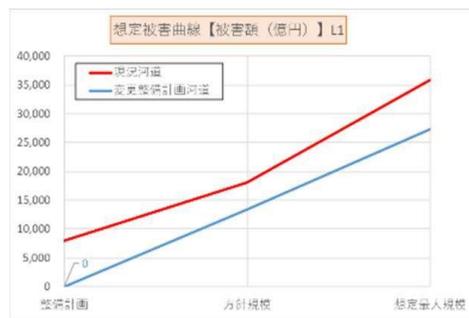
(3) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:L1ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて4,687億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は0.59ha減少。



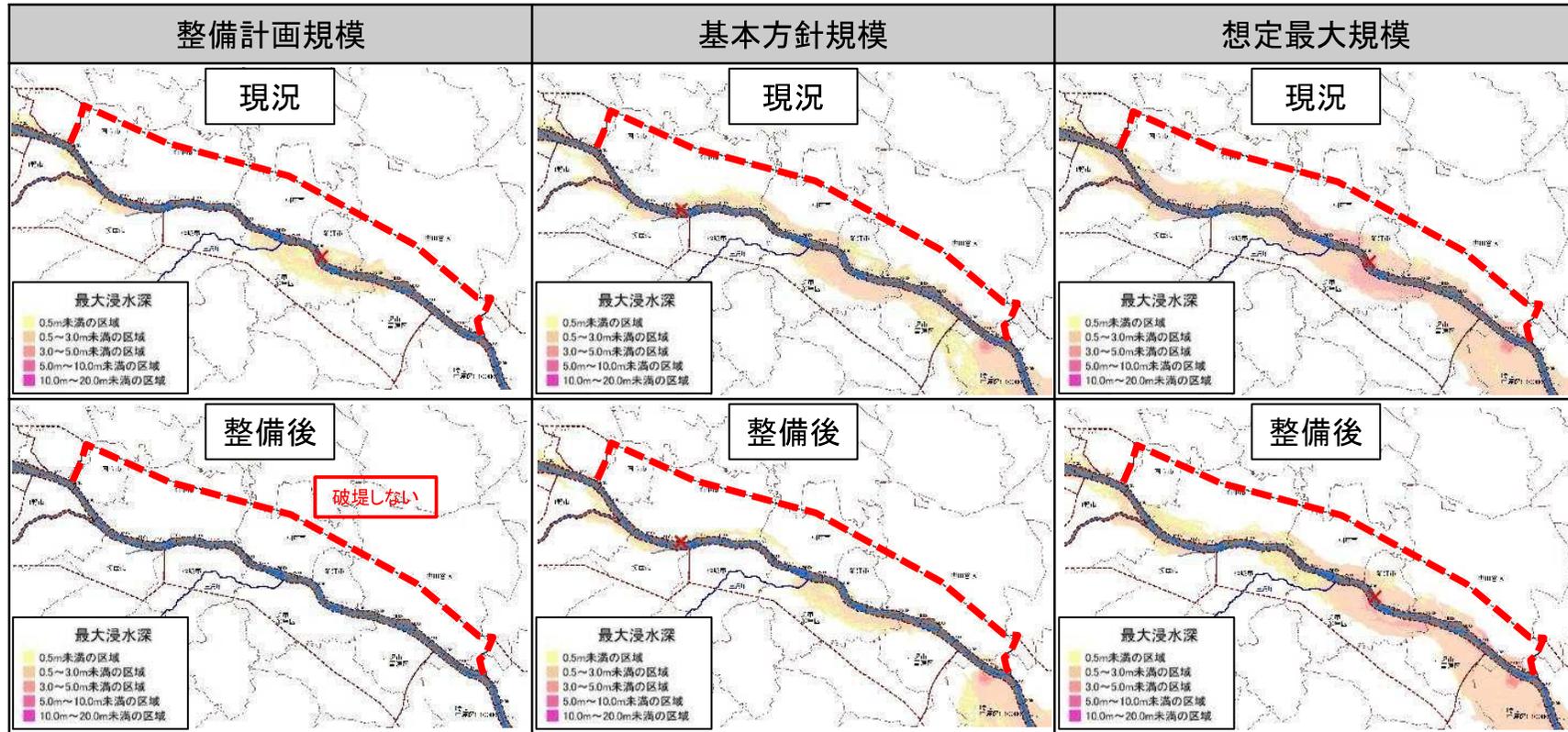
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5-44



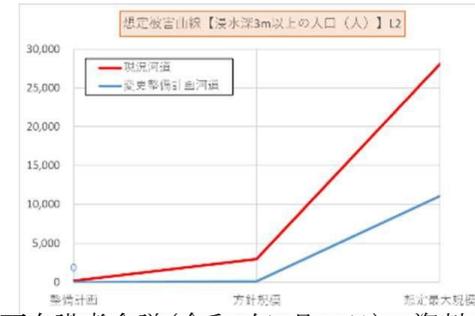
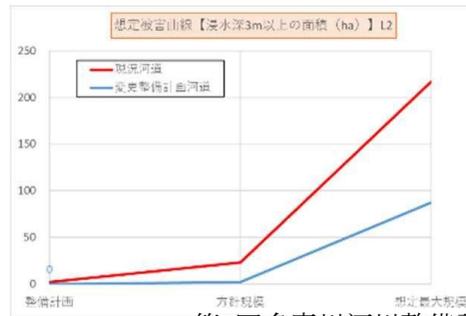
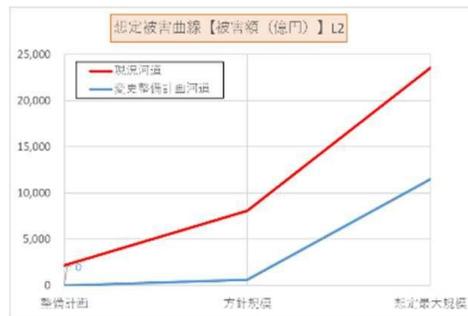
(4) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:L2ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて7,475億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は20.99ha減少。



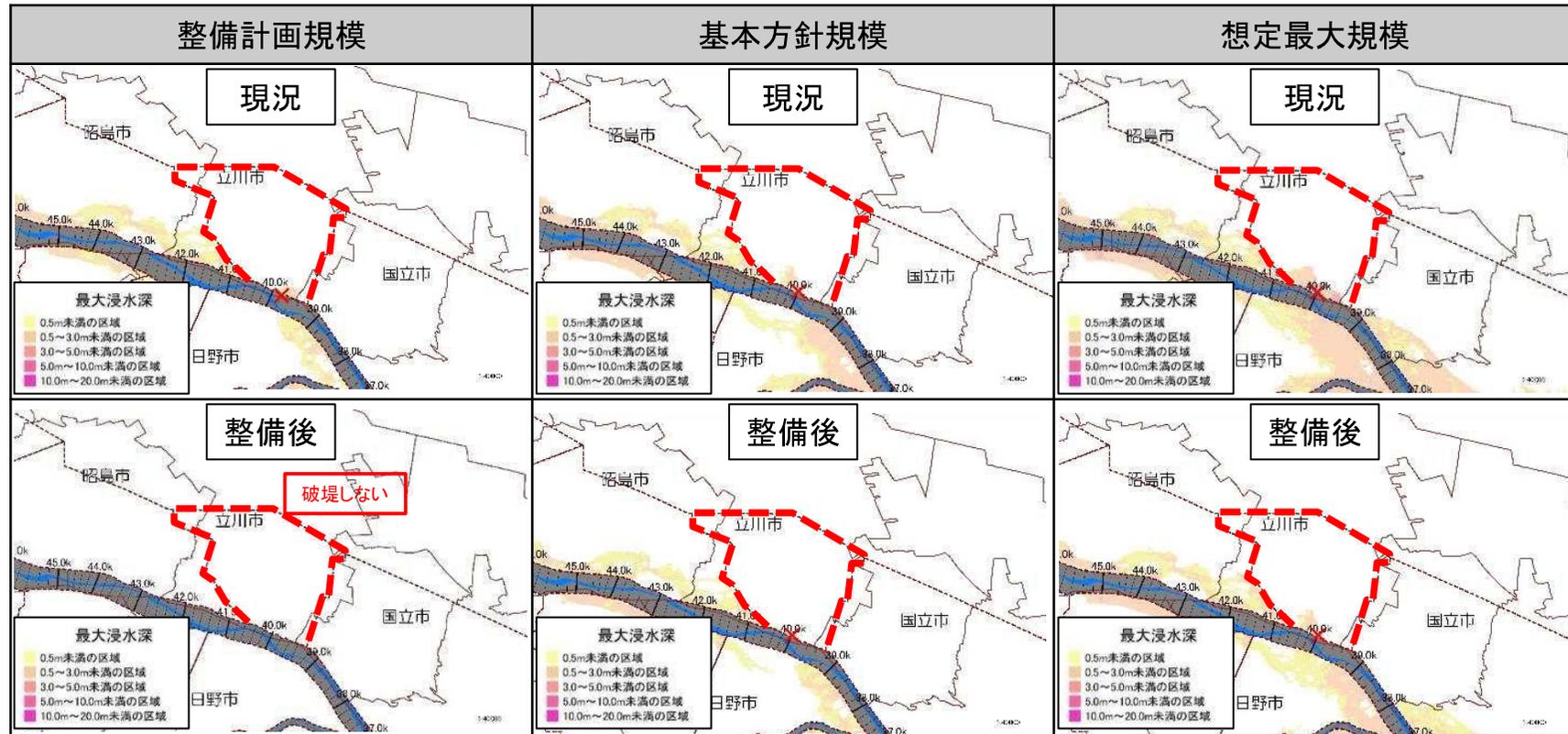
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5/45



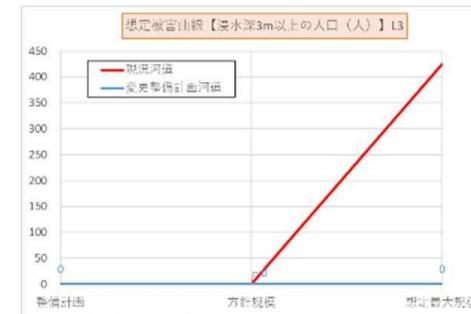
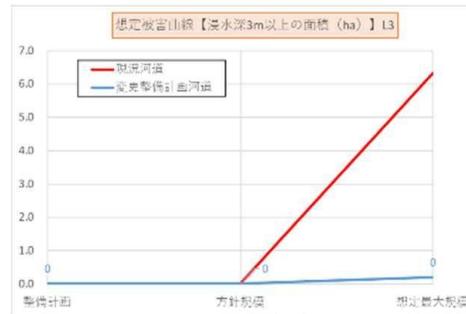
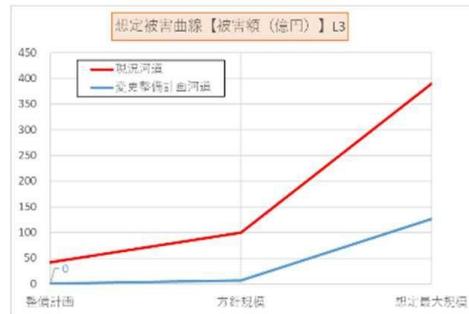
(5) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:L3ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて93億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化しない。



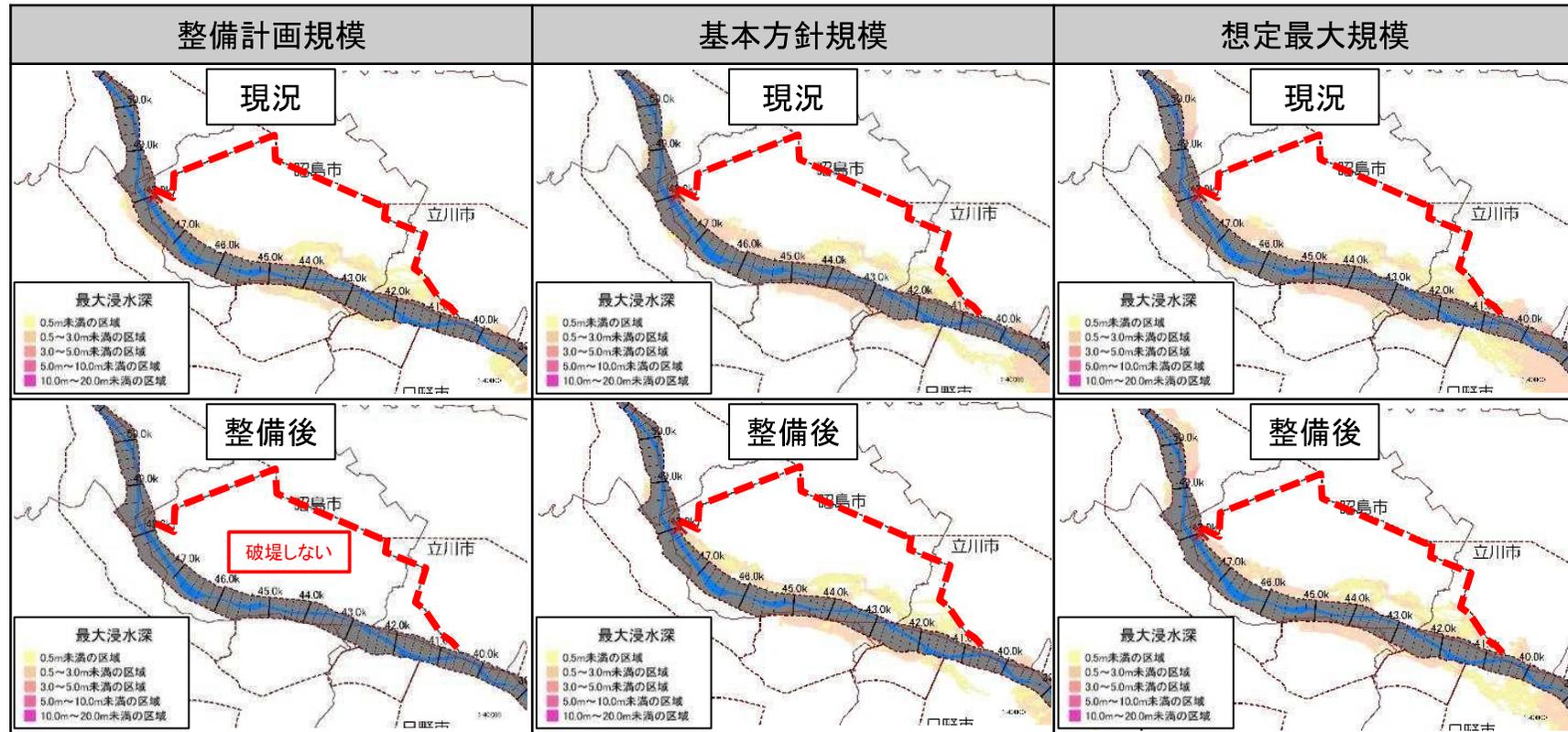
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5^分46



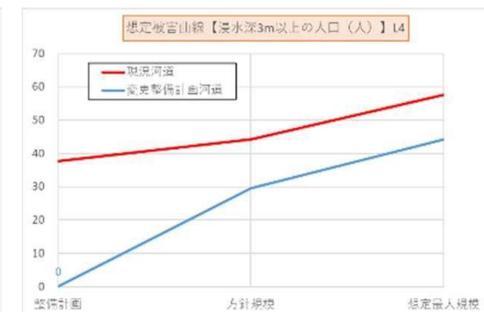
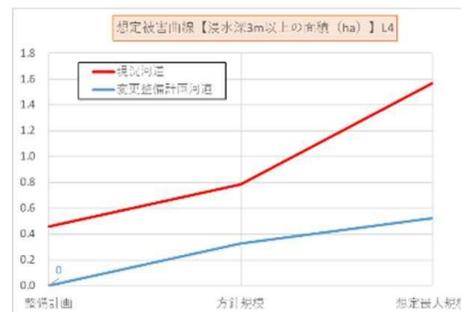
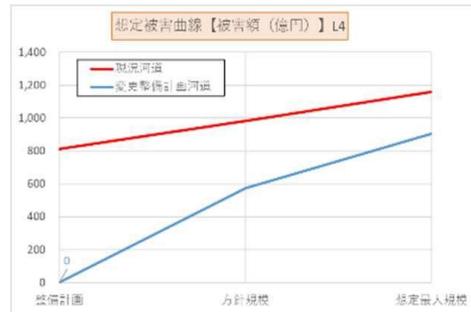
(6) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:L4ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて409億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は0.46ha減少。



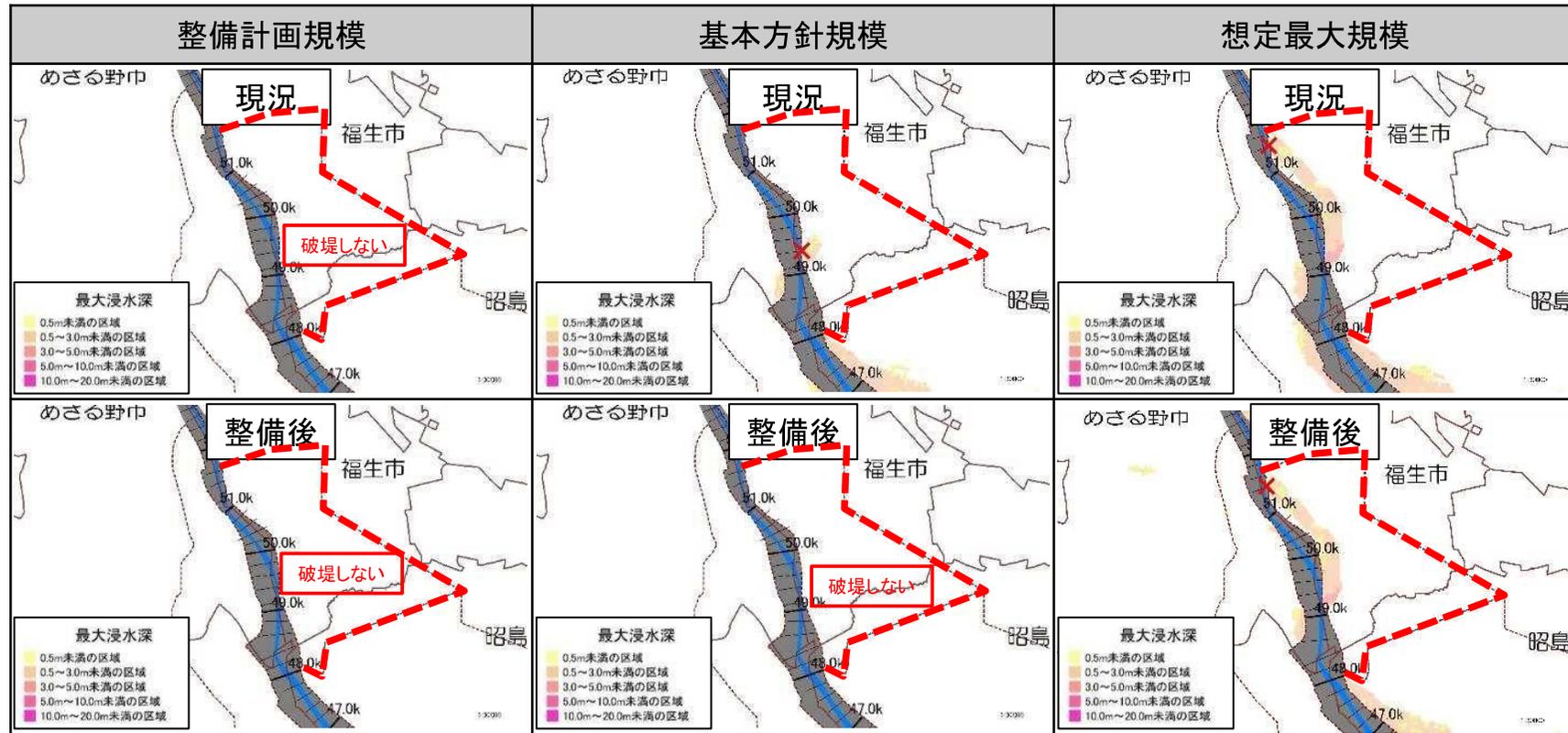
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5²47



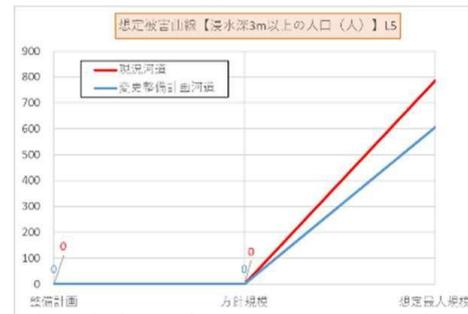
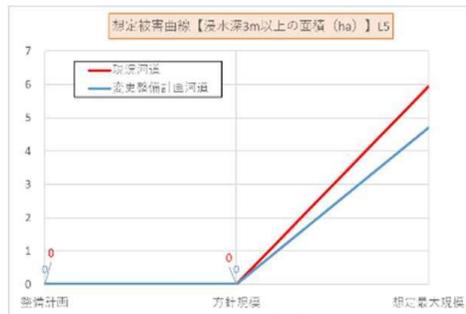
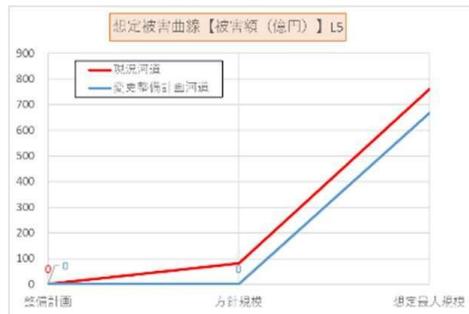
(7) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:L5ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて81億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化なし。



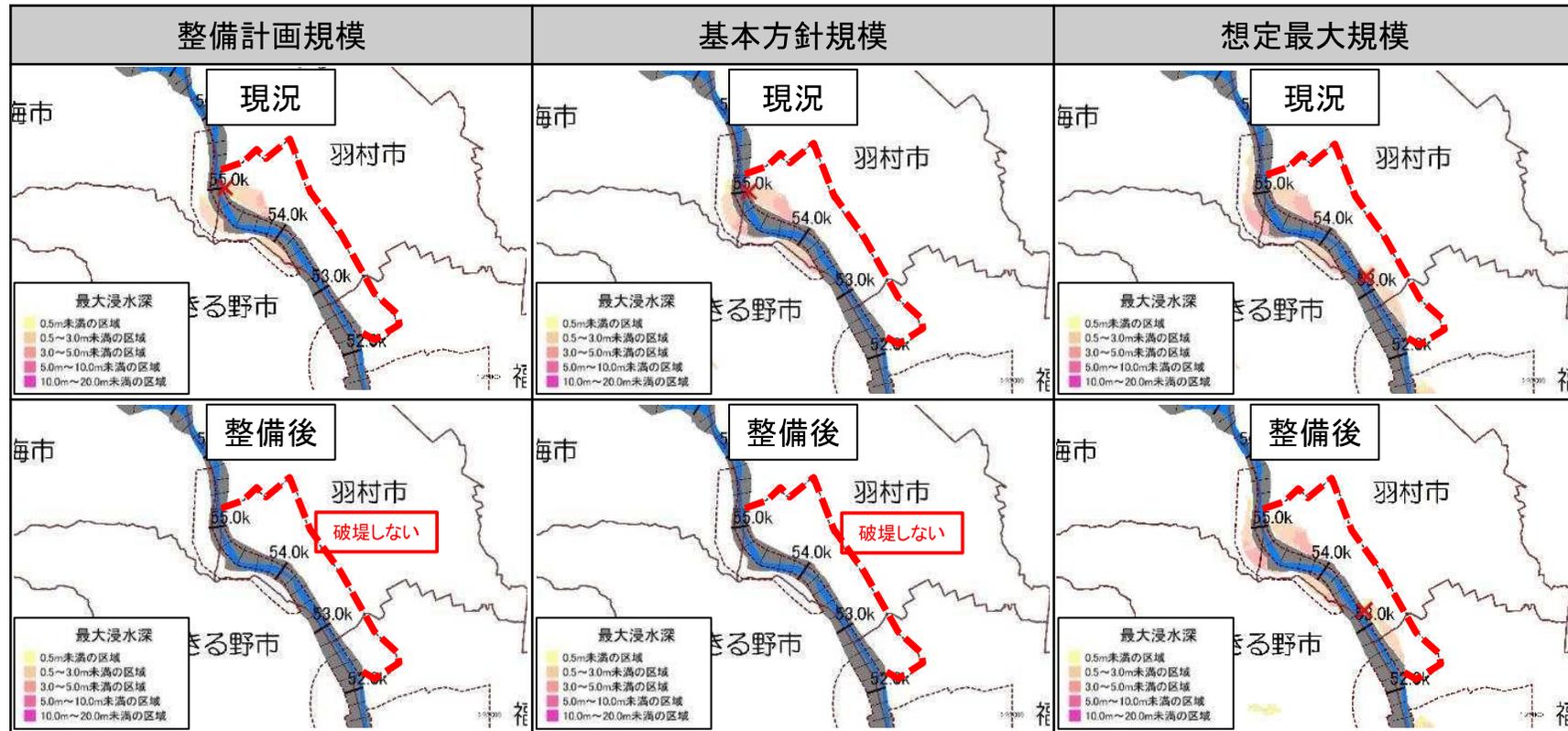
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5/48



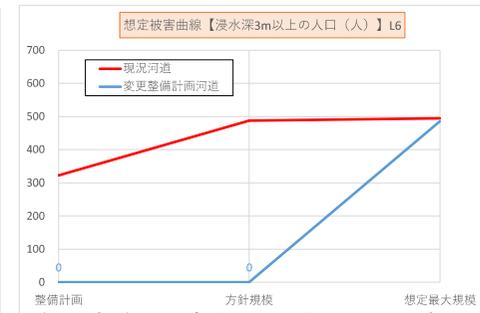
(8) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:L6ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて143億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は5.95ha減少。



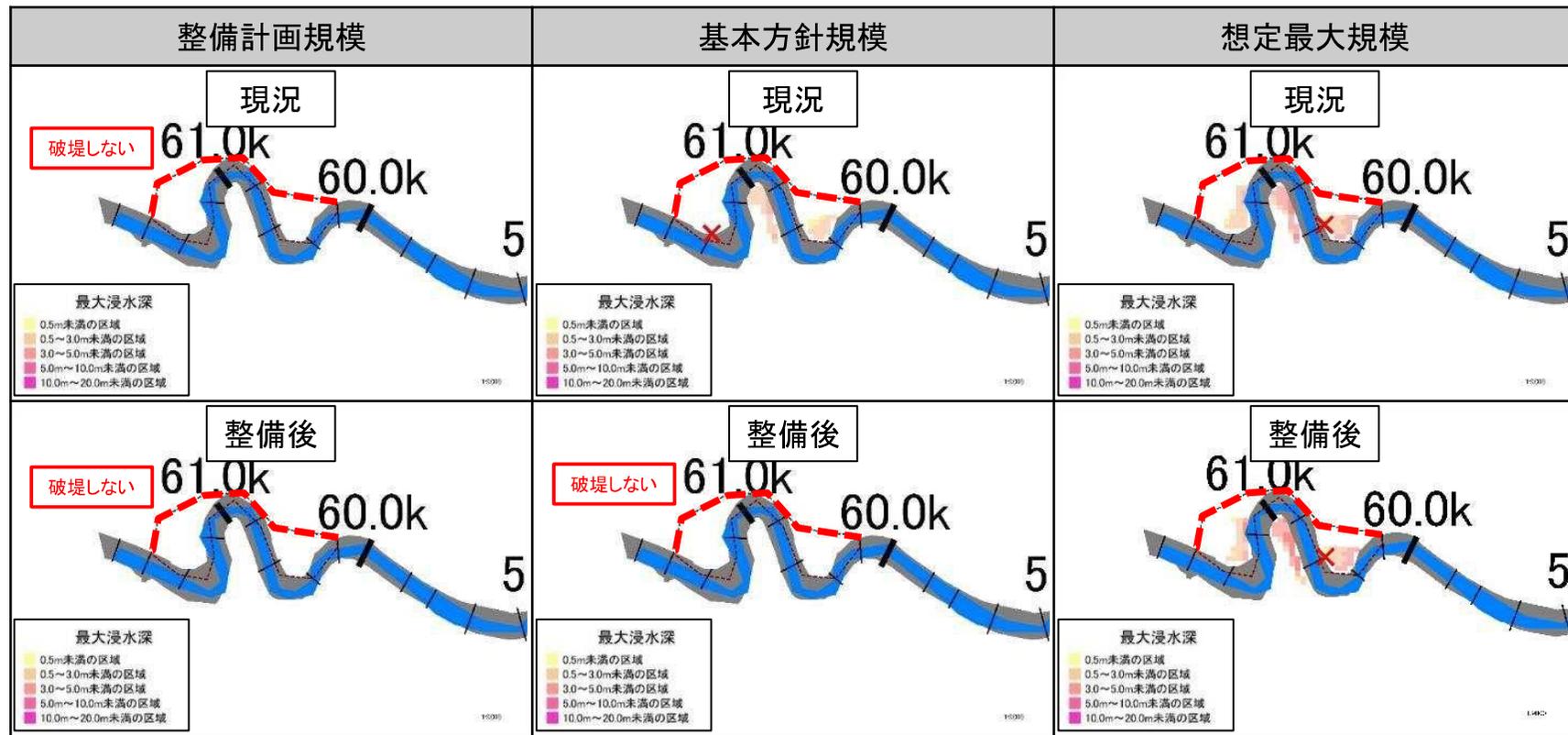
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5/49



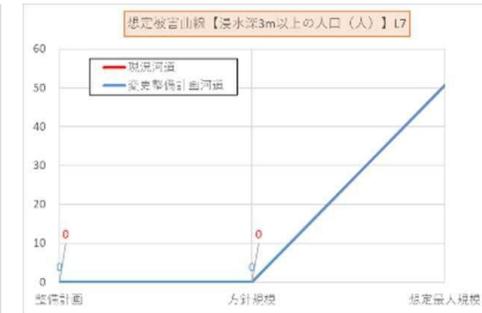
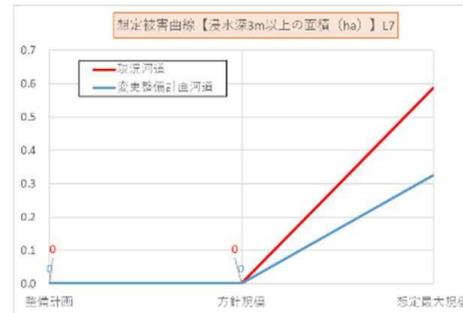
(9) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:L7ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて4億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化なし。



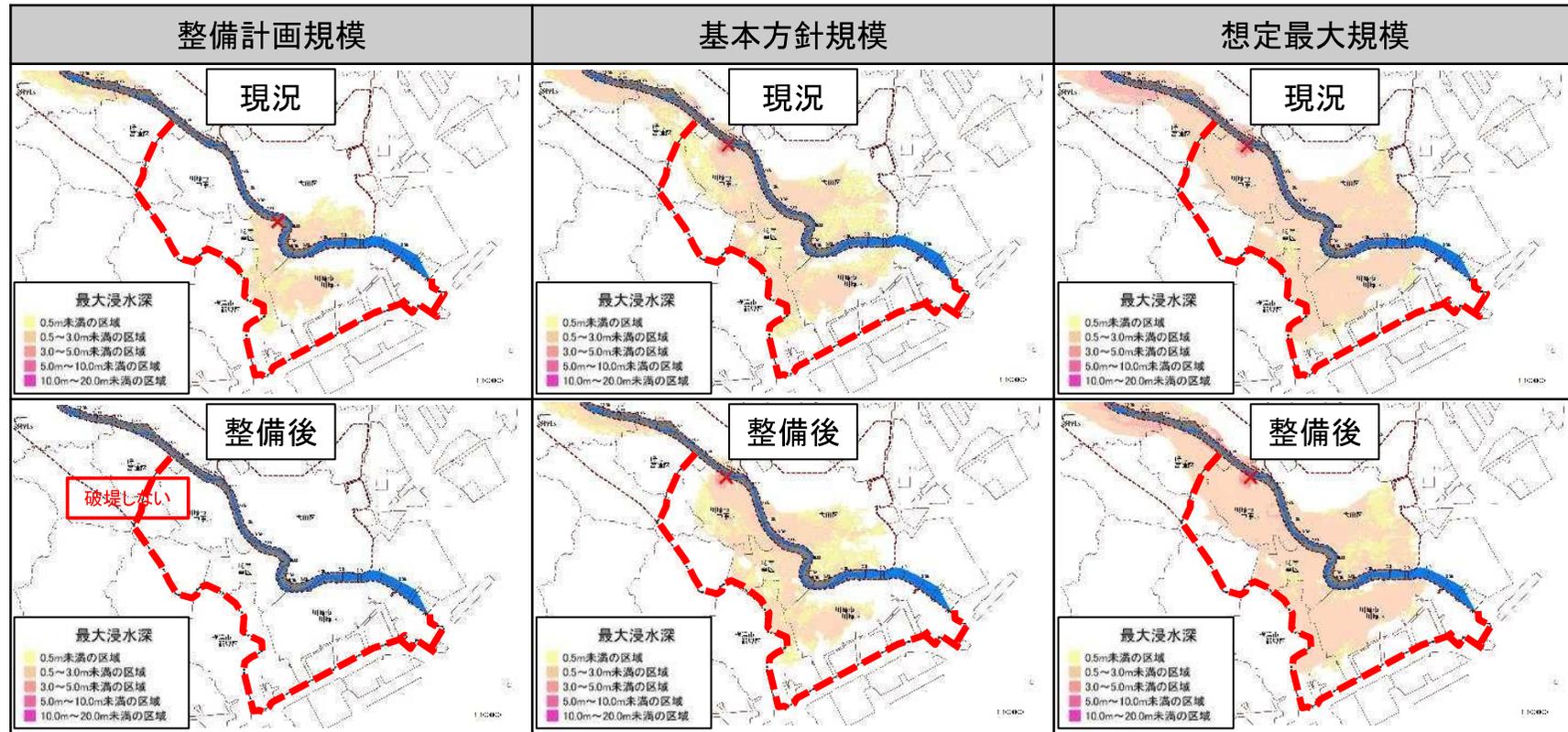
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5/50



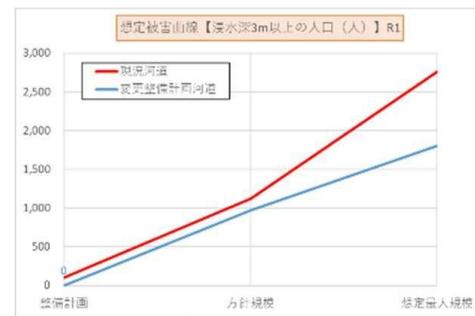
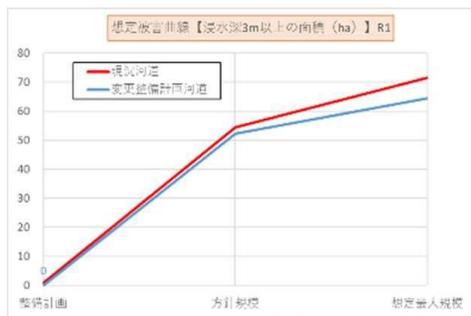
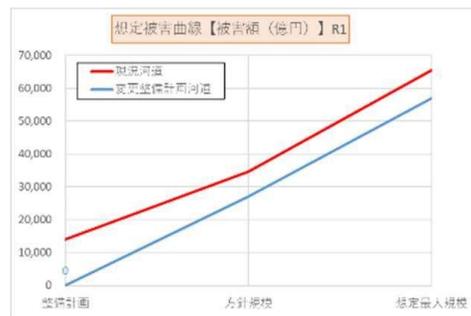
(10) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:R1ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて7,501億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は2.16ha減少。



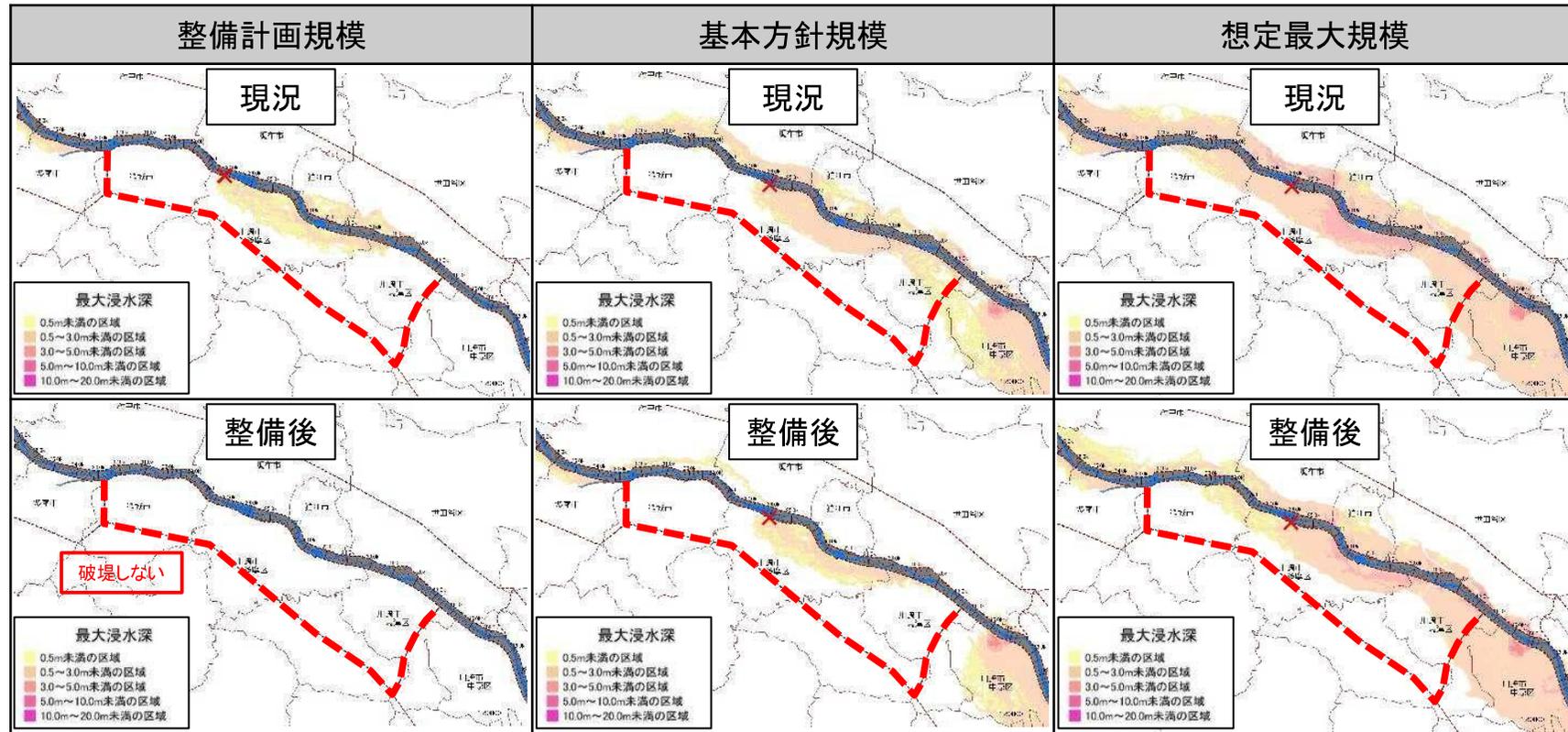
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5-51

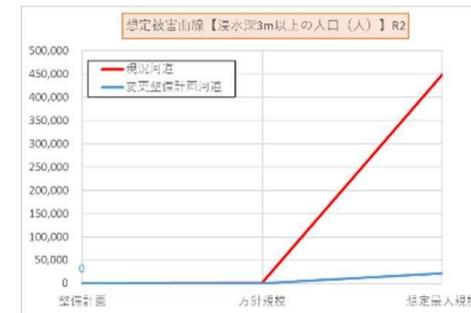
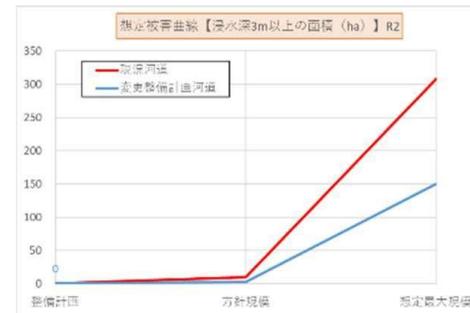
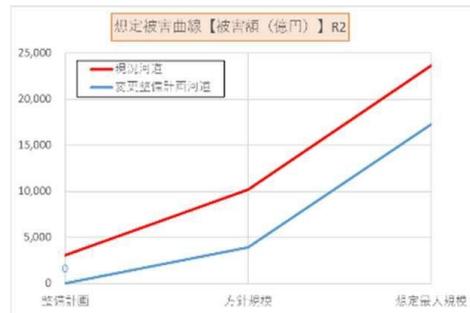


(11) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:R2ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて6,222億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は6.93ha減少。

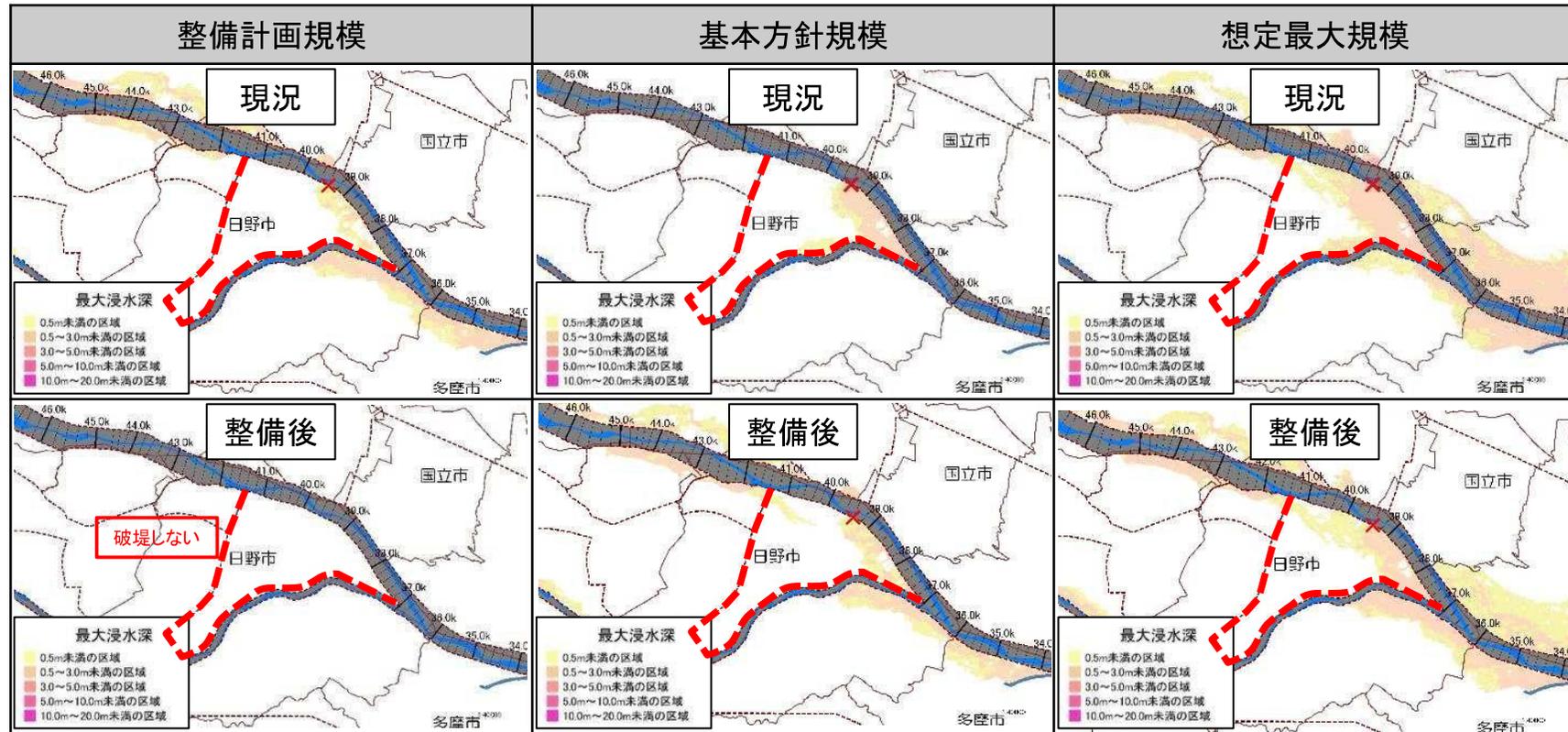


※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で



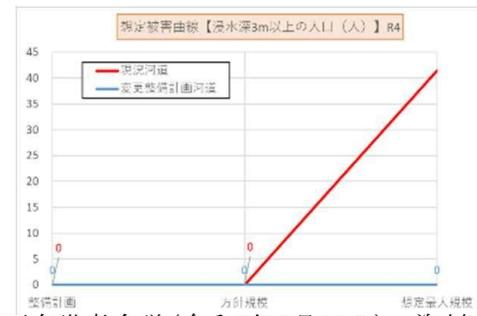
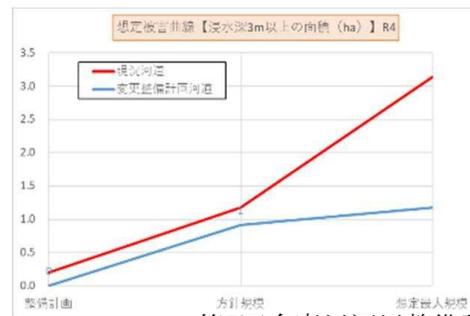
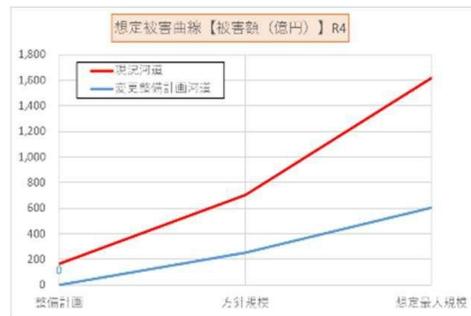
(12) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:R4ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて449億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は0.26ha減少。



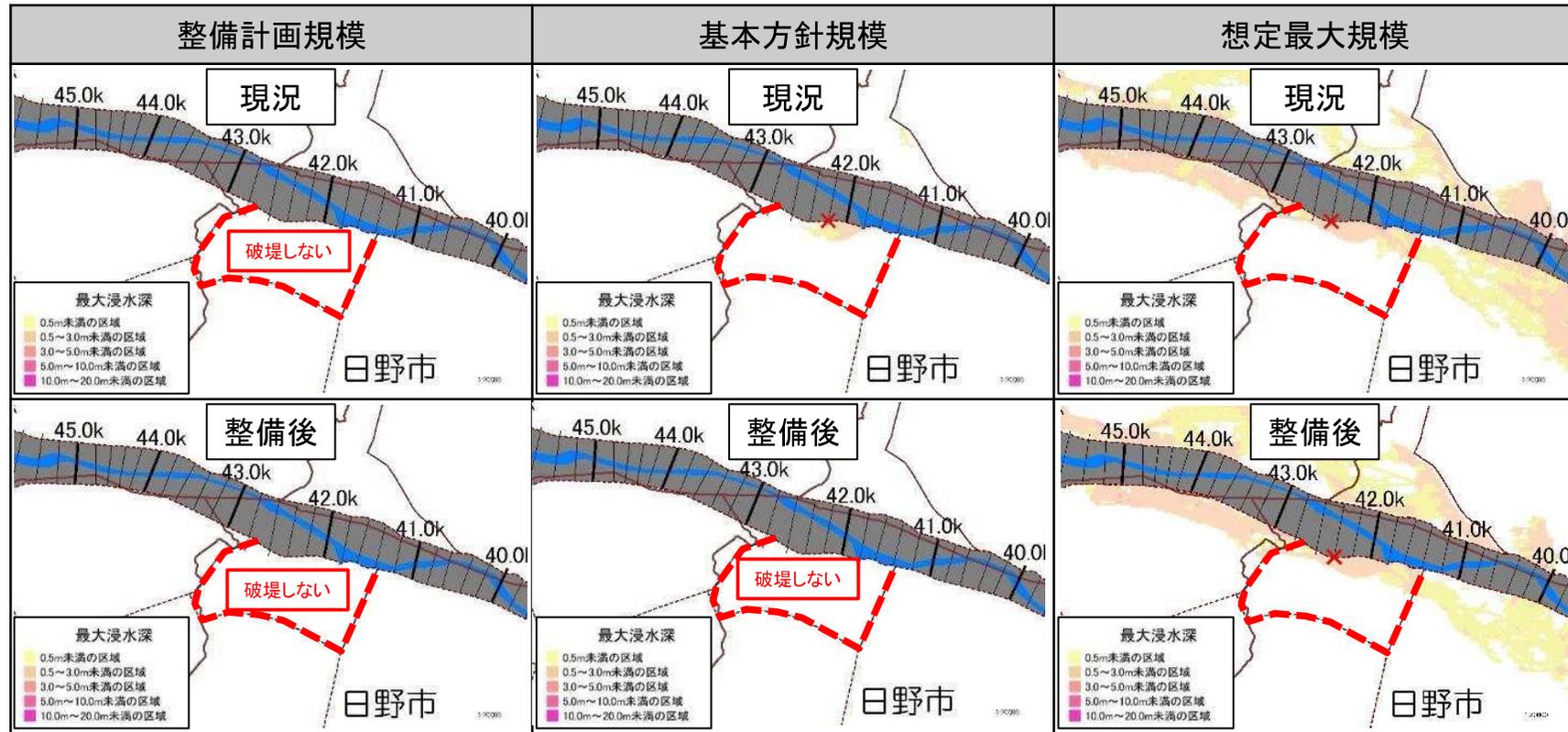
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

5-53

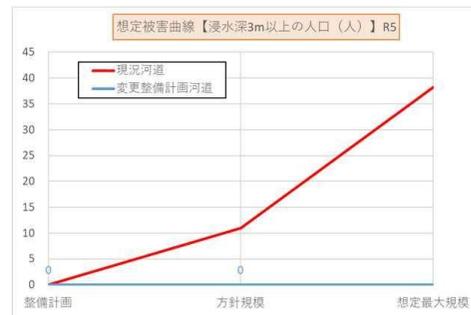
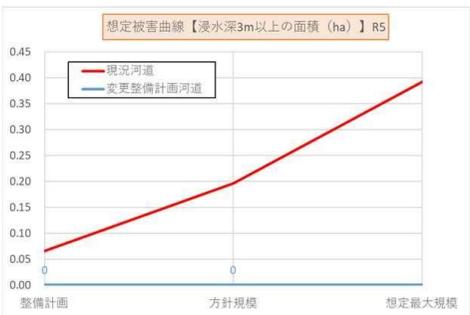
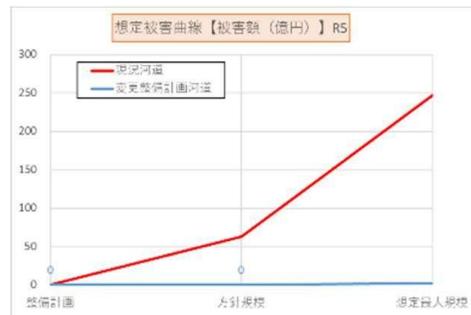


(13) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:R5ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて63億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は0.20ha減少。

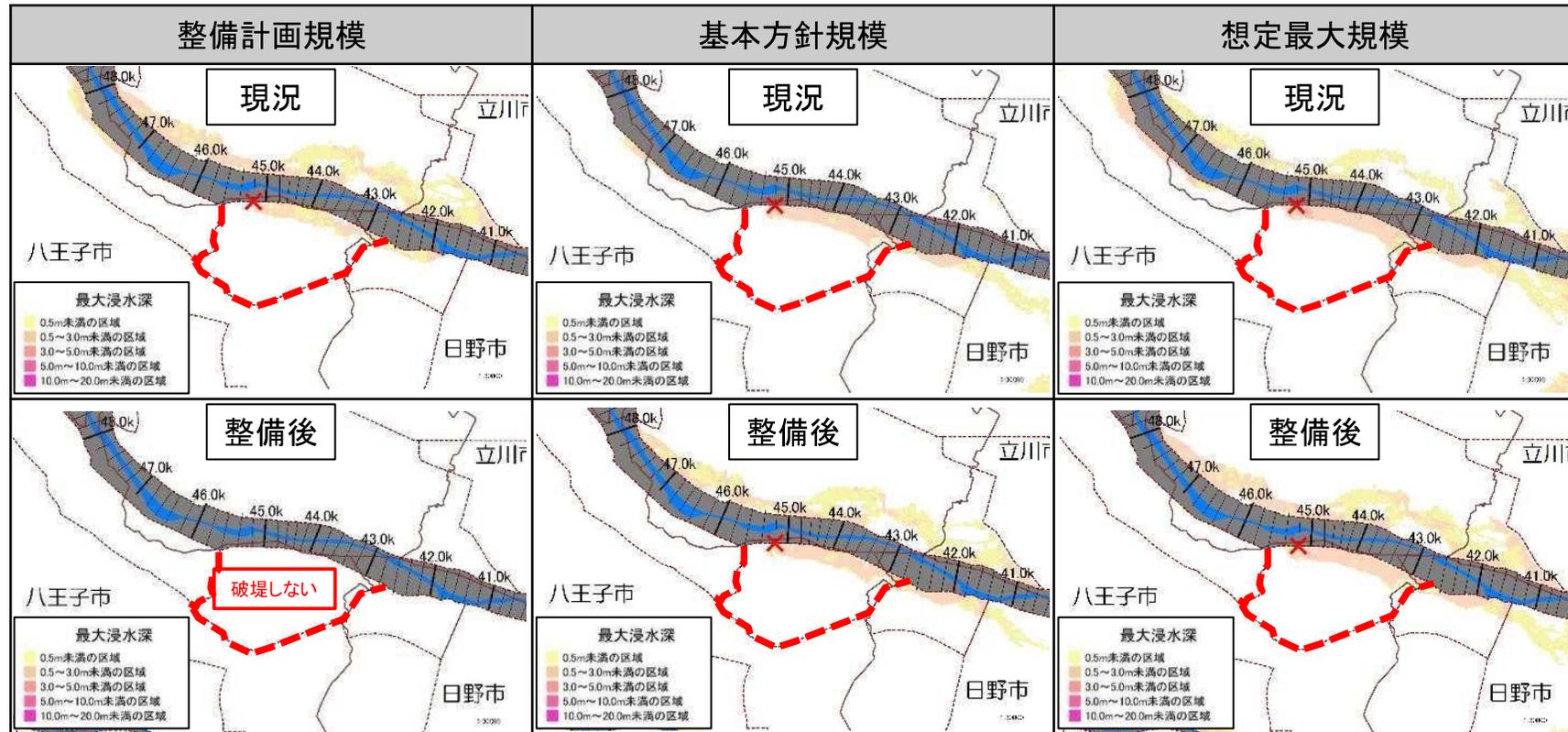


※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で



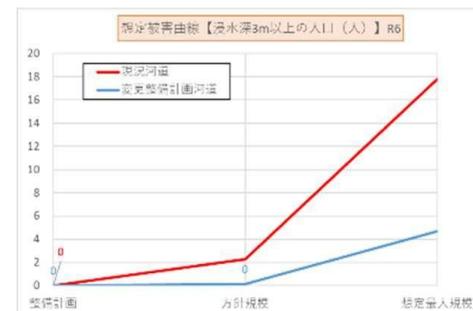
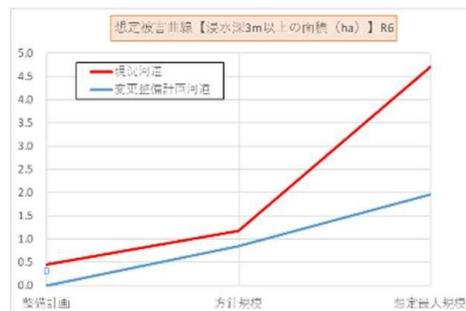
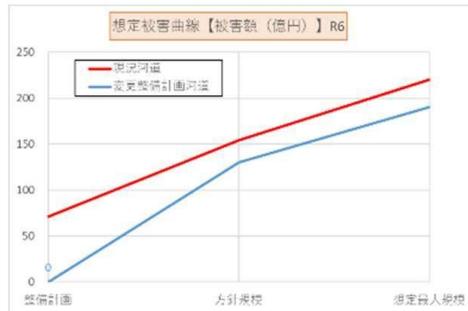
(14) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:R6ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて24億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は0.33ha減少。



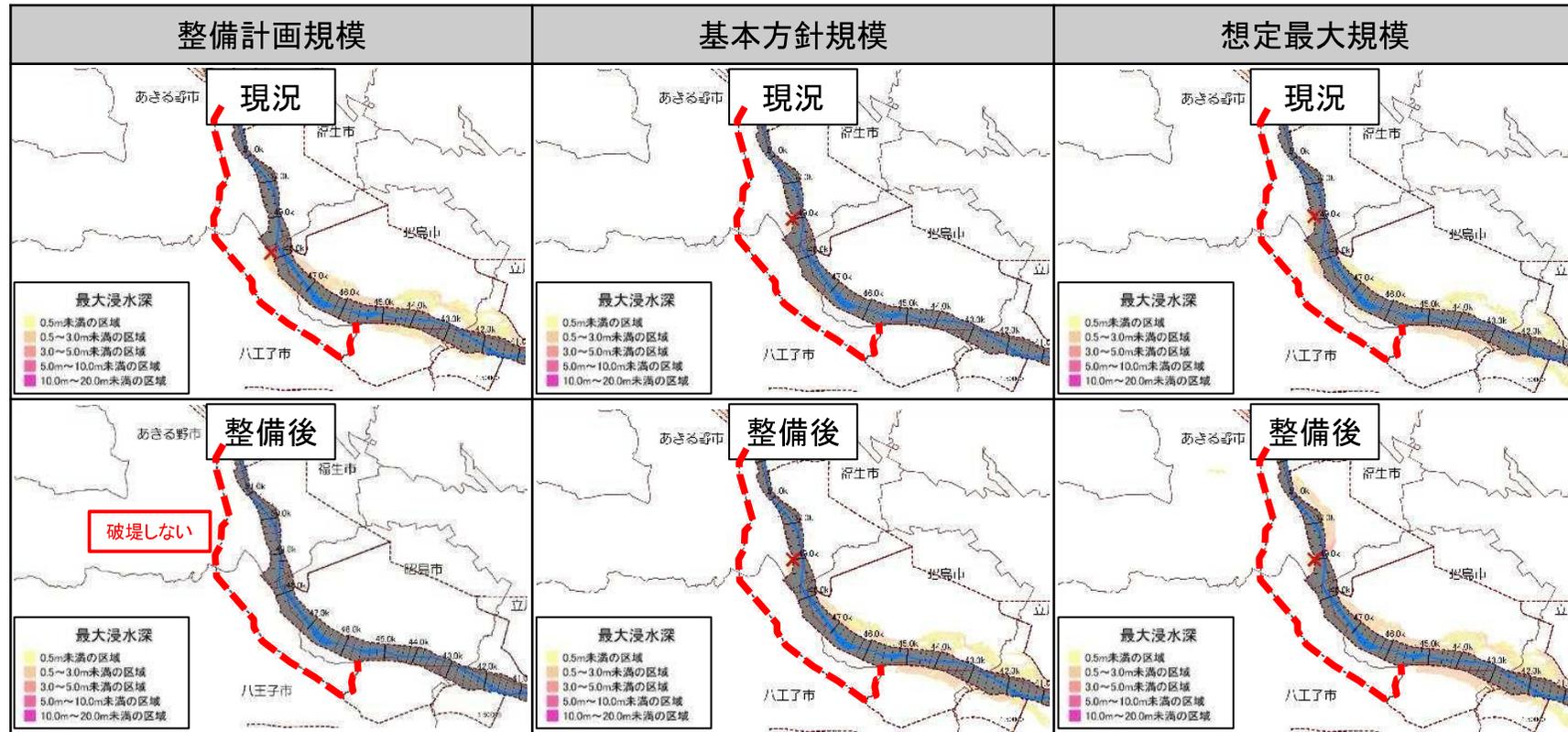
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。

5-55

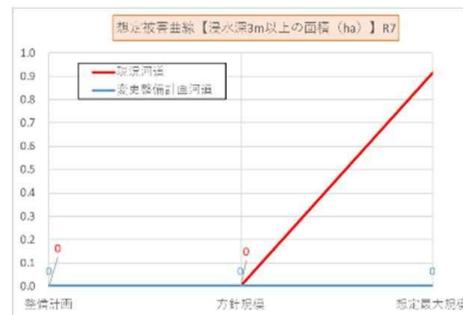
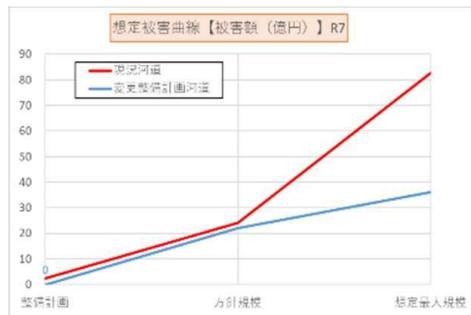


(15) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:R7ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて2億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化なし。

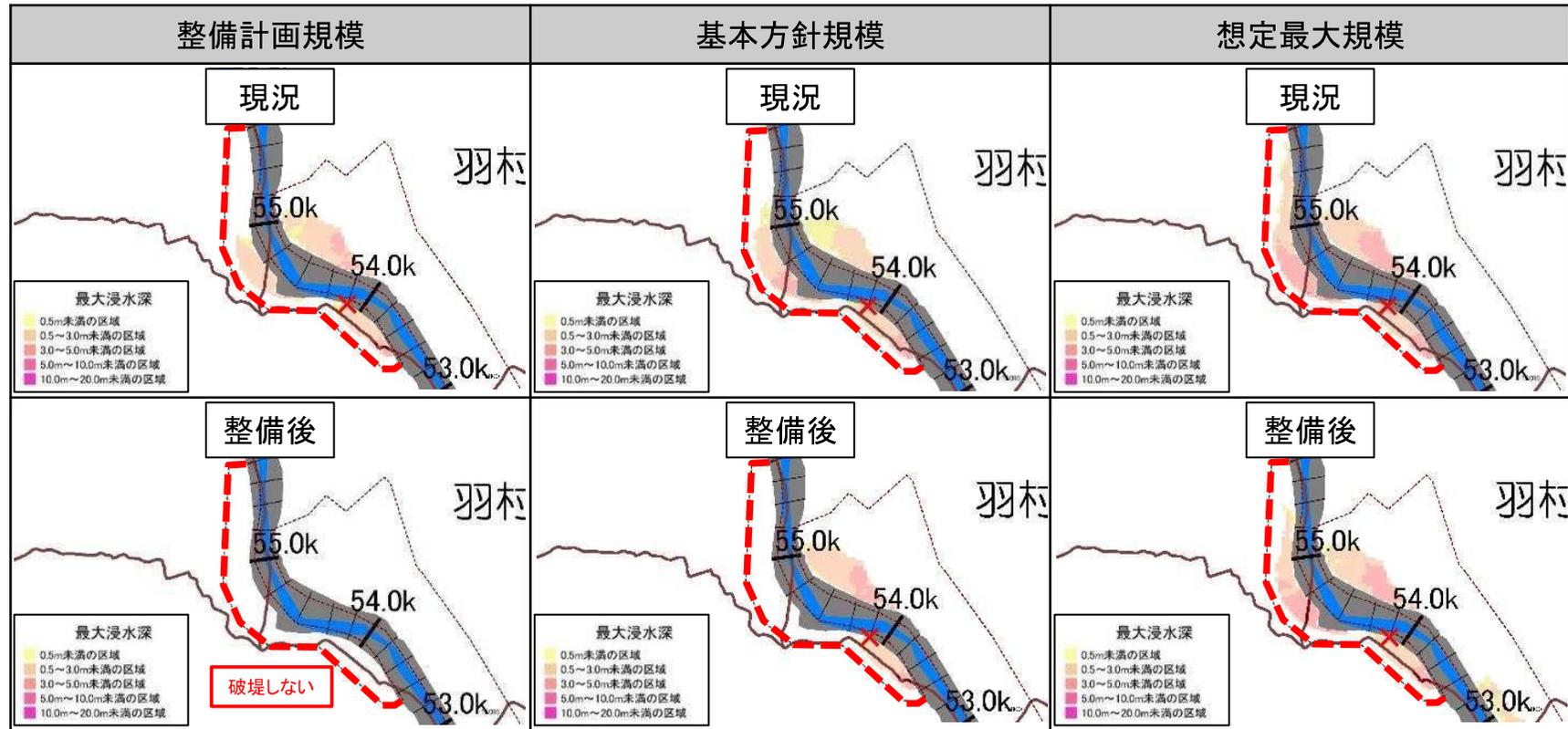


※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で



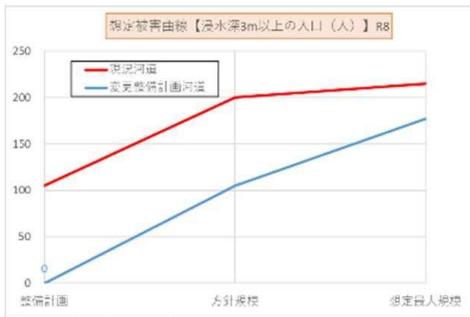
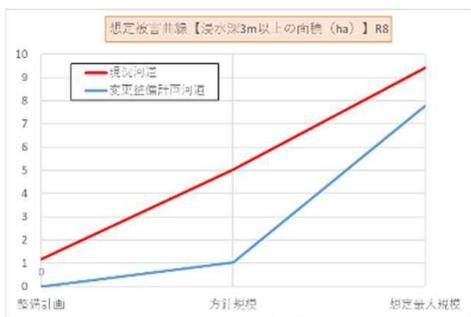
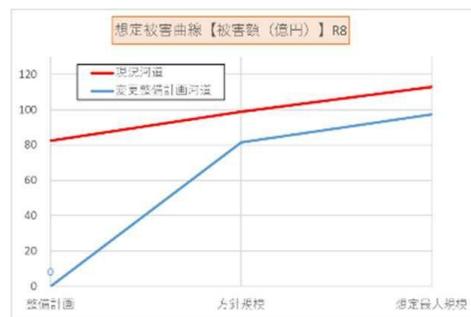
(16) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:R8ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて17億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は3.99ha減少。



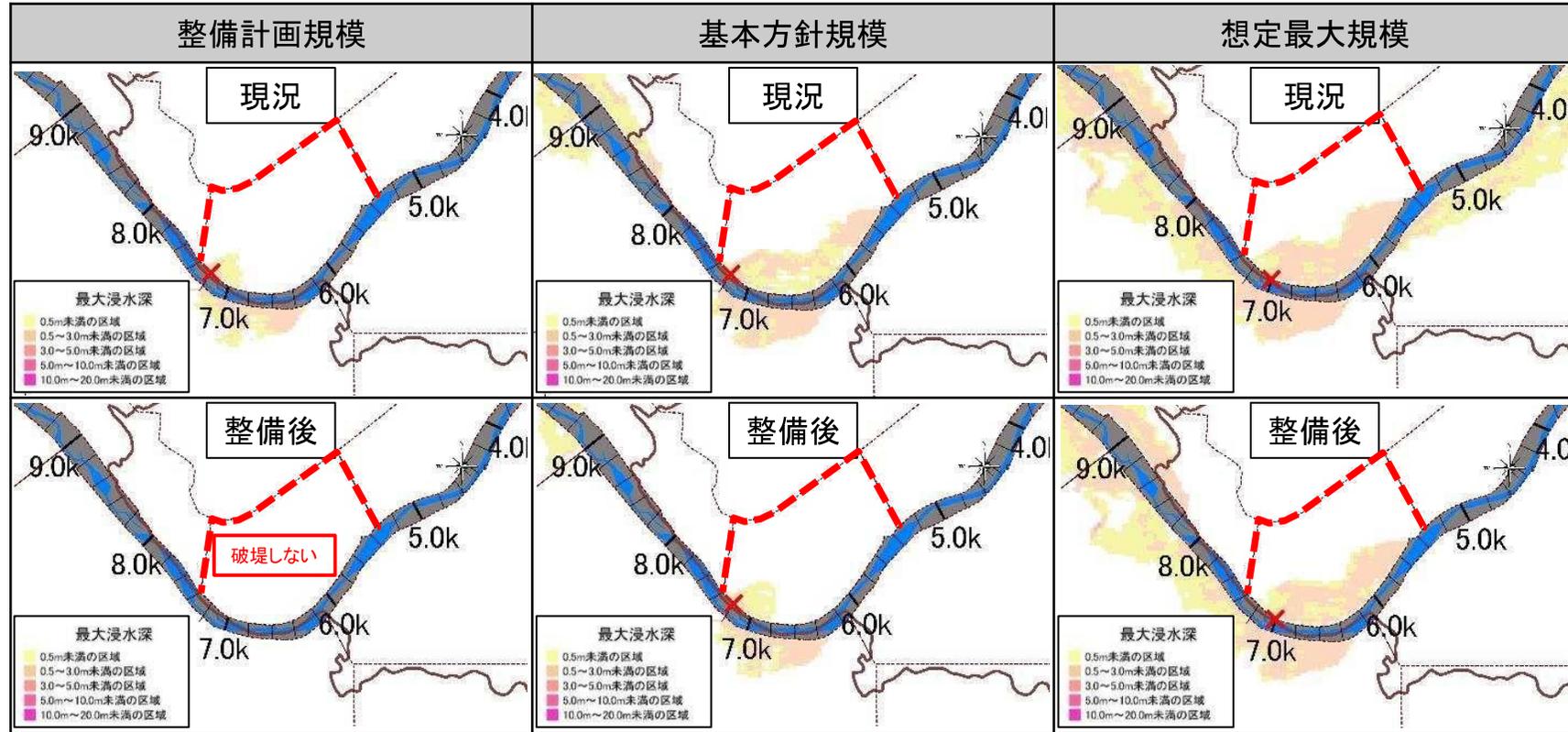
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値で

52-57



(17) 氾濫シミュレーションの結果(浅川:AL2ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて120億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化なし。



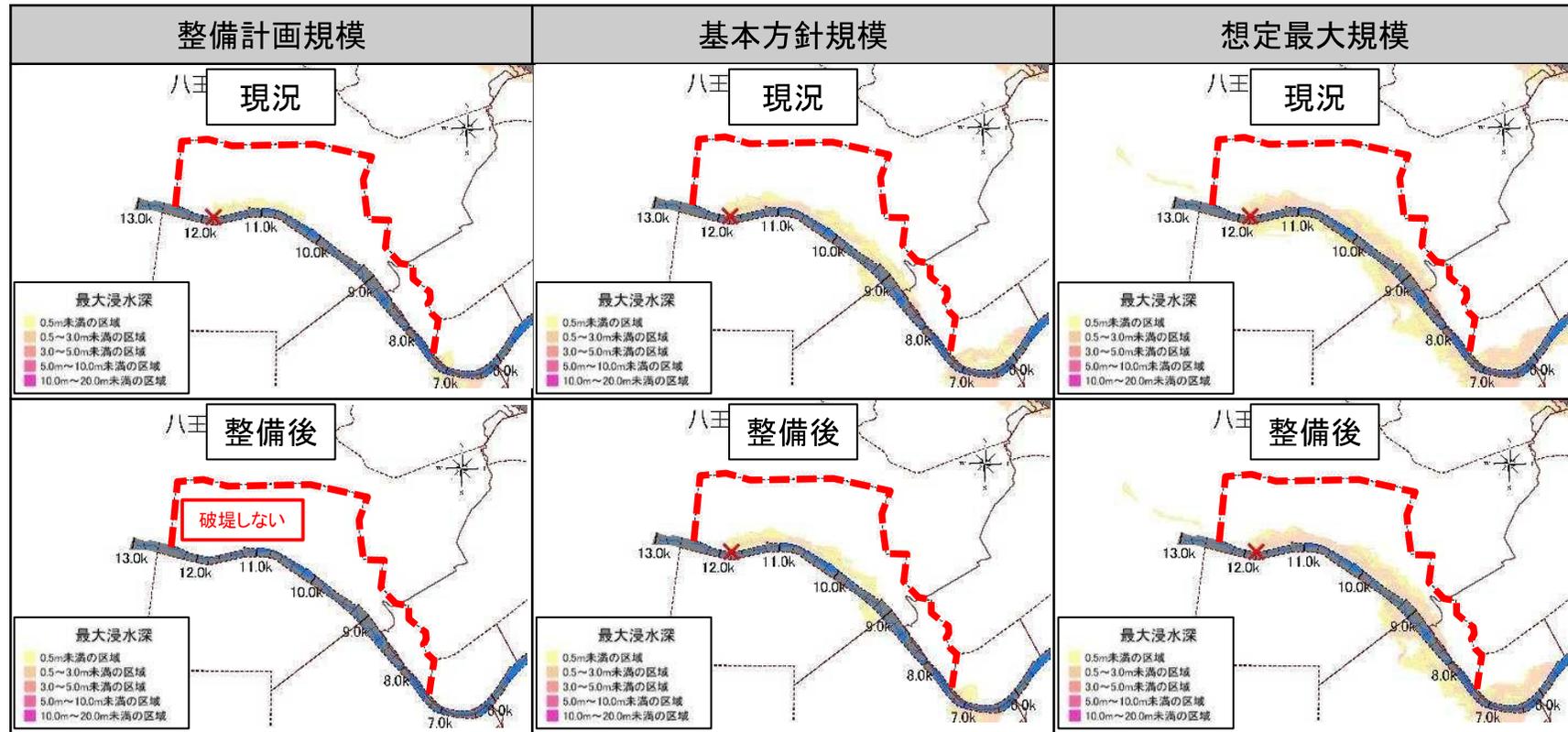
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。

5-58



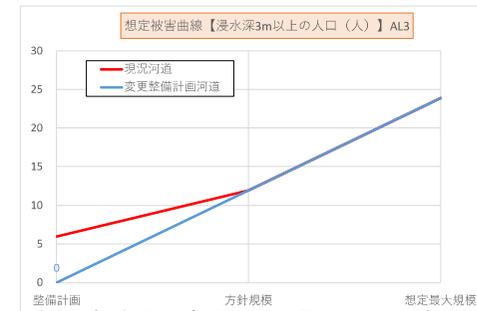
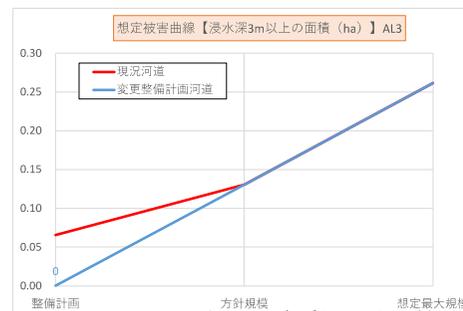
(18) 氾濫シミュレーションの結果(浅川:AL3ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて110億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化なし。



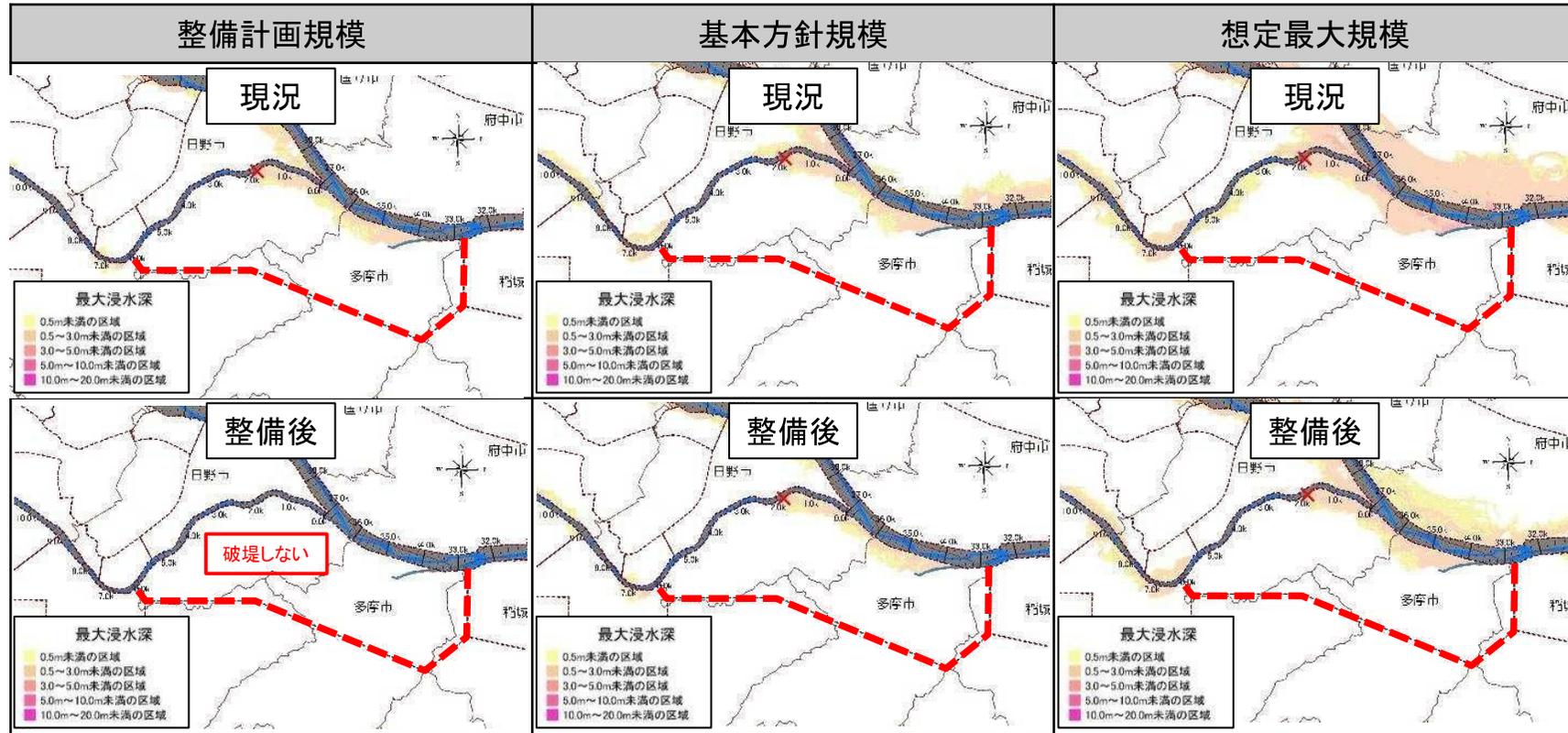
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。

5-59



(19) 氾濫シミュレーションの結果(浅川:AR1ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて569億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は1.57ha減少。



※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。

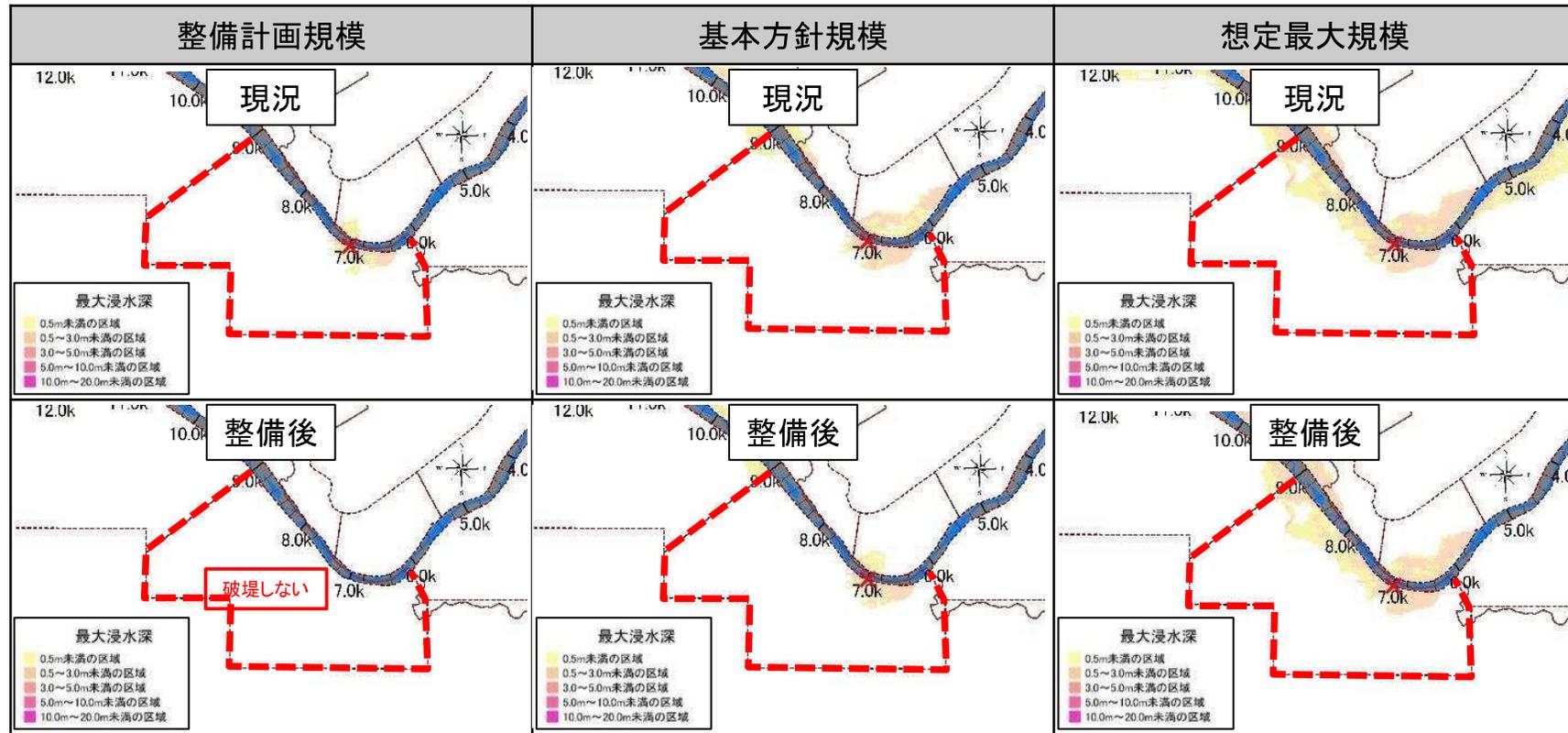
5-60



第7回多摩川河川整備計画有識者会議(令和7年5月20日) 資料-4

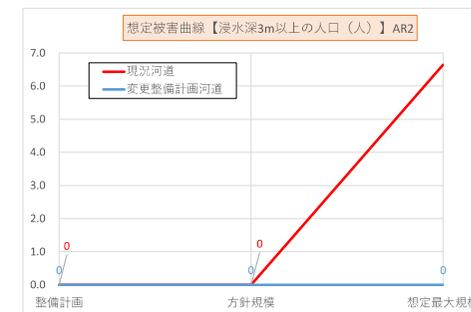
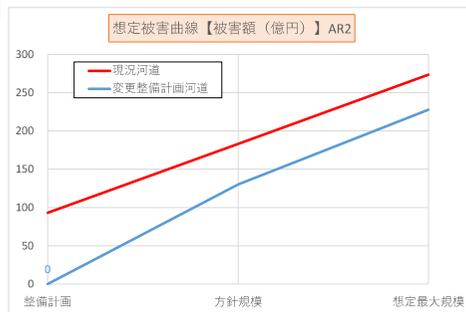
(20) 氾濫シミュレーションの結果(浅川:AR2ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて53億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化なし。



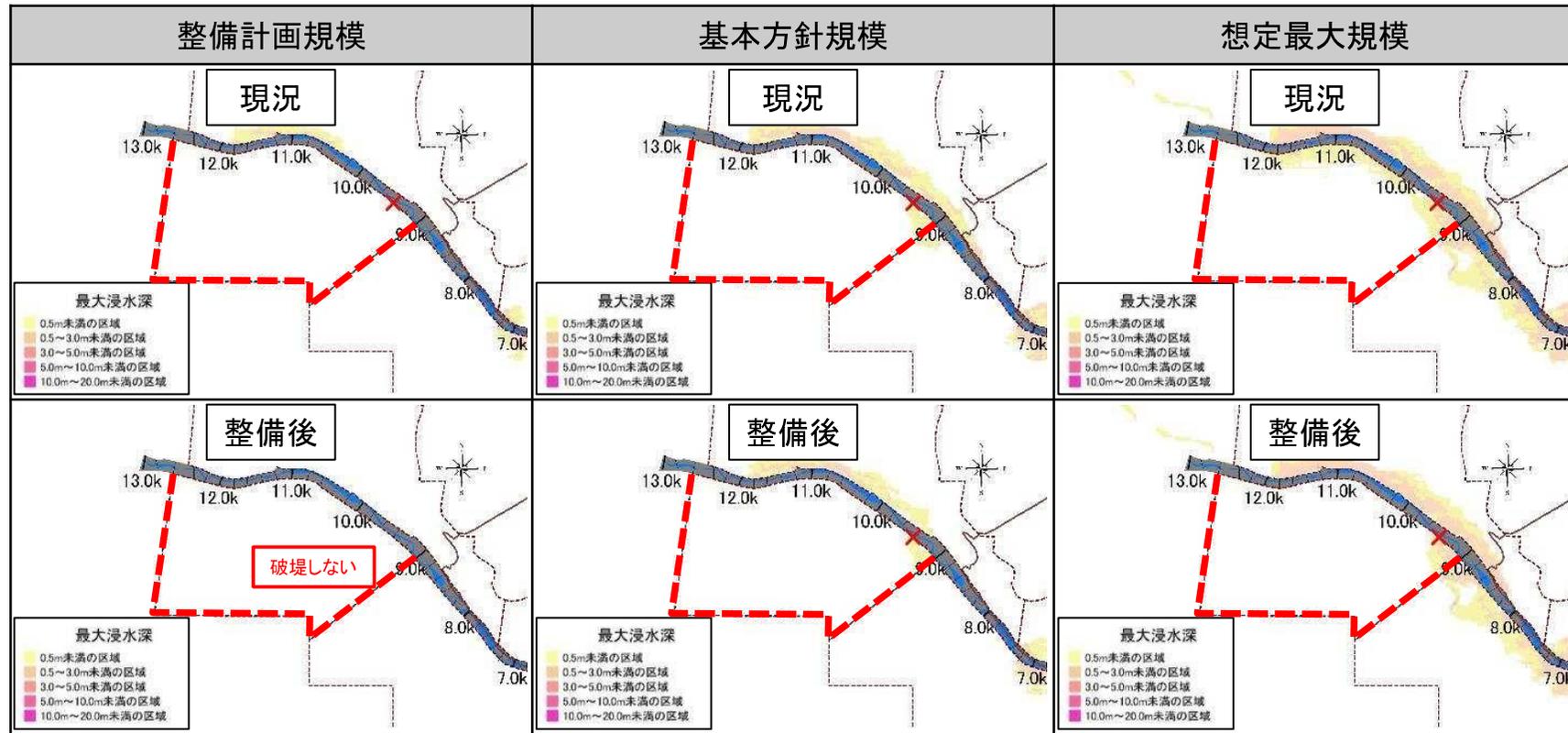
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。

5-61



(21) 氾濫シミュレーションの結果(浅川:AR3ブロック)

○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて4億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は変化なし。



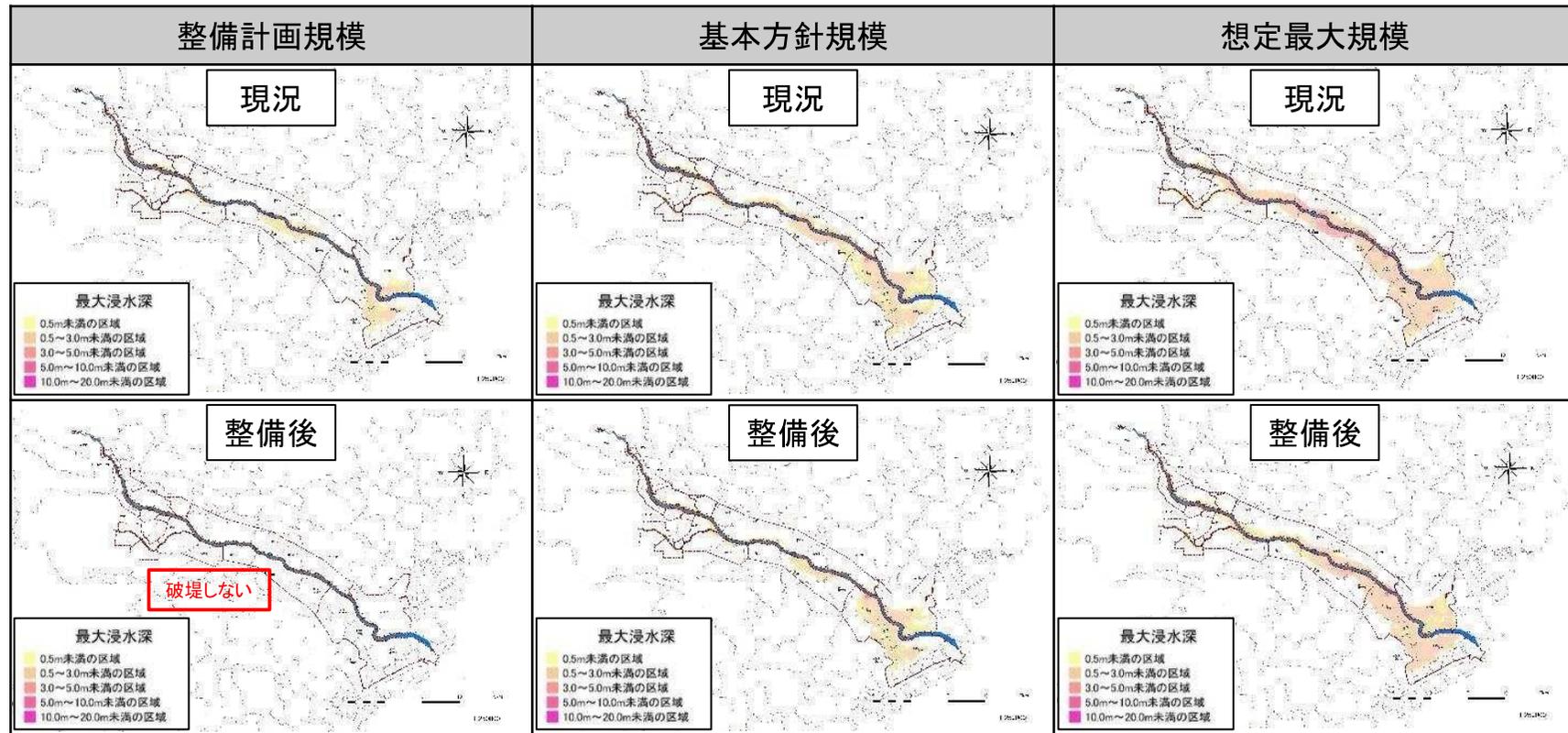
※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。

5-62



(22) 氾濫シミュレーションの結果(多摩川:全ブロック)

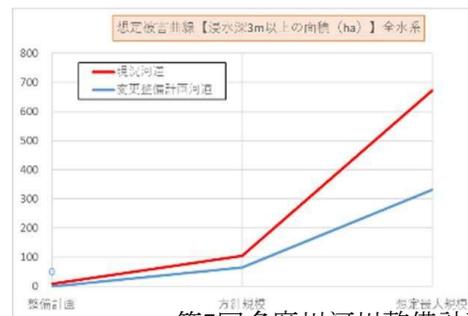
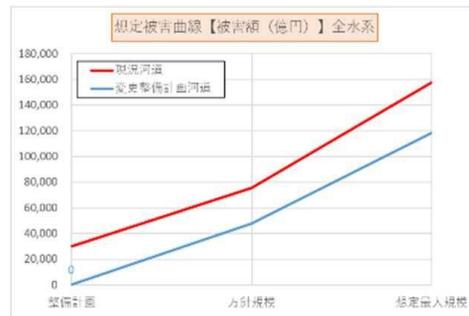
○基本方針規模では、変更整備計画河道は現況河道に比べて28,027億円被害が軽減し、3m以上の浸水面積は43ha減少。



※本図は最大浸水深図をお示しています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。

※本検討は、暫定値で

5-63



第7回多摩川河川整備計画有識者会議(令和7年5月20日) 資料-4

(23) 参考: 代表破堤地点

- 氾濫ブロックごとに破堤敷高流下能力の小さい順に10地点を選定。
- 上記地点で破堤シミュレーションを行い、被害額を算定し、被害額最大の地点を代表破堤地点とした。
- 同一ブロックにおいても、現況河道と整備計画河道、確率規模ごとに破堤地点が異なる可能性がある。
- 多摩川R3ブロックは浅川AR1ブロックに含まれる。同様に浅川AL1ブロックは多摩川R4ブロックに含まれる。

河川	ブロック名	現況河道			整備計画河道		
		W=1/70	W=1/200	W=1/1000	W=1/70	W=1/200	W=1/1000
多摩川	L1	7.0k	9.6k	9.6k	-	9.6k	9.6k
	L2	23.6k	33.2k	23.6k	-	33.2k	23.6k
	L3	39.8k	40.0k	40.0k	-	40.0k	40.0k
	L4	48.0k	48.0k	48.0k	-	48.0k	48.0k
	L5	-	49.4k	51.4k	-	-	51.4k
	L6	55.0k	55.0k	53.2k	-	-	53.2k
	L7	-	61.4k	60.6k	-	-	60.6k
	R1	8.4k	14.4k	14.4k	-	14.4k	14.4k
	R2	27.2k	26.0k	26.0k	-	26.0k	26.0k
	R4	39.4k	39.4k	39.4k	-	39.4k	39.4k
	R5	-	42.2k	42.4k	-	-	42.4k
	R6	45.2k	45.2k	45.2k	-	45.2k	45.2k
	R7	48.2k	49.0k	49.2k	-	49.0k	49.0k
	R8	54.2k	54.2k	54.2k	-	54.2k	54.2k
浅川	AL2	7.2k	7.2k	7.0k	-	7.2k	7.0k
	AL3	11.8k	11.8k	11.8k	-	11.8k	11.8k
	AR1	1.8k	1.8k	1.8k	-	1.8k	1.8k
	AR2	7.0k	7.0k	7.0k	-	7.0k	7.0k
	AR3	9.4k	9.4k	9.4k	-	9.4k	9.4k

【第5回No.4-6補足】排水作業計画 概要

- 排水作業計画は、「水防災意識社会の再構築に向けた緊急行動計画」の取組として、大規模水害発生時に浸水が長期間継続する地区で排水作業準備計画の作成が進められている。
- 多摩川では左岸8ブロック、右岸7ブロックの合計15ブロックが対象となる。
- 各ブロックの現地状況を確認したうえで、排水作業の適地および排水ポンプ車が通行可能なルートを設定した。
- 排水ポンプ車による排水作業の効果を検討した。

対象区域の抽出

- ・排水継続時間が長期化するブロックを抽出

排水作業の適地を抽出

- ・排水ポンプ車を配置する場所
- ・現地の比高と排水ポンプ車の揚程

排水ポンプ車のアクセスルート

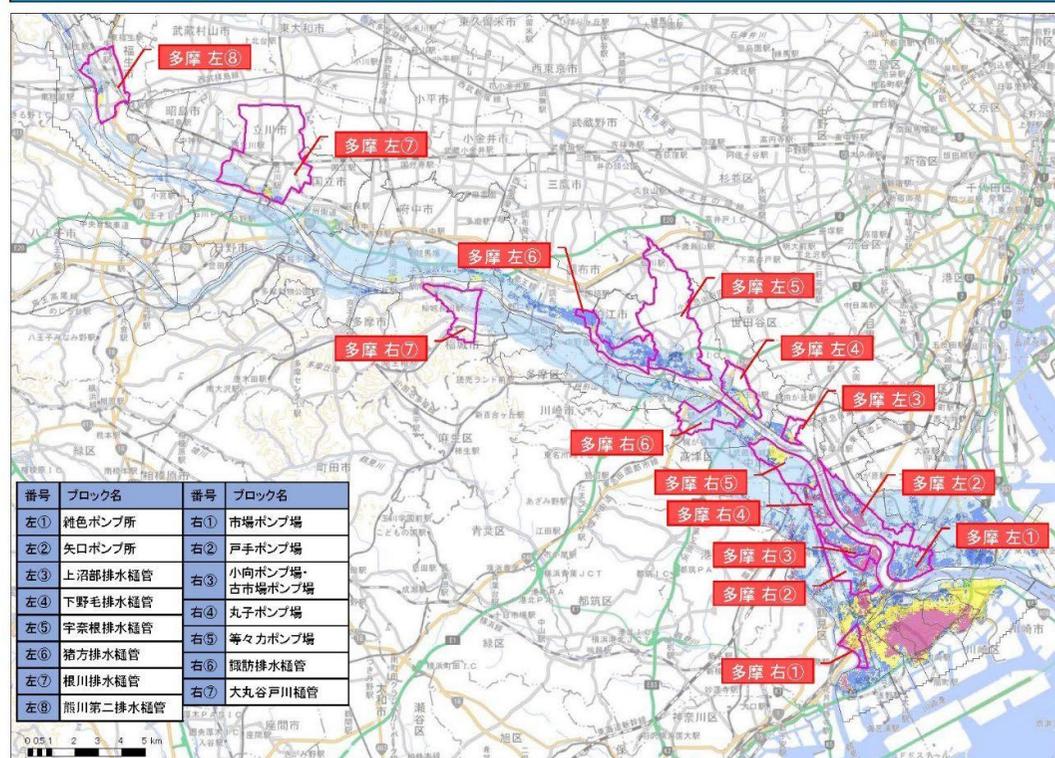
- ・浸水エリアの有無
- ・アンダーパスの有無
- ・排水ポンプ車の通行に必要な幅員2.5mの確保

排水作業の効果検討

- ・排水ポンプ車なし、排水ポンプ車ありで浸水継続時間を比較

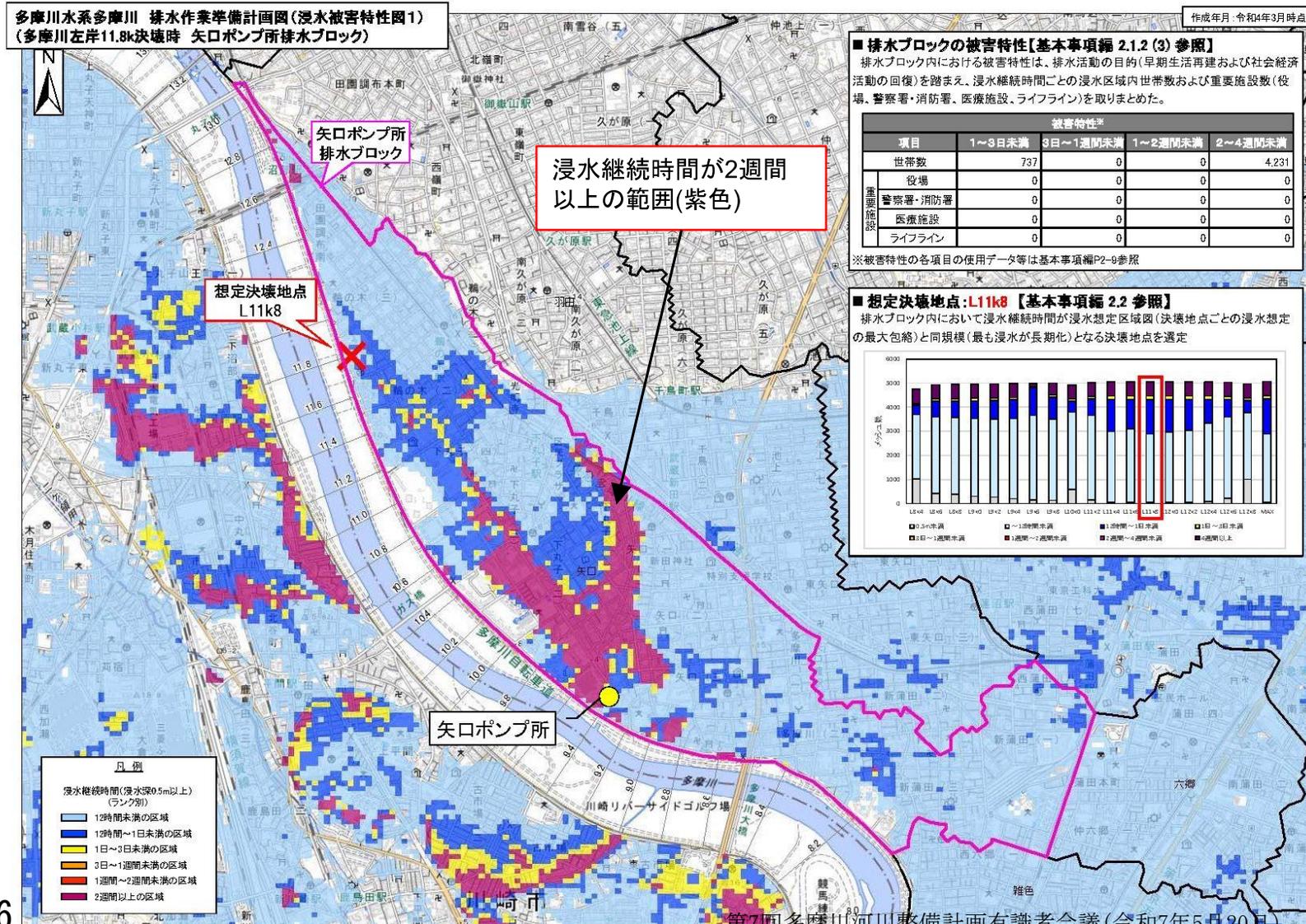
多摩川の対象ブロック: 15ブロック

多摩川水系 排水作業準備計画ブロック位置図



【第5回No.4-6補足】排水作業計画 左②矢口ポンプ所排水ブロックの事例

- 左②矢口ポンプ所排水ブロックでは、想定決壊地点は左岸11k8である。
- 左岸11k8の決壊では、2週間以上の浸水継続時間が想定される。

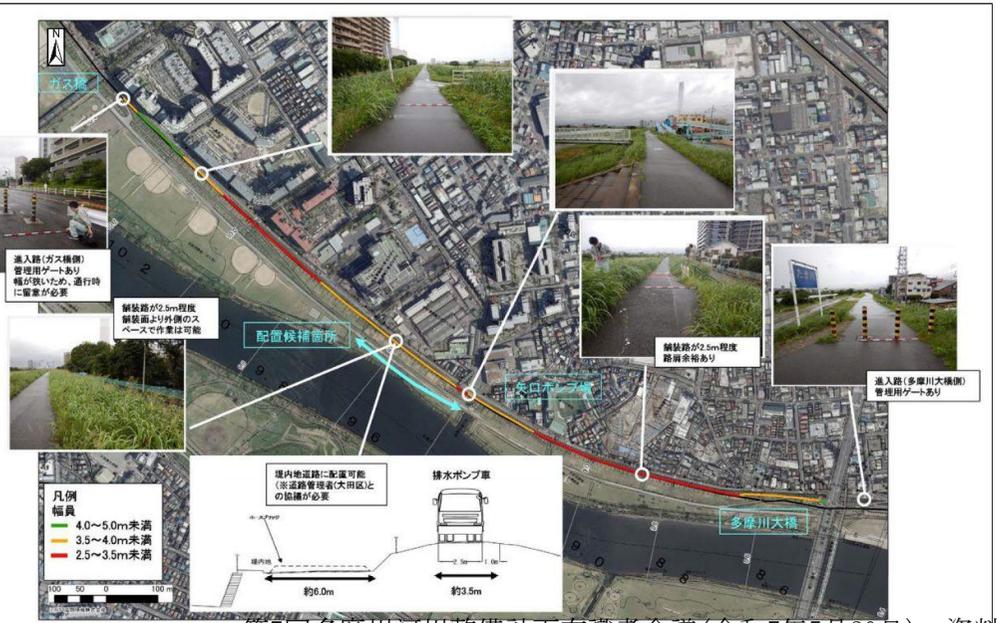
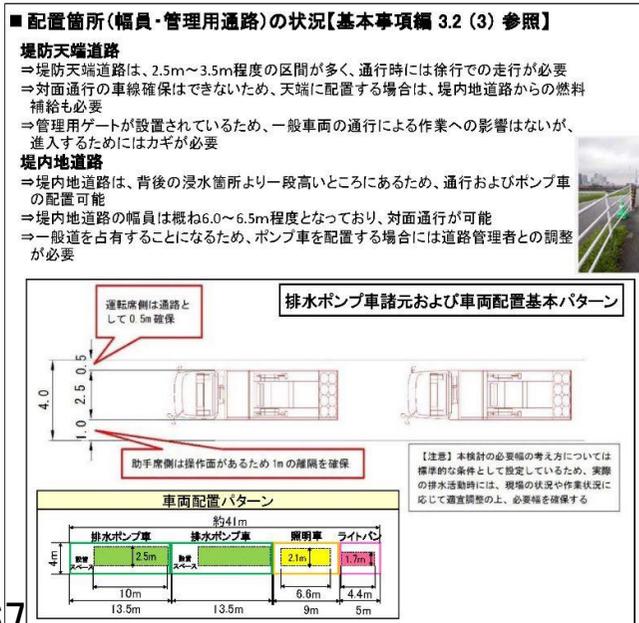
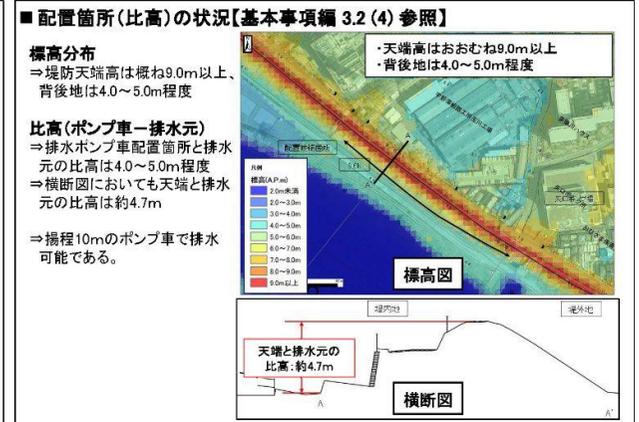
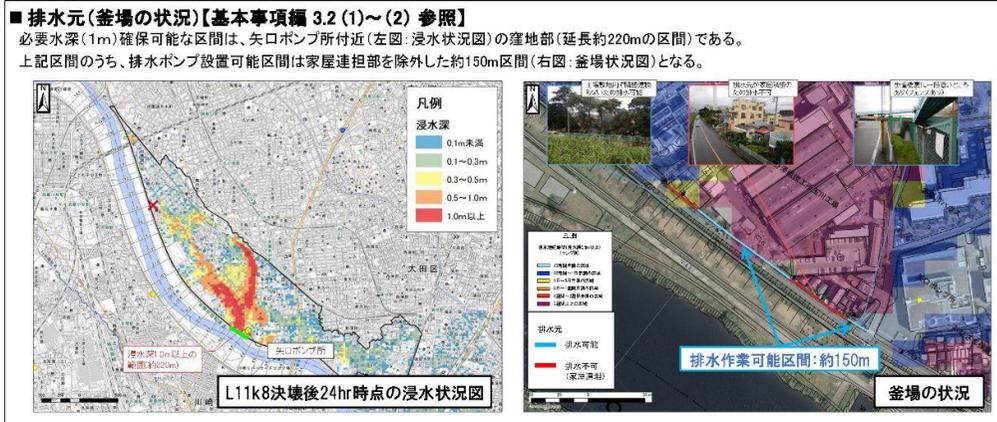


【第5回No.4-6補足】排水作業計画 左②矢口ポンプ所排水ブロックの事例

- 排水ポンプ車の設置箇所を、現地の状況から設定した。
- 適地は矢口ポンプ場付近の窪地である。現地で車両の配置や揚程に問題がないことから、排水作業可能区間とした。

多摩川水系多摩川 排水作業準備計画図(排水ポンプ車配置場所)
(多摩川左岸11.8k決壊時 矢口ポンプ所排水ブロック)

作成年月:令和4年3月時点



【第5回No.4-6補足】排水作業計画 左②矢口ポンプ所排水ブロックの事例

- 排水作業可能区間にアクセスするルートを設定した。排水ポンプ車が通行するためには幅員2.5mが必要となる。(天端3.5m、堤内道路6m)
- 浸水区域や幅員を確認し、右岸からガス橋(上流)を渡ってアクセスとした。

多摩川水系多摩川 排水作業準備計画図(排水ポンプ車配置詳細図) (多摩川左岸11.8k決壊時 矢口ポンプ所排水ブロック)

アクセスルート詳細図

【留意事項】
 ・浸水継続時間は、排水ブロックのみ表示しているが、アクセスルートは、想定最大規模の浸水範囲(対岸側)と流側の浸水を含む考慮したものとなっている。当日の浸水状況を踏まえて適宜柔軟に対応するものとする。
 ・堤内地へ配置する場合はガス橋側のみアクセス可能
 ・ガス橋より下流で決壊した場合には、堤内地道路が通行不可となるため、堤防天端への配置が必要となる。

天端を走行するとガス橋付近の天端へのアクセス箇所が狭く、通行できないため、多摩川沿線道路を通行。多摩川沿線道路は浸水箇所より一段高いため、走行可能

凡例

- アクセスルート候補①
- アクセスルート候補②
- ★ 配置箇所への進入地点
- ⇄ 管理用ゲート
- Ⓢ ガソリンスタンド
- 🛒 コンビニエンスストア

浸水継続時間
 (浸水深0.15m以上)
 ※車両通行可能な浸水深

- 12時間未満
- 12時間～1日未満
- 1日～1.5日未満
- 1.5日～2日未満
- 2日～3日未満
- 3日～1週間未満
- 1週間～2週間未満
- 2週間以上

堤防天端情報図部

堤内地道路はアンダーパス浸水により通行不可

配置区間

多摩川大橋側天端 アクセス地点

多摩川大橋

川崎リトルサイドゴルフ場

多摩川

東芝工場

東芝工場

走行・配置可能なポンプ車両規格
 30m²/min車、45m²/min車、60m²/min車

作成年月:令和4年3月時点

配置箇所付近の堤防天端・堤内地道路情報図

天端・堤内地道路の幅員

- 5.0～6.0m
- 4.0～5.0m
- 3.5～4.0m
- 2.5～3.5m (通行に留意が必要)

照明車のアウトリガー展開可能(約3.6m)

多摩川大橋

配置詳細図

堤内地の区道に最大8台配置可能

堤防天端

配置スペース

- 排水ポンプ車
- 照明車
- ライトバン

排水元

- 排水可能
- 排水不可(家屋連理)

雑産の有無

- 無(8台)
- 有(0台)

現場写真

① 舗装路は2.5m程度 路肩に余裕あり

② 舗装路は2.5m程度のため走行時に注意

③ 堤防⇄道路間に高さ1mのフェンス有(要切断)

④ 高さ1m程度のフェンス有(取り外しが必要)

⑤ 背後地にフェンスあり(高さ約1m)

現場写真

③ 堤防⇄道路間に高さ1mのフェンス有(要切断)

④ 高さ1m程度のフェンス有(取り外しが必要)

⑤ 背後地にフェンスあり(高さ約1m)

【作業時に必要な備品】
 ※排水ポンプ車1台あたり
 ・ブルーシート 約3枚(5.4m×7.2mの場合)
 ・約4枚(3.6m×5.4mの場合)
 ・土のう 約16個
 ※ホース1車あたり約4つ使用

配置イメージ

【第5回No.4-6補足】排水作業計画 左②矢口ポンプ所排水ブロックの事例

- 排水作業による効果を検討した。
- 排水ポンプ車の排水がない条件では28日以上(672h)となる。決壊後12時間で排水ポンプ車2台で排水開始をすると約5.2日(124h)となり、浸水継続時間が22.8日(548h)の短縮となった。

多摩川水系多摩川 排水作業準備計画図(排水効果)
(多摩川左岸11.8k決壊時 矢口ポンプ所排水ブロック)

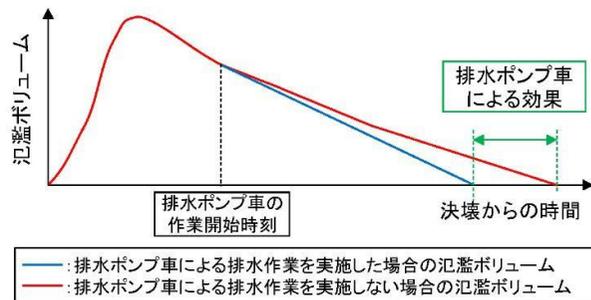
作成年月:令和4年3月時点

■ 排水作業による効果の算出【基本事項編 3.6 参照】

排水作業による効果は、浸水継続時間の低減時間で評価する。効果算条件は以下の通りとした。氾濫計算は簡易的な池モデルによる計算とした。

【効果算出方法】

- ① 洪水浸水想定区域図作成時の時系列の浸水深データから氾濫ボリュームを算出(下図の赤線)
- ② 排水ポンプ車の配置台数・作業開始時刻を設定した上で、時刻毎の排水量を算出
- ③ ②の時刻毎排水量をポンプ車の作業開始時刻から累積し、①から差し引くことで排水作業を実施した場合の氾濫ボリュームを算出(下図の青線)
- ④ 氾濫ボリュームが0となる時間を排水完了目安として、軽減日数により効果を算定



排水ポンプ車による排水効果算出イメージ

■ 矢口ポンプ所排水ブロックにおける排水作業効果

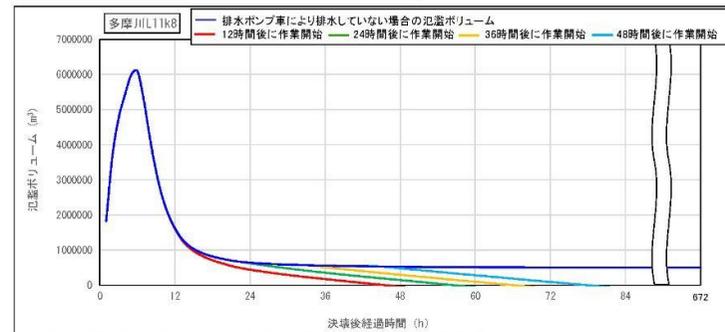
多摩川L11k8決壊時の矢口ポンプ所排水ブロック内の時系列氾濫ボリューム(湛水量)は下図(排水ブロック内の氾濫ボリューム:青線)に示すとおりである。当該箇所への浸水状況と配置可能台数を踏まえて、排水開始時間及び配置台数を下表に示す8パターン(排水開始4パターン×車両台数2パターン)で設定した。

項目	内容
1)排水開始時間	①決壊から12時間後:開始時氾濫ボリューム約162万m ³ ②決壊から24時間後:開始時氾濫ボリューム約64万m ³ ③決壊から36時間後:開始時氾濫ボリューム約56万m ³ ④決壊から48時間後:開始時氾濫ボリューム約53万m ³
2)排水ポンプ車配置台数	①2台(京浜河川事務所所有):30m ³ /min×1台+45m ³ /min×1台=排水量75m ³ /min(1日で108,000m ³) ②8台(配置可能箇所最大):30m ³ /min×7台+45m ³ /min×1台=排水量255m ³ /min(1日で367,200m ³)

排水開始時間	排水ポンプ車の排水なし	排水ポンプ車台数	
		2台	8台
12時間後	排水完了時間 約28日以上 (672h)	約5.2日 (124h)	約1.9日 (46h)
	短縮効果	—	約22.8日 (548h)
24時間後	排水完了時間 約28日以上 (672h)	約5.7日 (136h)	約2.4日 (57h)
	短縮効果	—	約22.3日 (536h)
36時間後	排水完了時間 約28日以上 (672h)	約6.1日 (146h)	約2.8日 (66h)
	短縮効果	—	約21.9日 (526h)
48時間後	排水完了時間 約28日以上 (672h)	約6.5日 (158h)	約3.3日 (78h)
	短縮効果	—	約21.5日 (514h)

【排水作業効果】

- 当該ブロックでは浸水による排水機停止(排水不能)の状況が発生し、浸水が長期化する結果となっている。
- 湛水ボリュームが162万m³程度と比較的小さいことから排水ポンプ車による排水効果は大きく、早期対応(決壊後12時間後排水開始)で配置可能車両を設置(最大8台)した場合には決壊後2日程度(排水作業時間34時間程度)での排水完了が見込まれる。
- 京浜河川事務所所有の2台で対応したとしても排水作業時間112時間程度(4.7日)での排水完了が見込まれる。



※浸水想定電子化データでは、決壊から69時間後が時系列データの最終である。

多摩川における自然再生事業

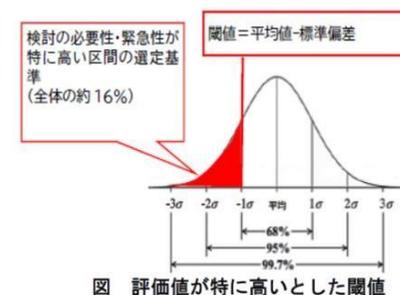
2. 河道の二極化対策の実施箇所【自然再生事業】（1）

- 洪水を安全に流下させるために必要な箇所等では、河道掘削に合わせて動植物の生息・生育・繁殖環境を保全しつつ、創出していく。
- 一方で、流下能力を満たすものの、土丹の露出や樹林化、河道の二極化など、治水・環境上の課題が大きい区間も存在することから、これら環境を改善するため、生息・生育・繁殖環境の保全・創出する。
- 自然再生事業として行う治水・環境上の課題が大きい区間については、2時期の河川環境情報に基づく変化の評価する「河川環境経年変化シート」※を用いて抽出した。

※「河川環境管理シートを用いた環境評価の手引き」令和5年7月（国土交通省水管理・国土保全局）

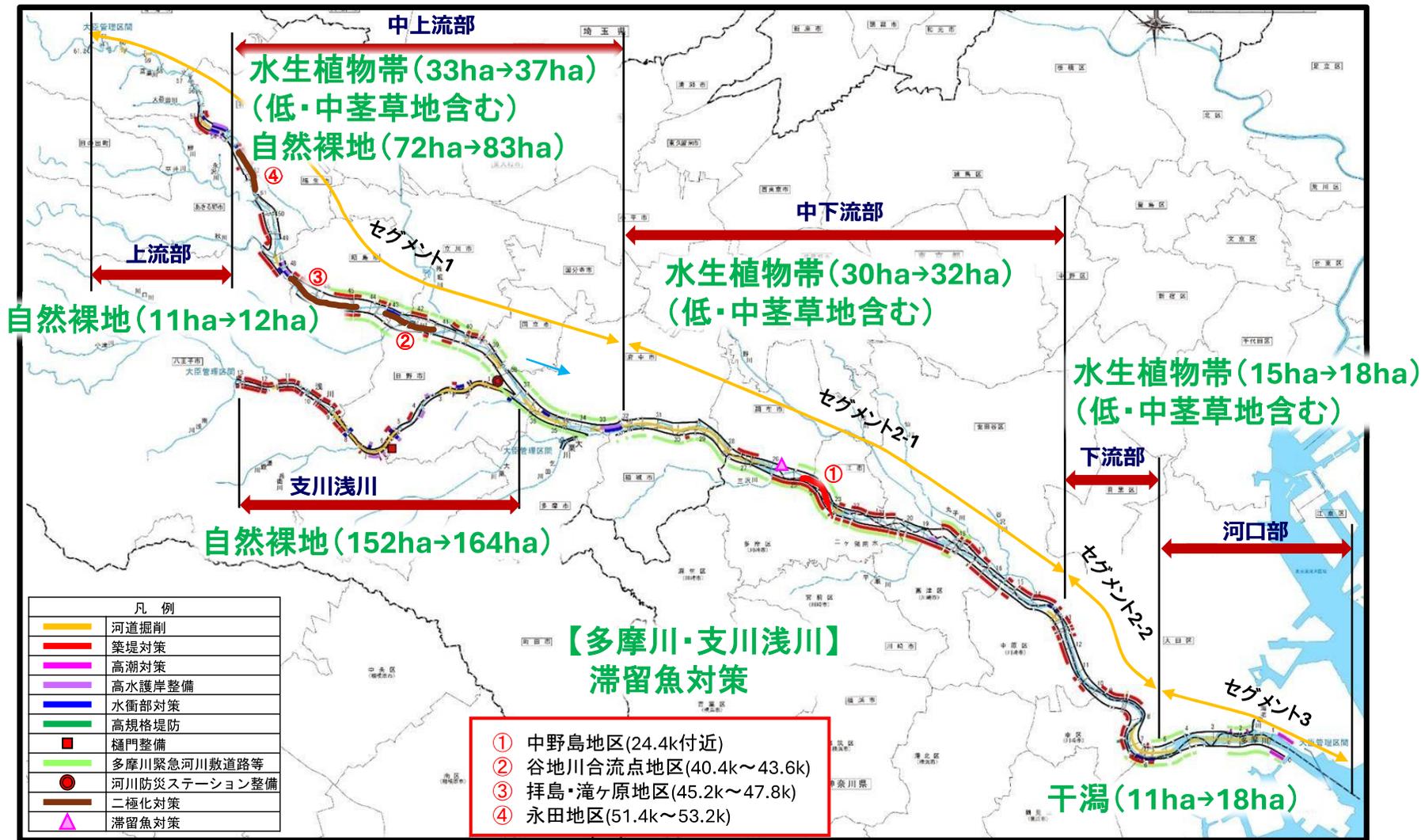
<実施箇所の選定>

- ◆ 平成27年度を評価原点として、令和2年度との生息場の規模の変化を評価する「河川環境経年変化シート」を作成。
- ◆ 河道掘削に合わせて生息・生育・繁殖環境を創出する区間は抽出から除外。（赤で網掛け）。
- ◆ 環境改善の必要性、重要性について、以下の方法により整理。
 - A. 環境改善の必要性：縦断区間ごとの代表区間との乖離が顕著な1 k p区間
 - B. 環境改善の重要性：2時期の総合評価点が顕著に変化した1 k p区間
 - ・上記の「顕著さ」は平均値-標準偏差（上位約16%）の定量値に基づく
 - ・代表区間：縦断区分ごとに最も環境が良好な区間
- ◆ 上記A、Bを基に、必要性または重要性の高い区間を抽出（緑で網掛け）。
- ◆ この抽出によって、多摩川河川環境管理計画に位置付けられている生態系保持空間や、二極化が問題となっている中上流区間を概ねカバーできる結果となった。
- ◆ なお、抽出した区間については事業規模も大きいことから、段階的に整備を行っていく。



2. 河道の二極化対策の実施箇所【自然再生事業】 (3)

- ◆ 各縦断区分における環境要素の創出面積及び整備計画における整備箇所を示した。
- ◆ 二極化対策が必要と認められる4箇所については赤線で示している。



3. 河道の二極化対策①中野島地区

- 多摩川24.0k付近の中野島地区では、河道の二極化が必要な箇所として評価された。
- 24.4k付近の横断面図の経年変化を確認すると、令和元年洪水における洪水流の直進化による水衝部となった河岸の深掘れが生じたことで、河道の二極化と評価された。
- 令和元年以降の横断面図経年変化により河床変化を確認すると、洗掘部は堆積傾向、高水敷部は侵食傾向になっていることから、河道の二極化対策の必要性は現時点では低いと考えられることから、対策の対象外とした。引き続き地形変化をモニタリングしていく。

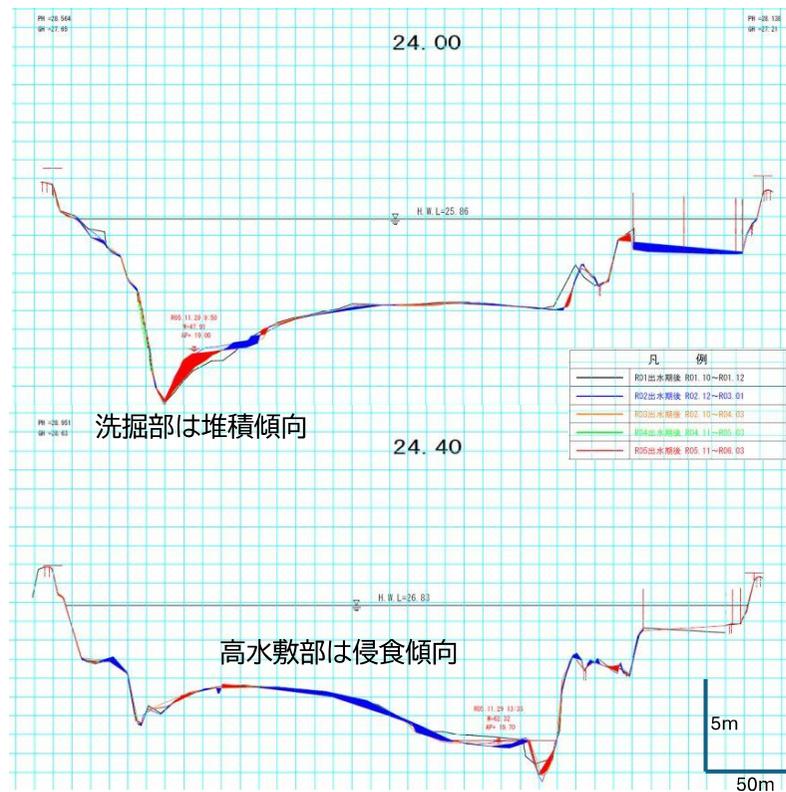


R1.10.13 (洪水時)



R4.11.14 (洪水3年後)

令和元年洪水以降（令和元年～令和5年）の横断面図経年変化

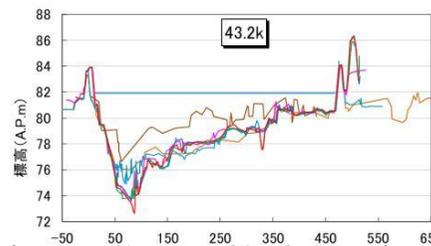
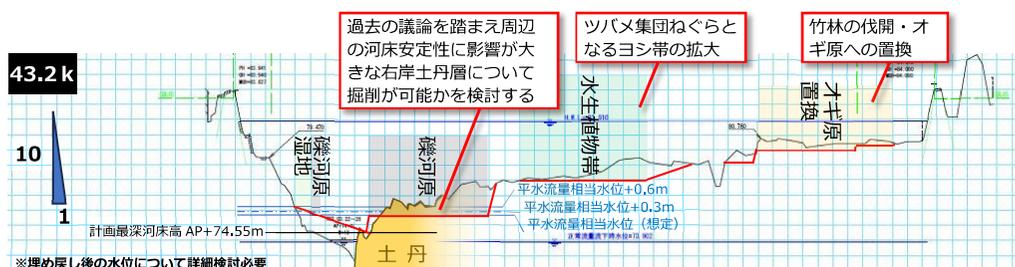
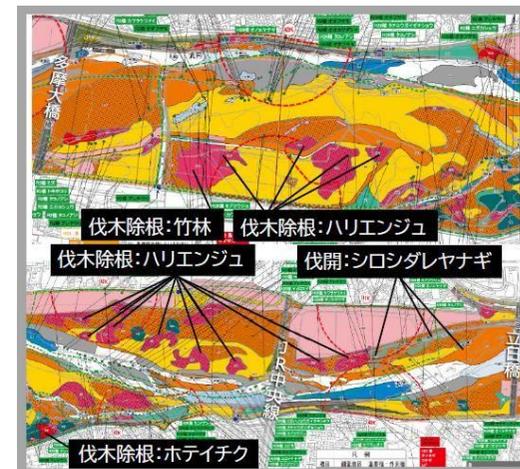


3. 河道の二極化対策②谷地川合流点地区

- 【環境上の課題】 土丹の露出に伴う礫分の流亡、土丹の露出による河床間隙の消失、ハリエンジュの樹林化による植物多様性の低下、ヨシ帯の減少によるツバメの集団ねぐらの減少、中流域の氾濫原環境の減少。
- 【今までの対策】 H26には同地区直上流の多摩大橋上流地区において礫河原再生や、谷地川合流点から右岸のクリークである「せせらぎ水路」が施工済みとなっている。
- 【これからの対策】 多摩大橋下流側の二極化範囲を対象に、**外来樹木群落を抑制し、土丹層の露出範囲への帯工の設置による礫河原の面積を拡大、既存のワンド・たまりを拡大**する。



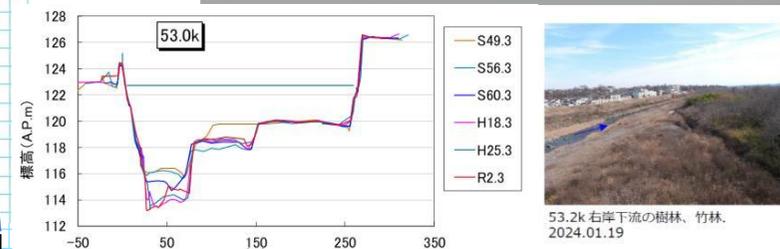
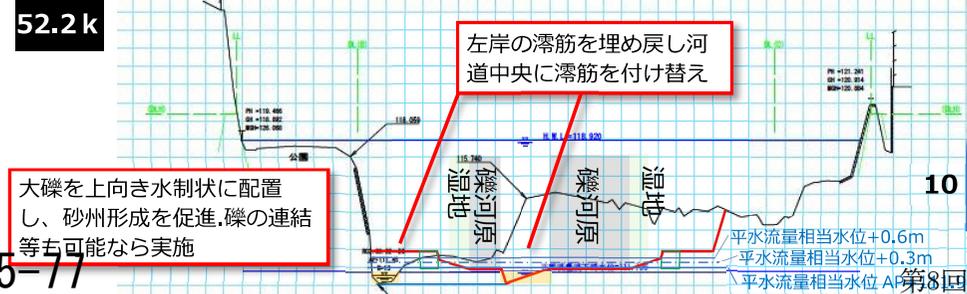
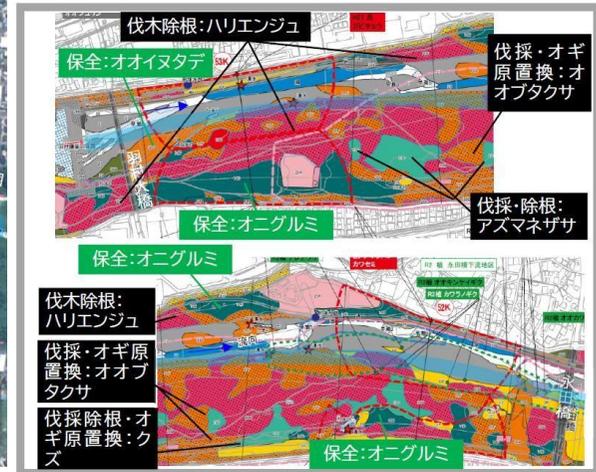
R6 (2024) .08.12 撮影



43.0k 右岸の土丹露出区間。2024.01.26

3. 河道の二極化対策④永田地区

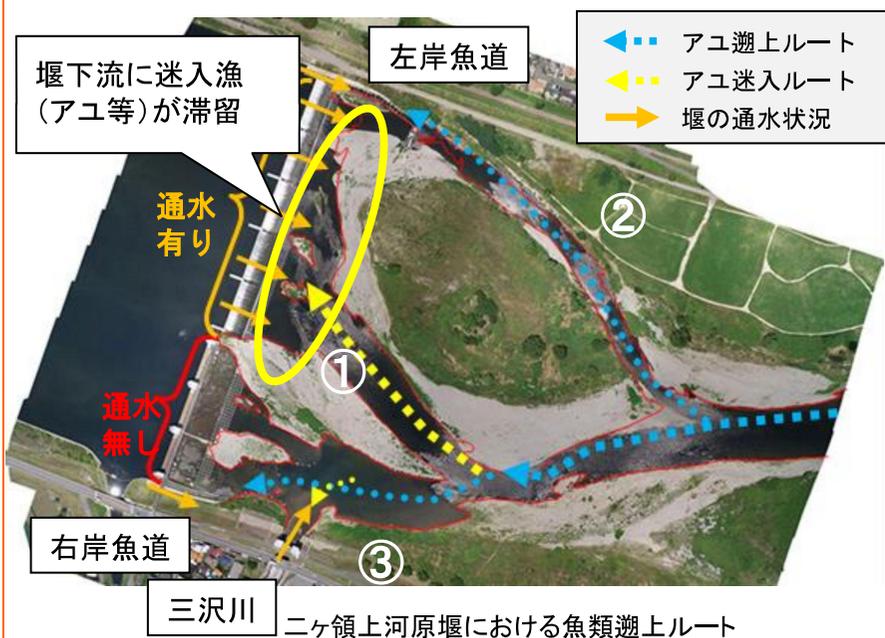
- 【環境上の課題】 土丹の露出に伴う礫分の流亡、土丹の露出による河床間隙の消失、ハリエンジュの樹林化による植物多様性の低下、中流域の氾濫原環境の減少、流水の減少(H6以降、羽村堰下流 $2\text{m}^3/\text{s}$)、カワラノギクの生息の減少。
- 【今までの対策】 H12～H13及びH22に礫河原再生工事として表土掘削・伐木伐根を行い、市民団体、自治体、大学と連携しカワラノギク保全活動を行っている。
- 【これからの対策】 羽村第二床固下流から永田橋間を対象に、右岸の固定砂州を開削して澇筋を河道中央に寄せるとともに外来樹木群落を抑制し、左右岸へのバープ工の設置により澇筋の直線化を抑制しながら礫河原の面積を拡大する。永田橋上流右岸にはカワラノギクの保全草地が存在するため対策を行う。



4. ニヶ領上河原堰における滞留魚対策について【自然再生事業】

- 多摩川の河口から小河内ダムの区間は、魚道が整備され、魚の遡上・降下が可能になったものの、ニヶ領上河原堰など一部の横断工作物では、魚道に気づけなかった魚類が堰直下に滞留し、遡上が困難な状況がある。
- 魚類が堰直下に向かってしまう要因が魚道の下流の流速が低いことであると推察し、中央の流量を右岸側へ導水し、流量及び流速を増加させ、魚類の集魚機能を向上させる試行(案)を予定

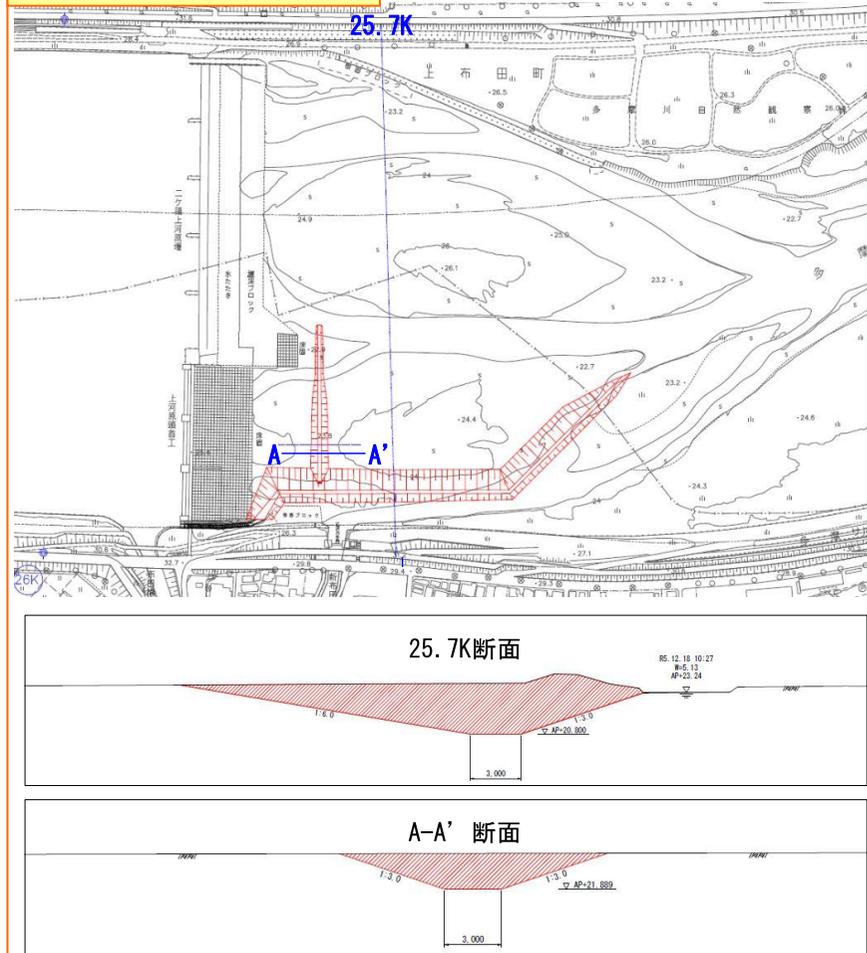
ニヶ領上河原堰の滞留魚状況



- 堰下流には、大きく3つの流路が形成されている。
- 通水がある稼働堰の越流水は①の流路が主流路となっている。
- ②、③の流路は①流路と比べ、流速が遅く、集魚機能が低い
- ①流路を遡上したアユは左右岸の魚道入口よりも上流に迷入してしまうため魚道入口が見つけれず堰下流に滞留してしまう。

5-78

滞留させない対策試行(案)

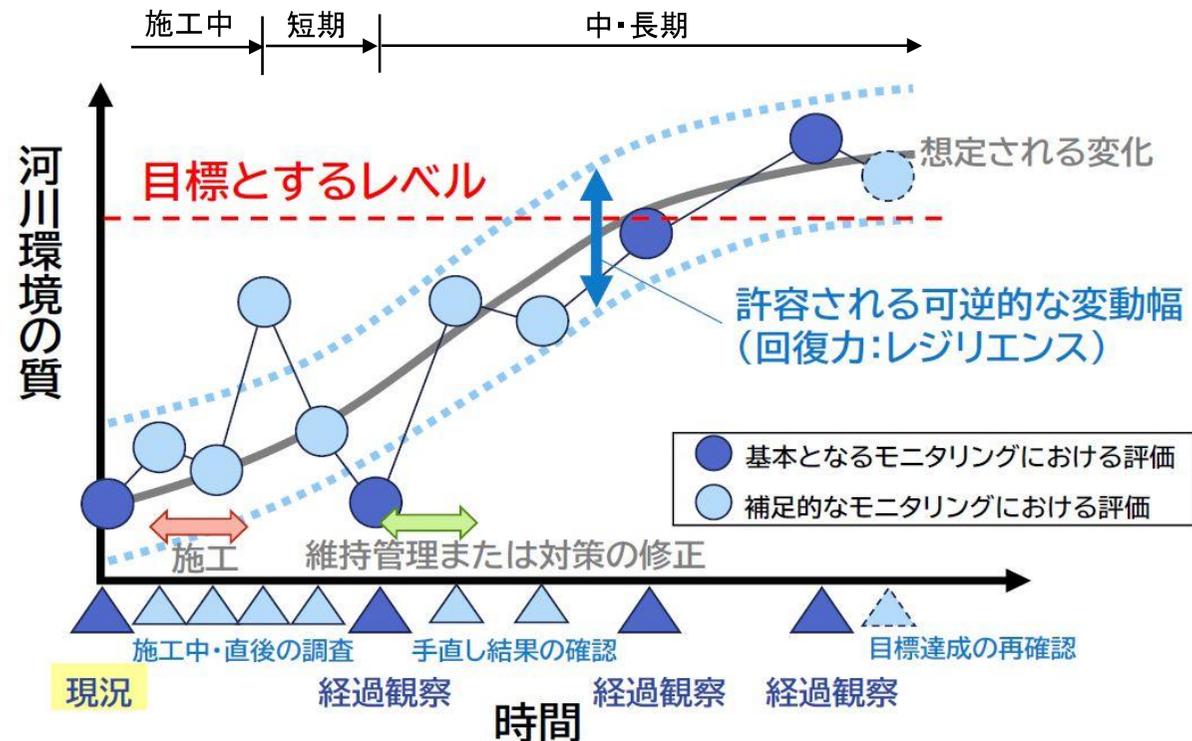


中央の流量を右岸側へ導水することで、魚道下流の流速を増加し、魚道への導きを促すことを目的とした試行(案)を予定 27
 第8回多摩川河川整備計画有識者会議(令和7年7月8日) 資料-4

河川環境の定量目標に関する モニタリング計画（案）

1. 定量目標に関するモニタリングの基本的な考え方

- 生息場の創出面積の目標設定に向けた進捗確認は、専門家の意見を伺いながら、生息場の質の関係性が深い種に着目したモニタリングを実施する。
- 局所的には変化しつつも、河川全体として安定的に維持される順応的管理を目指すため、短期的・局所的な変化だけで目標達成の判断をするのではなく、河川環境を広い範囲で中長期的に把握する。
- 治水事業、自然再生事業による整備箇所を基本とし、短期モニタリングと中長期モニタリングの段階に分けて実施する。

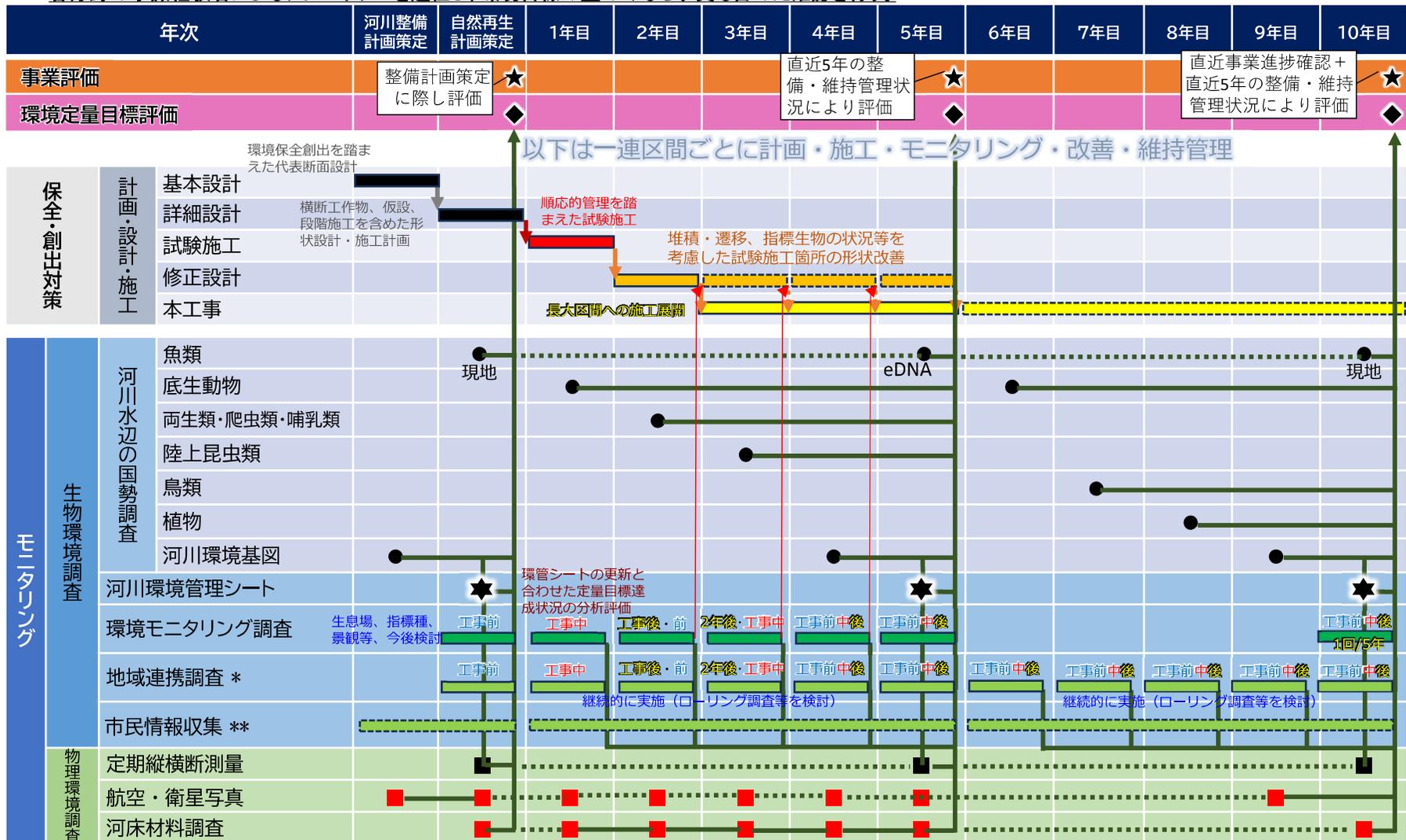


引用：中村太士・辻本哲郎・天野邦彦監修・河川環境目標検討委員会編集「川の環境目標を考える―川の健康診断―」
技報堂出版、東京、2008

2. 定量目標のモニタリング計画(ロードマップ)

- 河川水辺の国勢調査によるデータの整備や河川環境管理シートの整備、評価タイミングとなる河川整備計画の点検(事業評価)のタイミング、関係者の意見聴取等を踏まえ、設定したロードマップ(素案)を以下に示す。
- なお、洪水発生時には洪水規模に応じた河川環境の変化を捉えるため、洪水後の物理環境の変化及びそれによる生物の応答を確認する。
- 各分野の学識経験者によるアドバイザーを選任し、環境目標の量のみならず質も含めた確認を行う。

● : 既往モニタリング
■ : 追加項目



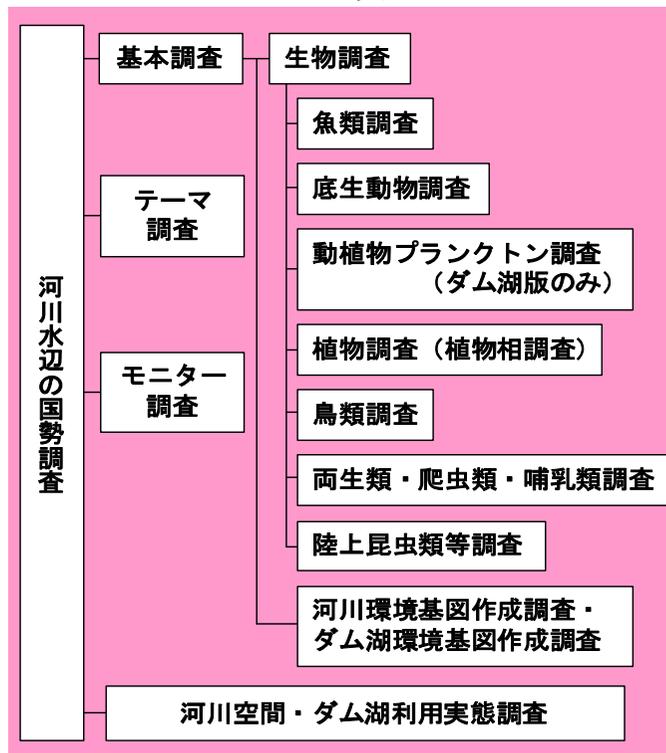
* 流域治水推進パートナー制度、河川協力団体等

** 川サポ-たる等

5-81

3. モニタリングの方法(1)水辺の国勢調査

- 直轄管理区間で定期的、継続的、統一的な河川環境に関する基礎情報を収集
- 平成2年から調査を開始し、現在7巡目（鳥類調査等は5巡目）
- 調査結果を基に「河川環境情報図」を作成し、計画、施工、維持管理で活用
- 「河川環境管理シート」等の基礎データとしても活用



測定項目	測定頻度	実施状況
魚類	10年1回 (うち、環境DNA5年1回)	7巡目調査 実施中
底生動物	5年1回	
植物(植物相)	10年1回	5巡目調査 実施中
鳥類	10年1回	
両生類・爬虫類・哺乳類	10年1回	
陸上昆虫類等	10年1回	7巡目調査 実施中
河川・ダム湖環境基図作成	5年1回	
河川空間利用実態	5年1回	

3. モニタリングの方法(2)市民等が参加した河川環境モニタリング

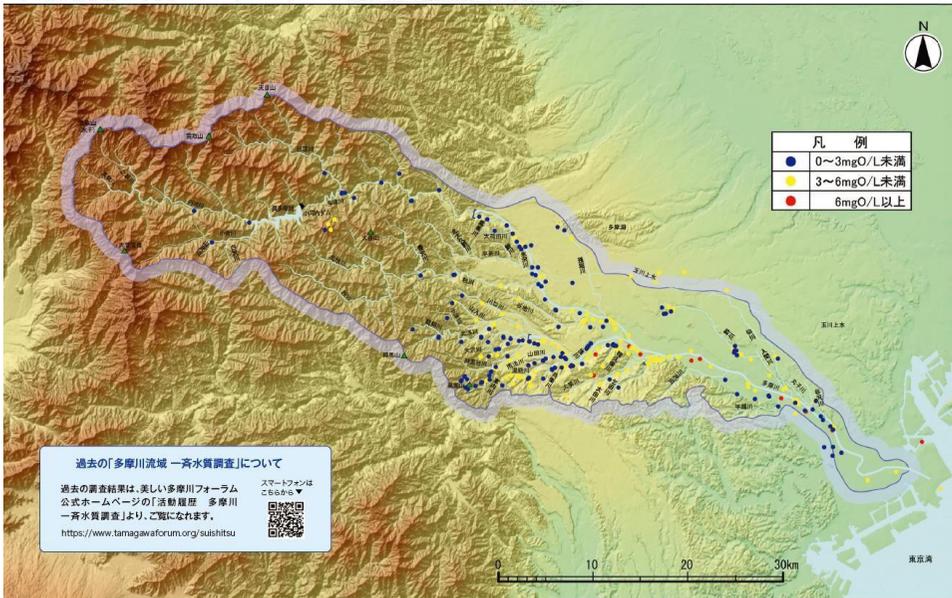
- 多摩川では市民ボランティア団体等による河川環境モニタリングの取り組みが行われており、河川管理者としても支援していく。
- 環境モニタリング等により得られた調査結果により、更なる環境データの充実を図るとともに、GIS化等によりデータベースの整備を行い、インターネット等を活用した情報提供体制を充実させる。

多摩川流域の一斉水質調査

- 多摩川流域では、1988年から市民自らが身近な河川の水質調査（多摩川流域の一斉水質調査）を実施している。

多摩川流域の水質マップ(COD)

2024年度実施
第21回身近な水環境の全国一斉調査と連携



過去の「多摩川流域一斉水質調査」について
過去の調査結果は、美しい多摩川フォーラム
公式ホームページの「活動履歴 多摩川
一斉水質調査」より、ご覧いただけます。
<https://www.tamagawaforum.org/suishitsu>

発行者:美しい多摩川フォーラム
協力:全国水環境マップ実行委員会

出典:国土環境院発行「2022年版

水辺の楽校によるガサガサ、干潟観察会

- 多摩川にある水辺の楽校では、ガサガサ、干潟観察会といったイベントを開催し、確認された種を記録している



とどろき水辺の楽校
H25.1登録～
・安全教室&カヌー体験
・ガサガサ など

だいし水辺の楽校
H22.8登録～
・干潟観察会
・ハゼ釣り教室 など



5-83 水質分析中



パックテストの実施



調査結果の記録

【出典】令和7年1月1日第8回第4回多摩川河川整備計画有識者会議資料38より資料再掲

4. モニタリングの方法(3)市民等と連携した河川環境モニタリング

- 支川浅川との合流点や永田地区では、自治体、市民・環境団体と連携し、河原植物の保全対策として外来植物除去作業等を行っている。
- 多摩川が有するかけがえのない自然や文化を子々孫々に継承すべく、関係自治体や流域住民等との共通認識のもと、生態系保持空間を拠点として進める自然再生や、治水と環境の調和を図った多自然川づくりを推進し、かつての良好な河川環境の保全・創出を図る。

市民連携によるシナダレスズメガヤ除去作業（浅川合流点）

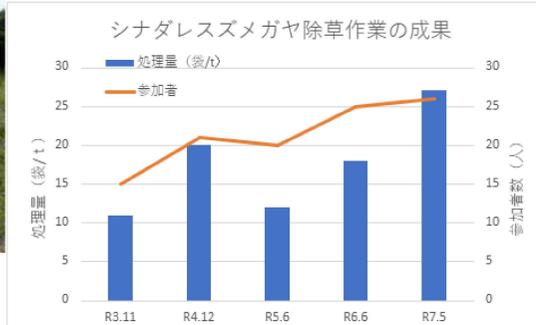
- 浅川合流点において、カワラヨモギやカワラサイコなど砂礫河原特有の植物が、シナダレスズメガヤなどの外来種の繁茂により減少している。
- H27年度から、市民団体、自治体、河川管理者が連携して外来植物の除去作業を行い、砂礫河原の維持を行っている。



実施状況



河原植物に気を付けながら、シナダレスズメガヤの芽生えを人力伐根



5-84

市民連携による「カワラノギクプロジェクト」

- 多摩川でかつて最大のカワラノギクの個体群のあった生育地において、市民、研究者、行政が連携し、将来的には、人の助けがなくてもカワラノギクが存続できるように行っている保全活動。（平成13年度から実施）
- 現在、生育地において妨げとなるハリエンジュなどの外来植物を除草する作業を年間3回と個体数確認、種の採取作業を行っている。



5. 河道の河床材料が与える繁殖環境への影響(①指標種が好む繁殖環境の例)

- 河道を構成する河床材料の特性が、動植物の生息・生育・繁殖環境に影響するものである。
- 定量目標の自然裸地（礫河原）に依存する指標種について、繁殖環境に最適な粒径として、例えば、イカルチドリが比較的小礫～中礫を好む等の知見がある。
- 礫河原の創出後における生息・生育・繁殖環境の評価方法として、河床材料による質的な評価も実施する。

自然裸地（礫河原）に依存する指標種が生息・生育・繁殖環境として好む河床材料

指標種	指標種が好む 生息・生育・繁殖環境
イカルチドリ 	比較的幅広い粒径に営巣するが、出現割合が比較的高いのは小礫～中礫（直径1～10cm） ¹⁾ 粒径8cm以下までの複数のサイズの礫で構成された砂礫地を好む傾向 ²⁾
コアジサシ 	砂の割合が高く、礫・角礫の割合が低い土質の場所に作られる巣が多い。 ³⁾
カワラニガナ 	細粒土砂やリターの堆積が相対的に少なく、丸石が多い箇所 ⁴⁾

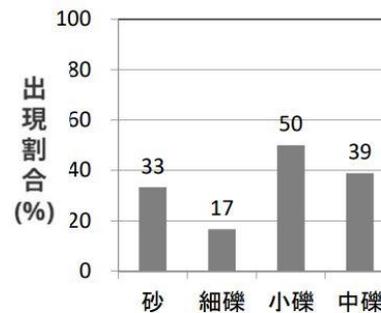


図 2.2.3 イカルチドリの繁殖期の出現割合 (各カテゴリーで18回調査を実施)¹⁾

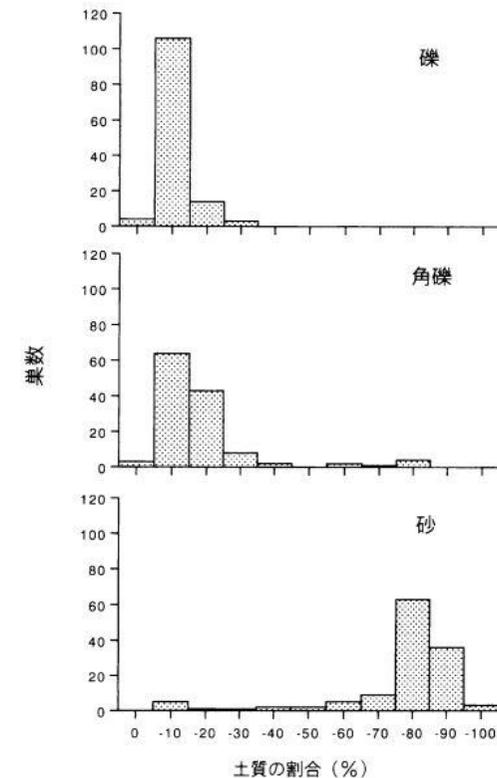


図-4 コアジサシの営巣場所の土質の割合の頻度分布³⁾

リター：森林において地表面に落ちたままで、まだ土壌生物によって堆積した層

1) 益子美由希、舟久保敏：鳥類の良好な生息場の創出のための河川環境の整備・保全の考え方、国土技術政策総合研究所資料第1094号・土木研究所資料第4395号、2020.2

2) 笠原里恵：ダム貯水池の有無による河川中流域の砂礫環境の違いと、砂礫地を利用する鳥類の分布との関係、WEC応用生態研究助成採択研究成果概要書、2013-05

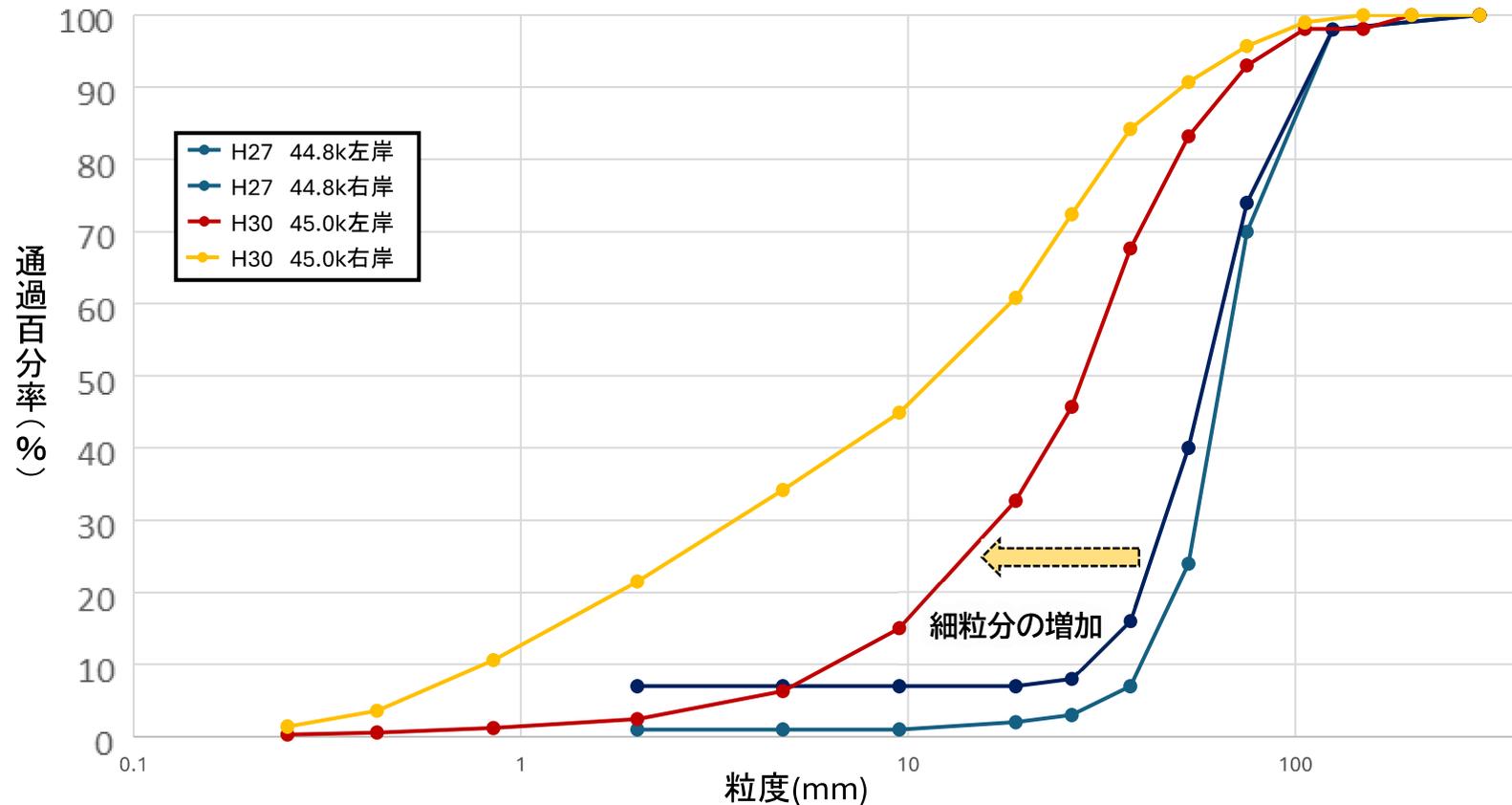
3) 東陽一：コアジサシの営巣環境条件と集団繁殖地の保全策、ランドスケープ研究61巻5号、1998

4) 味高志・大平充：生態系ネットワークのインターフェースとしての礫河原：流域の時空間スケール整理、日緑工誌44(3)、2019

5. 河道の河床材料が与える繁殖環境への影響(②谷地川合流点における粒度分布)

- 谷地川合流点地区において平成27年と平成30年に行った河床材料調査（粒度分布）結果では、平成27年の40～70mmから平成30年には細粒分が増加する傾向がみられる。
- 1～10mmの粒径を好むイカルチドリや、細粒土砂分が少ない環境を好むカワラニガナにとっては、細粒分が増加することで、繁殖環境の質が劣化していると評価される。

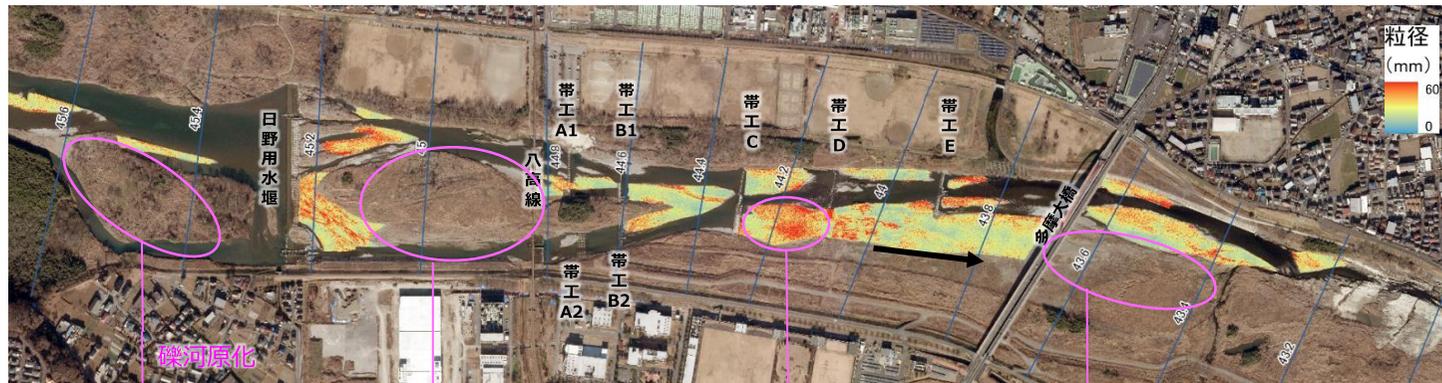
例) 多摩川45.0k付近の粒径加積曲線



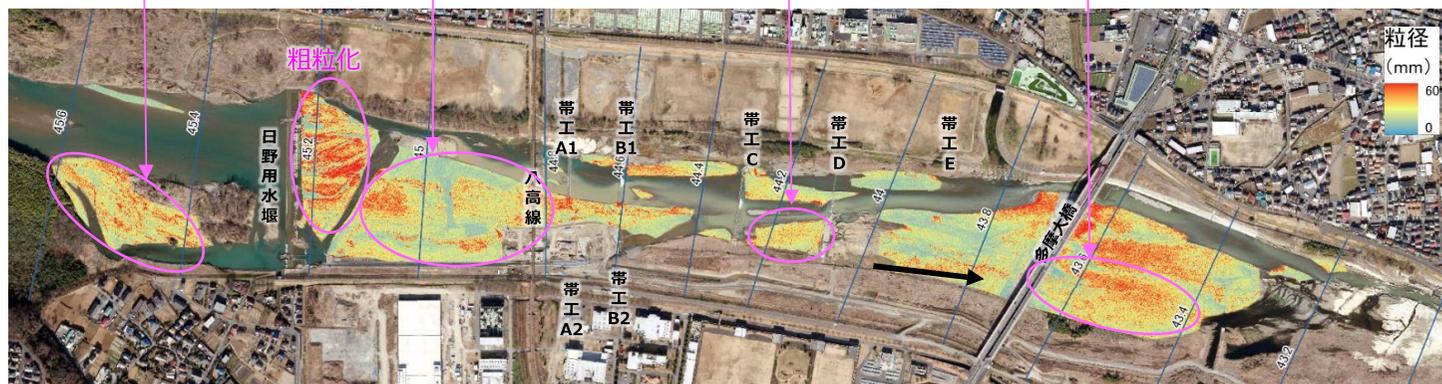
5. 河道の河床材料が与える繁殖環境への影響(③河床材料調査の省力化)

- 河床材料調査については、現地における線格子法又は面格子法により粒度分布調査を標準としている。
- 現地調査の省力化を図るため、航空写真画像データから河床材料の粒径を推定する技術もあることから、調査にあたっては、最新の技術を用いながら省力化を図っていく。

令和元年洪水前：平成31年1月12日



令和元年洪水後：令和2年2月2日



作成方法：航空写真の画像データから、空間解像度20cm、ウィンドウサイズ※ 3×3 画素で河床材料の大きさを絶対値でスケール評価した後、現地調査の粒径をもとに変換して表示。

※ウィンドウサイズ：ある地点の画像の粗さについて、どの程度の範囲を含めて算出するかを示したもので、値が大きくなるほど粗さを決める範囲が広がる。

多摩川水系河川整備計画 参考資料 (利用状況マップ)

令和7年9月30日
国土交通省 京浜河川事務所

多摩川ふれあい施設整備状況

※本資料は、多摩川水系河川整備計画附図(平成13年3月(平成29年3月変更))から令和7年9月時点の施設整備状況を整理したものである。

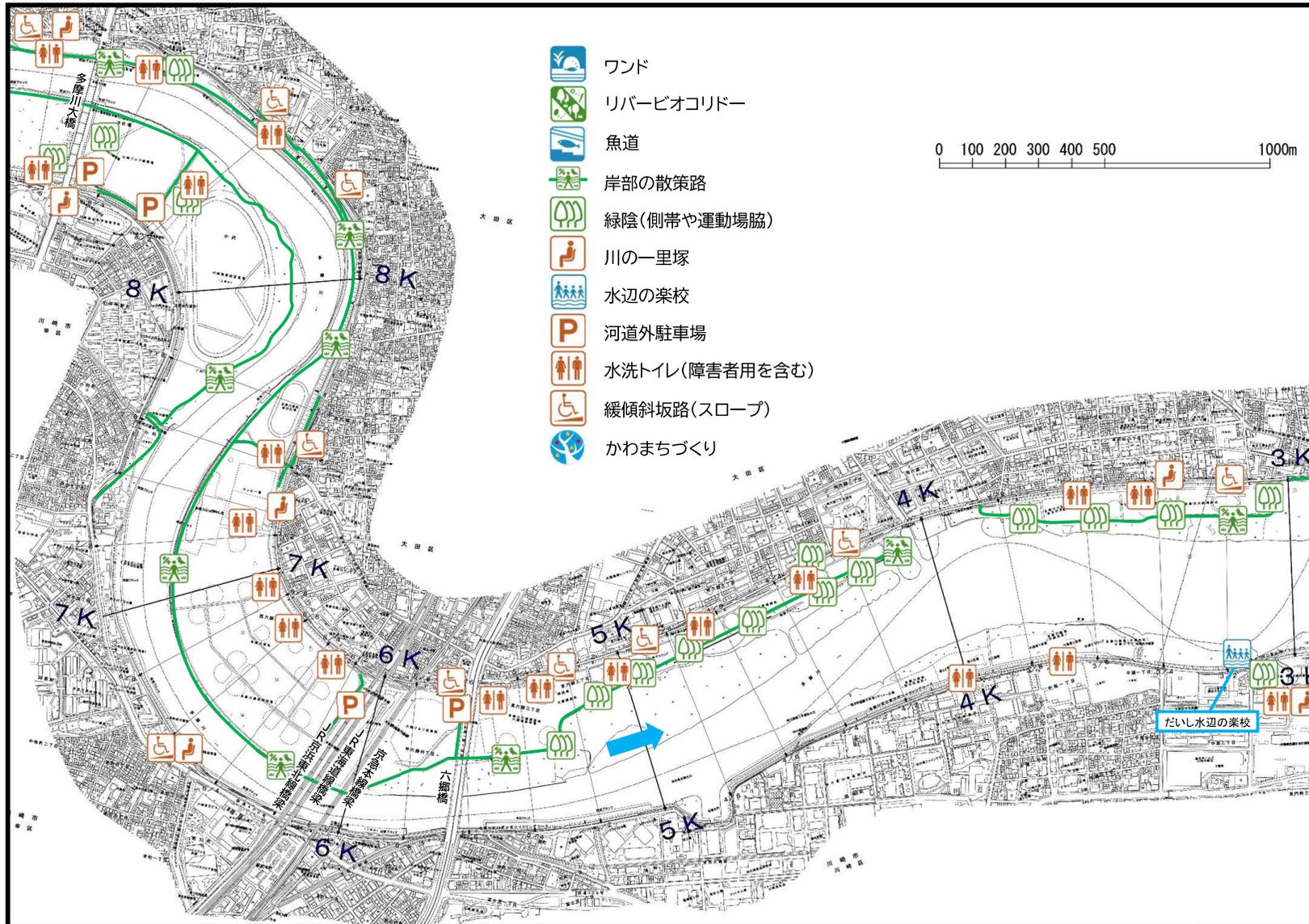
今後、多摩川河川環境管理計画の見直しにあたり、人と河川との豊かな触れ合い活動の場の保全・創出において関係機関協議の参考資料とするものである。

多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 多摩川 01

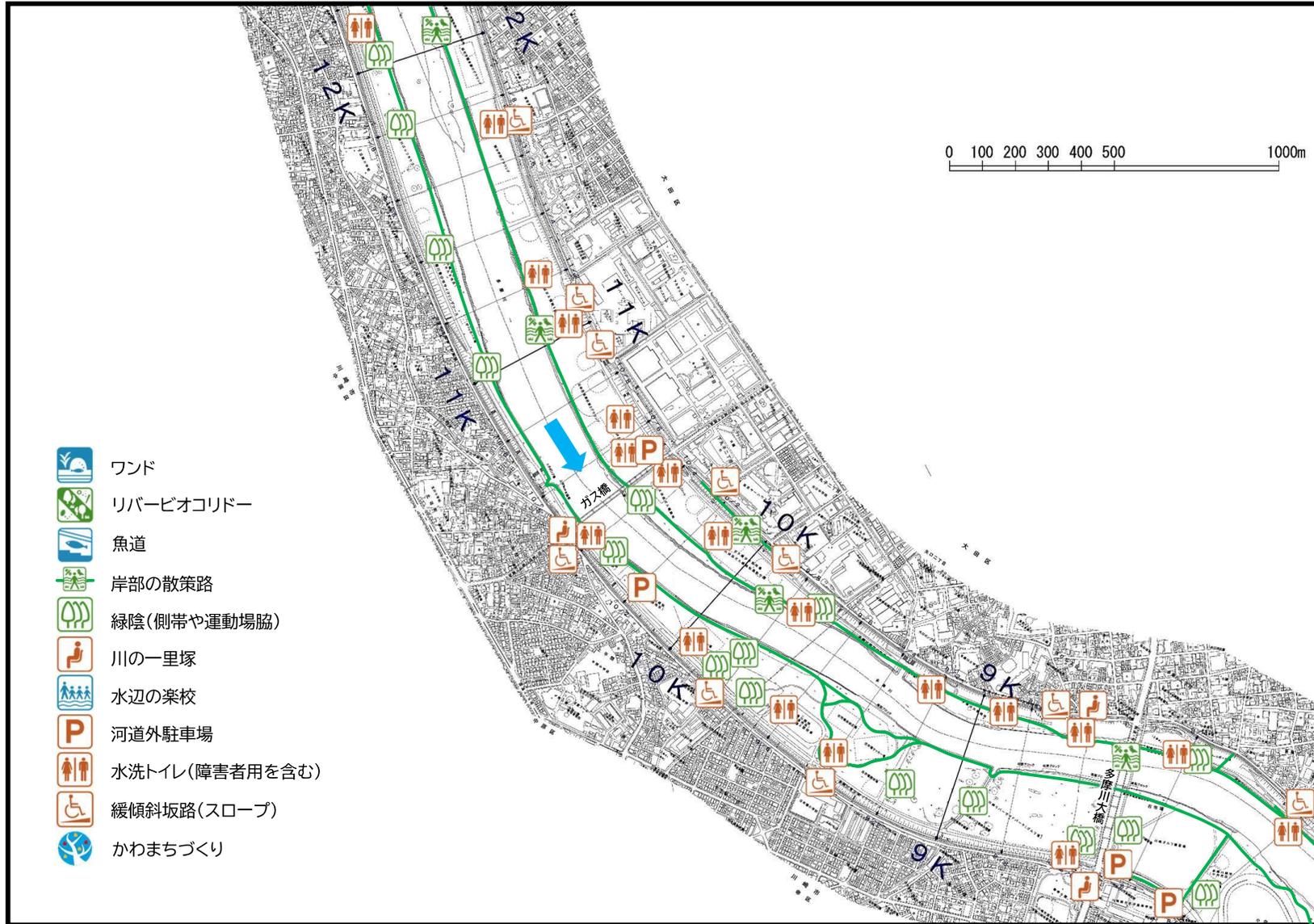


多摩川ふれあい施設整備状況図



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 多摩川 03

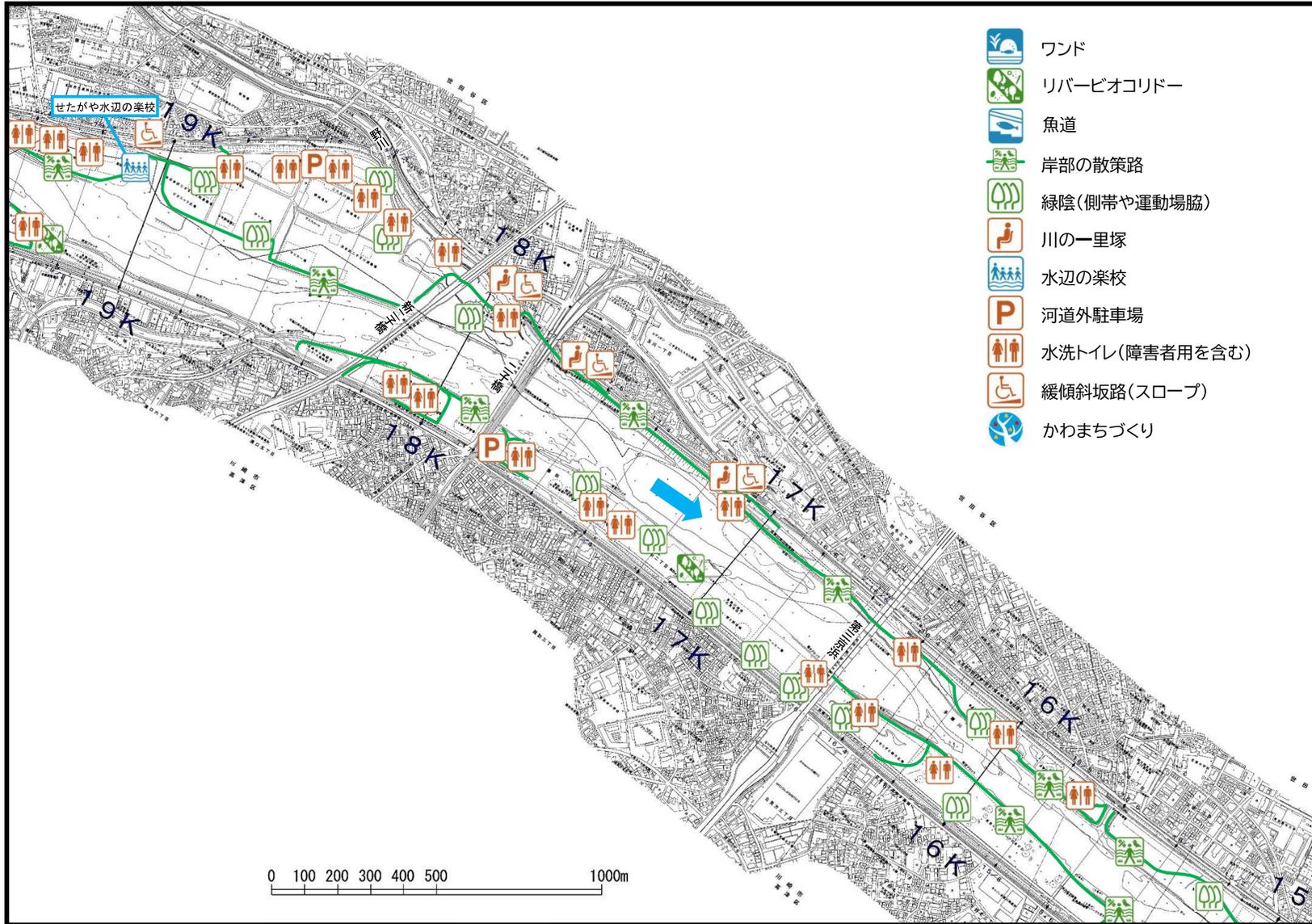


多摩川ふれあい施設整備状況図

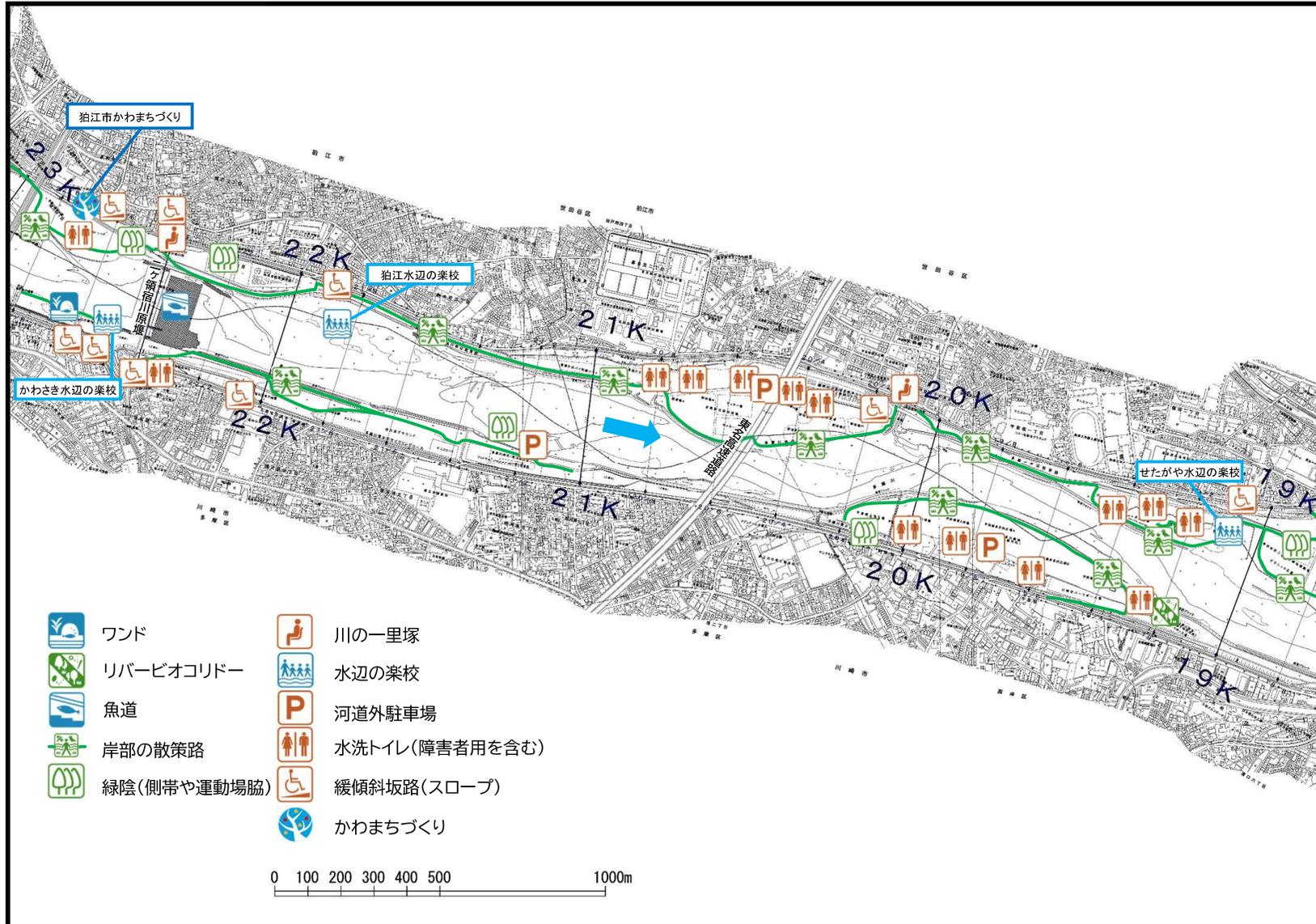


多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 多摩川 05



多摩川ふれあい施設整備状況図



多摩川ふれあい施設整備状況図



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 多摩川 08



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 多摩川 09



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 多摩川 10



多摩川ふれあい施設整備状況図



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 多摩川 12

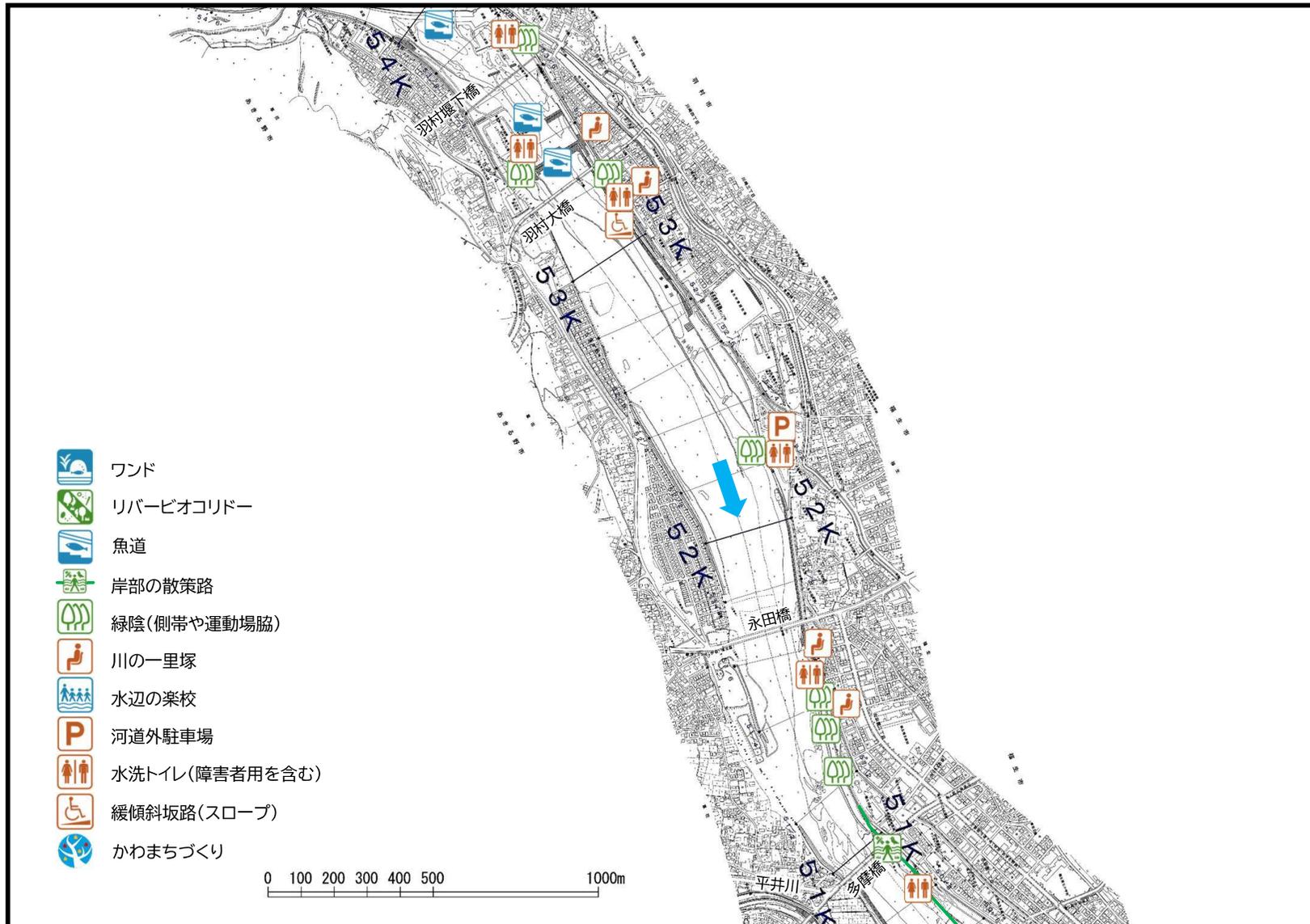


多摩川ふれあい施設整備状況図

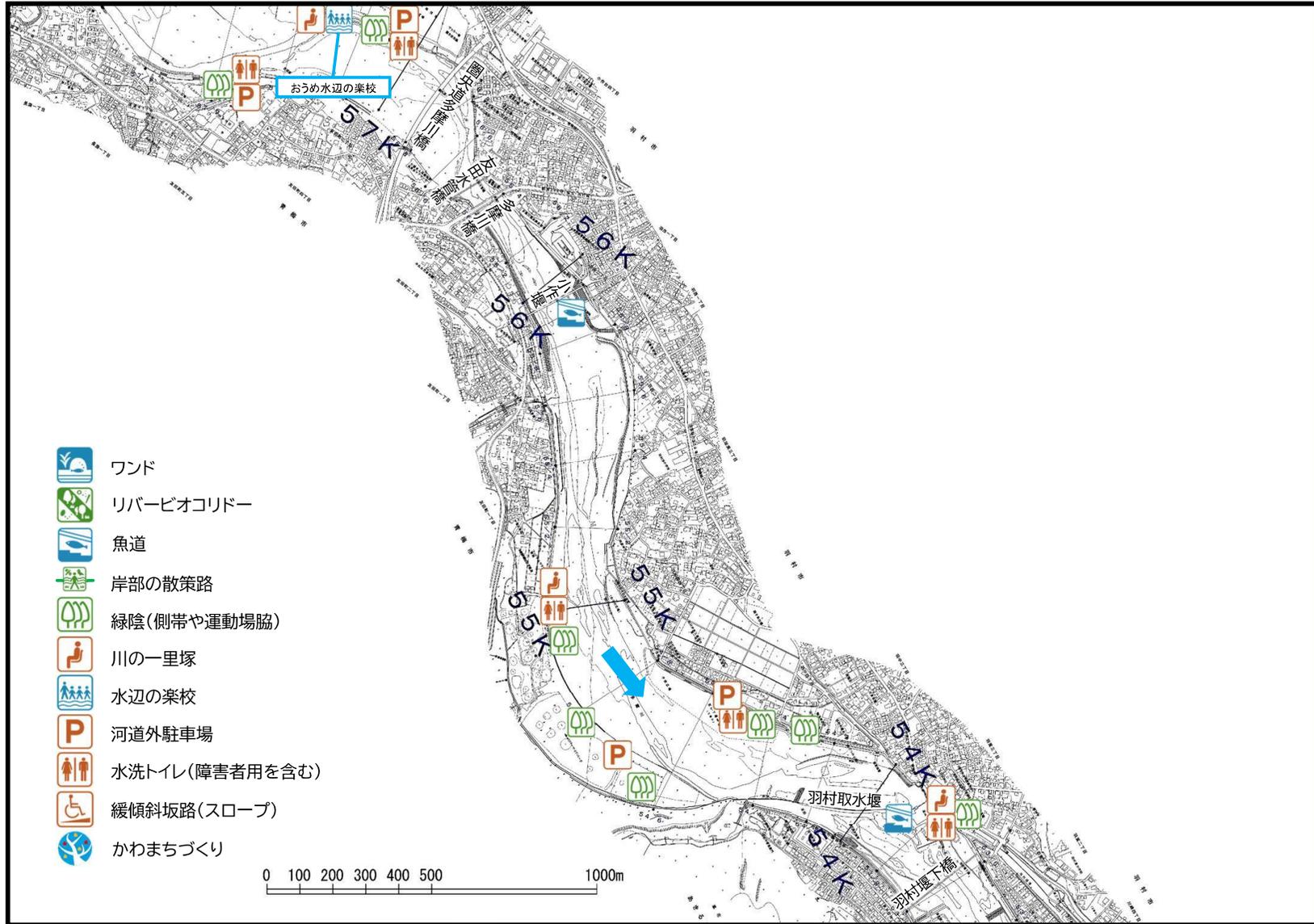




多摩川ふれあい施設整備状況図



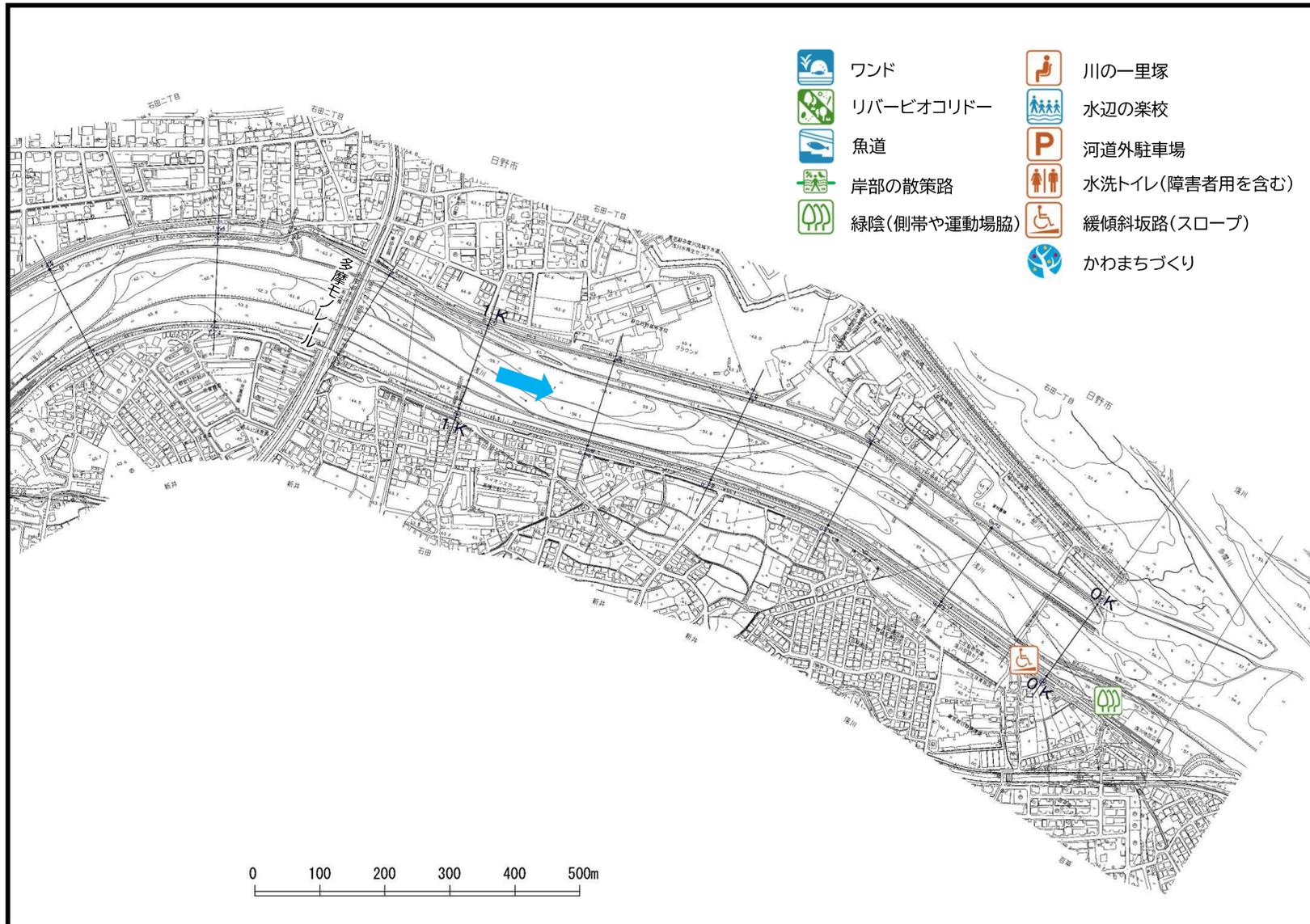
多摩川ふれあい施設整備状況図

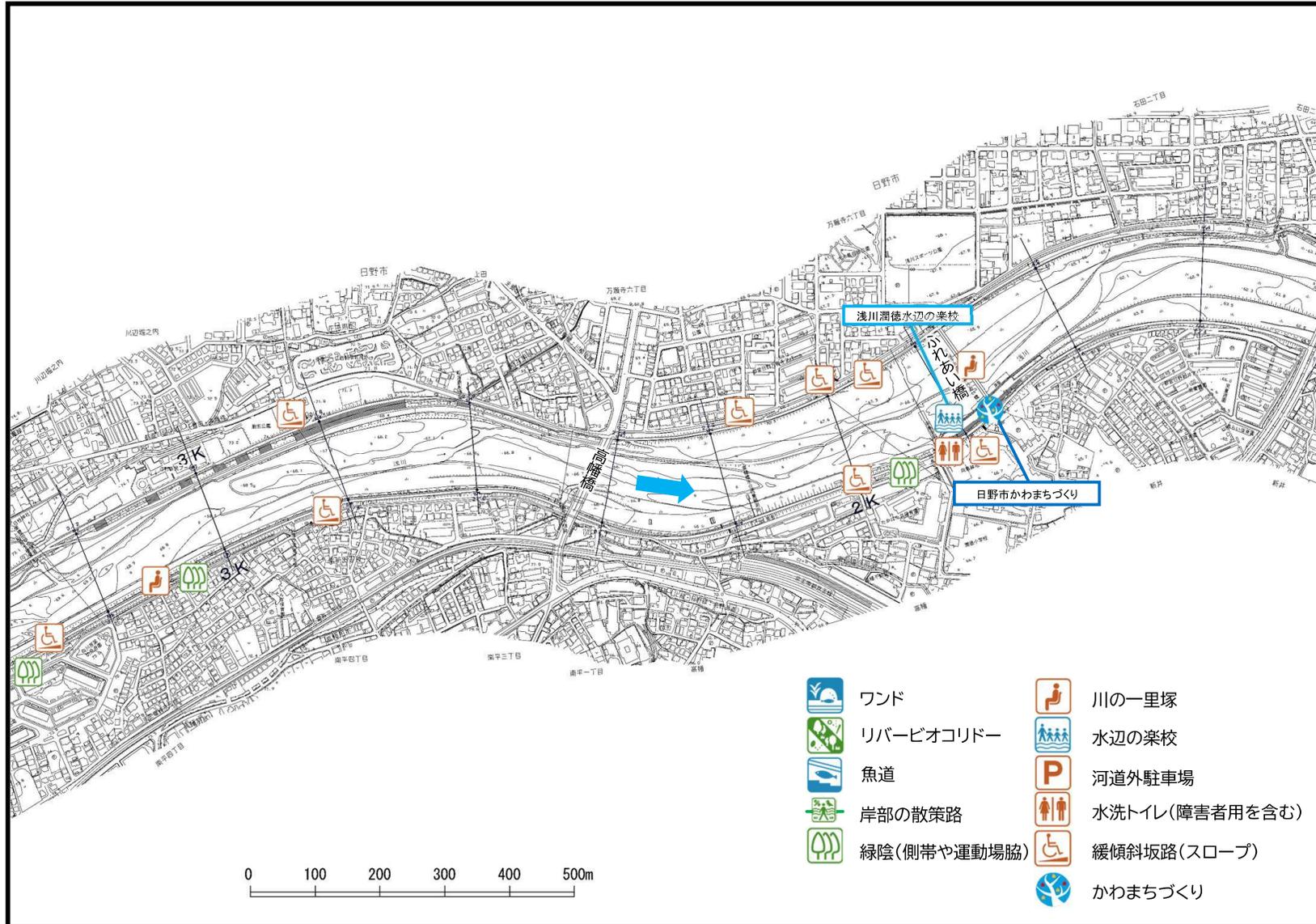


浅川ふれあい施設整備状況

多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 浅川 01





多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 浅川 03



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 浅川 04



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 浅川 05



多摩川ふれあい施設整備状況図



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 浅川 07



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 浅川 08



多摩川ふれあい施設整備状況図

多摩川水系 浅川 09

